

太子堂遺跡 36

〈第1次調査・第2次調査報告書〉

1993年

財団法人 八尾市文化財調査研究会



太子堂遺跡

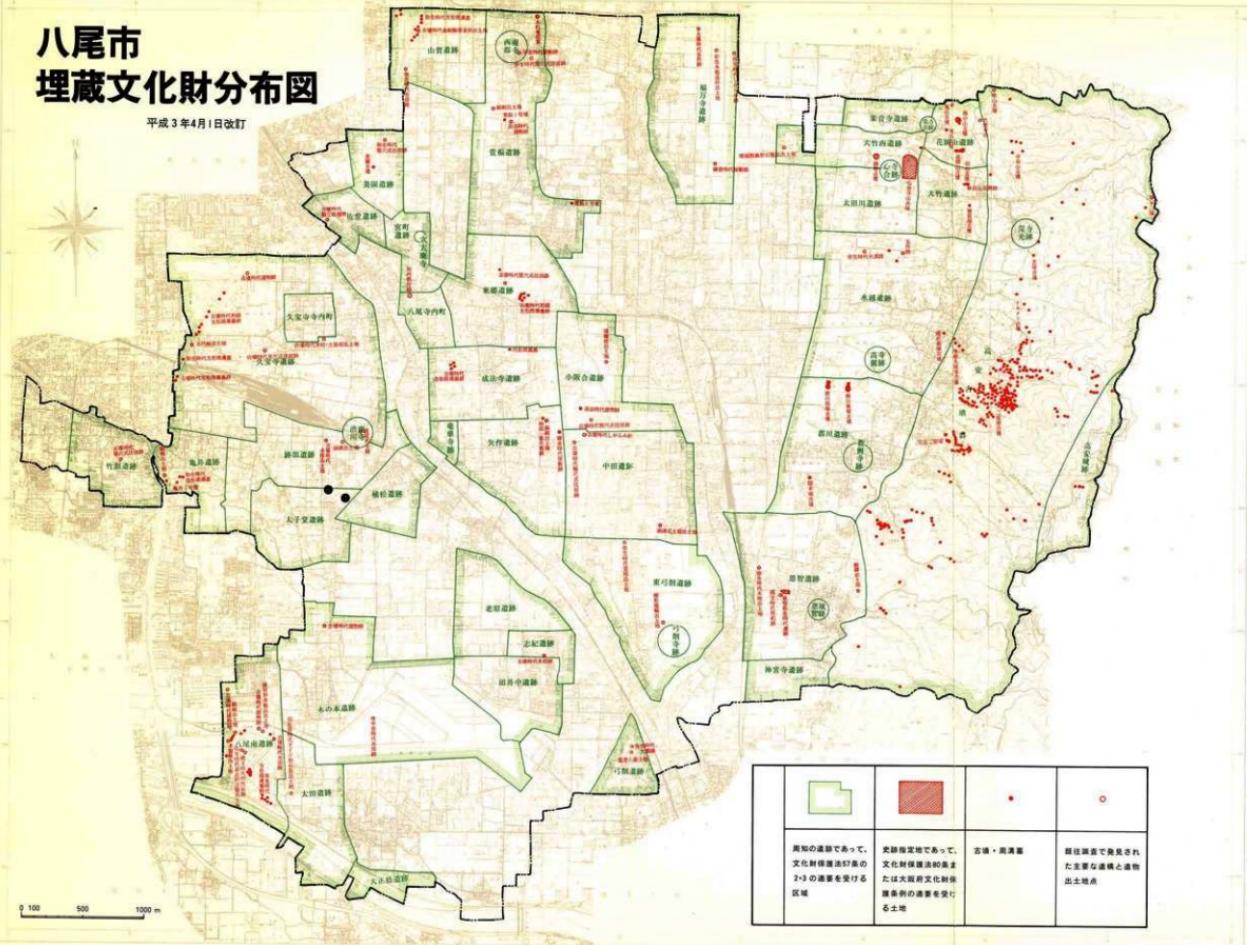
＜第1次調査・第2次調査報告書＞

1993年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

八尾市 埋蔵文化財分布図

平成3年4月1日改訂



周辺の道路であって、 文化財保護法の範囲 の2-3の道を受ける 区域	史跡や古墳であって、 文化財保護法の範囲 または大正府の文化財保 護法の範囲を受ける 土地	古跡・古墳	既往調査で発見され た主要な道線と遺物 出土地点

はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、旧大和川が形成した河内平野の中心部にあたります。古くから人々の生活や活動の場として栄えていた地域であり、現在でもそれらの先人が残した貴重な文化遺産が数多く遺存しております。

近年、都市開発が進み各種土木工事等が増加するなかで、これらの重要な文化財が破壊され失われる危険にさらされています。そこで私共では、これらの文化遺産を後世に長く伝えるため事業者の協力を頂き、事前に発掘調査を行い、その記録保存に努めているところです。

今回、昭和58年度に実施しました太子堂遺跡の第1次調査及び第2次調査の整理が完了しましたので、ここに報告書として刊行することに致しました。本遺跡は、ことにその名から聖徳太子との関わりがひじょうに深く、「大聖勝軍寺」や「物部守屋墳」等の史跡に代表される蘇我・物部戦争遺跡地として広く人々から知られているところであります。今回の発掘調査では、古墳時代から奈良時代・中世に至るまでの各種の遺構・遺物が検出され、本遺跡を解明する上での貴重な知見を得ることができました。この書が地域史の一資料となり、文化財保護への一層の御理解と認識を深めていただけることになれば望外の喜びとするところであります。

最後に、この調査を実施するにあたり御協力を賜りました事業者をはじめとして、関係機関の方々に心より謝意を表すると共に、今後とも当調査研究会に対する御支援・御協力をお願いする次第です。

平成5年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会
理事長 福島 孝

序

1. 本書は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、昭和58年度・平成2年度に実施した発掘調査成果の概要報告を収録したもので、内業整理および本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、平成5年3月31日をもって終了した。なお、報告書の末に八尾市教育委員会からの指示書を掲載した。
1. 本書に収録した調査報告は、下記の目次のとおりである。
 1. 本書の構成・編集は岡田清一が行い、文責は各例言に明示した。
 1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1（昭和57年11月1日発行）・八尾市教育委員会発行の「八尾市埋蔵文化財分布図」（平成3年4月1日改訂）をもとに作成した。
 1. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面である。
 1. 本書で用いた方位は、磁北を示している。
 1. 遺構は下記の略号で表した。
溝 —— SD 井戸 —— SE 土坑 —— SK 小穴 —— SP
落ち込み —— SO 土器集積 —— SX
 1. 実測図の縮尺は、遺構が20分の1・40分の1・50分の1・60分の1とし、遺物は6分の1、4分の1、3分の1とした。
 1. 遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。
土師器-白、須恵器-黒、石製品・木製品-斜線。
 1. 各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

目 次

はしがき

序

八尾市埋蔵文化財分布図

I 第1次調査(TS83-1).....	1
II 第2次調査(TS90-2).....	65
III 指示書.....	99

I 第1次調査(TS83-1)発掘調査概要報告

例　　言

1. 本書は、八尾市東太子2丁目1他で実施した共同住宅建設工事に伴う発掘調査報告である。
1. 本書に報告する太子堂遺跡第1次調査（TS 83-1）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が東興殖産株式会社・スミトー建設株式会社から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は昭和58年6月6日～10月27日にかけて、駒沢敦を担当者として実施した。調査面積は3,393m²を測る。なお、調査においては大地慶子・小川克則・香林浩道・川崎通子・笠井伸彦・津田孝二・徳谷賛正・鍋島詩津子・西森忠幸・増井保彦・松永浩司・豆成晋…・山西嘉彦・横山妙子が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し、平成4年3月31日で終了した。
1. 本書に関わる業務は、遺物実測一市森千恵子・井西貴子（現大阪府教育委員会文化財保護課技師）・上辻恵美子・三木明日香・村井俊子・村田英子・森本浩…・山本美鈴・若竹慶弘、図面レイアウト一井西・岡田清…、図面トレース一井西・村田、遺物写真撮影一岡田が行った。
1. 本書の執筆は主に岡田が担当したが、第3章出土遺物観察表については岡田・井西が担当した。
1. 全体の編集は岡田が行った。

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経過.....	1
第2節 地理・歴史的環境.....	2
第3節 調査の方法.....	3
第2章 調査の結果.....	4
第1節 基本層序.....	4
第2節 検出遺構・出土遺物.....	5
• A区.....	5
• B区.....	10
• C区.....	17
• D区.....	22
• E区.....	41
• F区.....	43
第3節 出土遺物観察表.....	45
第3章 まとめ.....	62

挿図目次

第1図 調査地周辺図.....	1
第2図 調査区配置図および地区割図.....	3
第3図 各調査区基本層序模式図(S=1/40).....	4
第4図 A区遺構平面図.....	6
第5図 A区第5層出土遺物実測図I.....	8
第6図 A区第5層出土遺物実測図II.....	9
第7図 B区SE-201平断面図.....	10
第8図 B区遺構平面図.....	11
第9図 B区SE-201出土遺物実測図I.....	12
第10図 B区SE-201出土遺物実測図II.....	13
第11図 B区SE-201井戸枠実測図.....	14
第12図 B区第5層出土遺物実測図.....	16

第13図	C区遺構平面図	18
第14図	C区第6層出土遺物実測図	19
第15図	C区土器棺(羽釜)、馬骨出土地点及び実測図	21
第16図	D区S E-201平断面図	22
第17図	D区奈良時代遺構平面図	23
第18図	D区S E-201出土遺物実測図	24
第19図	D区S E-201井戸枠実測図	25
第20図	D区S E-202平断面図	26
第21図	D区S E-202出土遺物実測図	27
第22図	D区S E-202井戸枠実測図	28
第23図	D区S P-201柱根実測図	29
第24図	D区落ち込み(S O-101)出土遺物実測図	32
第25図	D区鎌倉時代遺構平面図	33
第26図	D区第6層出土遺物実測図I	35
第27図	D区第6層出土遺物実測図II	36
第28図	D区第5層出土遺物実測図I	37
第29図	D区第5層出土遺物実測図II	39
第30図	D区第5層出土遺物実測図III	40
第31図	E区、F区遺構平面図	42
第32図	E区第5層出土遺物実測図	44

表 目 次

第1表	D区小穴(S P)一覧表	30
-----	--------------	----

図 版 目 次

- 図版一 1. A区全景(北から)
 2. B区全景(東から)
- 図版二 1. C区全景(東から)
 2. D区奈良時代遺構面全景(南西から)
- 図版三 1. D区奈良時代遺構面北部(北東から)
 2. D区鎌倉時代遺構面全景(南西から)

- 図版四 1. E区全景(北から)
2. F区南部(北から)
- 図版五 1. B区S E - 201検出状況(東から)
2. B区S E - 201遺物出土状況(東から)
- 図版六 1. C区馬骨 - I出土状況(東から)
2. C区馬骨 - II出土状況(東から)
- 図版七 1. D区S E - 201検出状況(南から)
2. D区S E - 201遺物出土状況(西から)
- 図版八 1. D区S E - 202検出状況(東から)
2. D区S E - 202遺物出土状況(西から)
- 図版九 A区第5層、B区S E - 201出土遺物
- 図版一〇 B区S E - 201・第5層出土遺物
- 図版一一 C区第6層出土遺物
- 図版一二 C区土器棺、D区S E - 201・S E - 202出土遺物
S P - 201(柱根)
- 図版一二 D区S E - 201墨書き入り井戸枠(西)
- 図版一四 D区S E - 201墨書き入り井戸枠(南)
- 図版一五 D区S E - 201墨書き入り井戸枠(北)
- 図版一六 D区落ち込み(S O - 201)・第6層出土遺物
- 図版一七 D区第6層出土遺物
- 図版一八 D区第6層・第5層出土遺物
- 図版一九 D区第5層出土遺物
- 図版二〇 D区第5層出土遺物、E区第5層出土遺物
- 図版二一 D区第5層出土土馬

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

今回の調査は、八尾市東太子2丁目1他内における共同住宅建設工事に伴う発掘調査であり、当調査研究会が当遺跡内で実施した第1次調査（TS83-1）にあたる。調査の対象地は、位置的に当遺跡範囲の東端部になる。

当遺跡内では、今回の調査が実施されるまで数件の小規模な遺構確認調査しか行われておらず、調査結果としては明確な遺構・遺物の検出をみるに至っていない。したがってそれまでは文献資料（『日本書紀』・『続日本紀』）等によって当遺跡の解釈がなされてきた。しかし、今回実施した発掘調査によって古墳時代から奈良時代、中世にかけての遺構・遺物が検出され、当遺跡における考古学的な知見の一部が解明されることになった。

今回の調査以後当調査研究会では第2次（TS90-2）、第3次（TS91-3）として2件の発掘調査を実施しており、それぞれ貴重な資料を得ている。まず第2次調査では平成2年度に太子堂2・3丁目において古墳時代前期の井戸・土坑・溝を検出、遺物（布留式土器）も多量に出土している。さらに平成3年度に太子堂2丁目地内において実施した第3次調査では古墳時代中期から奈良時代にかけての遺構・遺物を検出している。また同じ平成3年度には遺跡名は異なるが、当調査地の東側の道路を隔てた植松遺跡内（植松町5丁目地内）において八尾



第1回 調査地周辺図

市教育委員会によって実施された調査の結果、古墳時代後期に比定される自然流路が検出されている。

今回の調査の対象となった地点は「大聖勝軍寺」の北東約300m、旧主要地方道大阪中央環状線の西側に面したところであり、それまでの当地周辺における試掘結果から埋没した遺跡の遺存が予想された。そこで八尾市教育委員会は、昭和58年3月に建築工事によって破壊される部分に対し、試掘調査を実施した。その結果、表土下1.5m (T.P+8.3m) 前後で奈良時代の遺物包含層、さらにそれより40~50cm以下で古墳時代後期の遺物包含層を確認した。この試掘結果から八尾市教育委員会は調査対象地内の開発・建築箇所の全てにおいて発掘調査が必要であると判断したが、例外として掘削深度が遺物包含層に達しない埋設工事区については、立会調査を実施し、遺構確認を行った。

当調査研究会は八尾市教育委員会から委託依頼を受け、事業者との3者協議を重ね、協定書の締結後は当調査研究会が主体となって発掘調査を実施した。現地での発掘調査は、昭和58年6月6日~10月27日までの期間で実施した。調査面積は約3,393m²を測る。

第2節 地理・歴史的環境

太子堂遺跡が所在する八尾市は大阪府の東部に位置し、東を牛駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画される沖積低平地で、狭義でいう河内平野と呼ばれるなかの南東部にある。河内平野は古代より旧大和川の氾濫によって沖積作用が繰り返され、自然堤防・後背湿地が形成されていった。そして、宝永元年(1704)の大和川付け替え以後、現在みられる地理的形態となったわけで、その河川大工事前後では当遺跡の景観の様相も異なる。当遺跡は八尾市のほぼ中央に位置し、現在の行政区画では太子堂3丁目、南太子堂1~4丁目、東太子1・2丁目の東西0.75km、南北0.6kmの範囲に広がる古墳時代前期初頭(庄内式)から中世に至る複合遺跡である。当遺跡の周辺には西及び北に跡部遺跡、東に植松遺跡、南に木の本遺跡が隣接している。跡部遺跡においては平成元年、弥生時代末期に埋納された銅鐸が良好な状態で発見され、とくに類例の少ない埋納施設が判明したことは貴重な研究資料である。また、木の本遺跡では水田遺構から古代・近世の二時期に亘る志紀郡条里に関連する溝遺構を検出しており、条里研究に大きく寄与するところである。

当遺跡は『日本書紀』や『統日本紀』などの文献資料から歴史的にその地名から聖德太子に関わる史跡として知られている。西暦587年の用命天皇の死後にあたる時に蘇我馬子と物部守屋との間に紛争がおこり、聖德太子は蘇我一族と共に物部氏と戦った結果、蘇我氏は物部氏を破って勝利をおさめ、聖德太子は戦地となった当地に寺を建てた。その寺が現在の「大聖勝軍寺」と言い伝えられている。また先述の戦争に関連するものとして、現在の国道25号線に面して物部守屋をまつる「物部守屋塚」、物部守屋を射ぬいた矢が埋められたといわれる「鏡矢

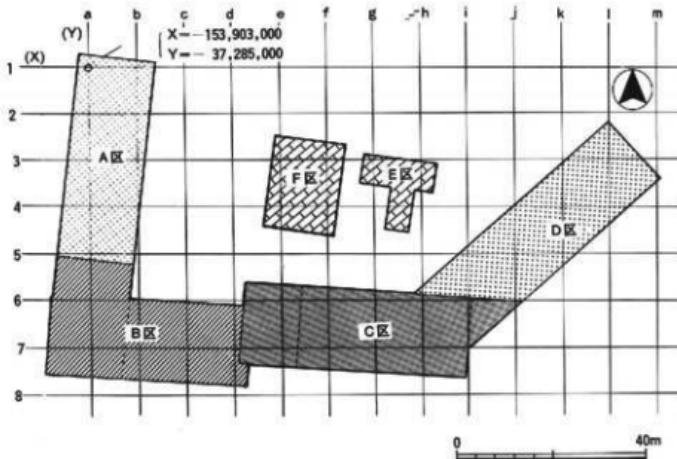
塚』、その鏑矢を射た時に用いた弓を埋めたとされる『弓代塚』などの所縁のある伝承地がある。

また、当遺跡の近隣には古代寺院とされる龍華寺跡や宝積寺跡（渋川廃寺）が存在する。

第3節 調査の方法

調査は建設工事に当たる住棟4棟と浄化水槽、集会所の計6箇所に調査区を設定し、西からA～D区、浄化水槽の部分をE区、集会所の部分をF区と呼称した。掘削は八尾市教育委員会の試掘結果をもとに現地表下から約0.6～1.0mまでの第1層—盛土・攪乱、第2層—旧耕土、第3層—床土の部分を重機により掘削した後、以下0.8～1.3mまでの第4層から第6層については土層層理に従って人力掘削を実施し、遺構・遺物の検出に務めた。さらに、以上の調査を終了した後は各調査区内において部分的に下層確認を実施し、遺構および遺物の確認を行った。発掘調査に関しては、調査区内において土壤の悪条件の為に壁面が崩れ落ちたり、地下からの湧水が著しく途中で調査を断念しなければならない部分もあり、すべてにおいて完整性の調査とは言い切れない。また、遺構の検出に際しては細心の注意を払ったが、認識不足の点や調査技術的に不備な点もあり、反省材料とするとともに今後の課題とするところである。

地区割は、国土座標の東西軸・南北軸により調査区の東西130m、南北70mの範囲内に10m四方の区画を設定した。地区名は北西部の隅から東西線を数字（北から1～8）、南北線をアルファベット（西からa～m）で示し、1a区～8m区と呼称した。なお、国土座標の値は、北西部の隅の交点がX = -153,903,000、Y = -37,285,000を測る。（第2図）



第2図 調査区配置図および地区割図

第2章 調査の結果

第1節 基本層序

当調査地では、6箇所の調査区のうちC区に関して北側部分は調査対象となる現地表下約1.8mまでの土層が、近世の整地等により破壊されていた。それ以外の調査区でも部分的に現代の整地等で小規模な攪乱を受けている箇所がみられる。また、時代別でみるとほとんどの調査区において奈良時代の遺構面が中世の開墾等によって削平されており、奈良時代の生活面として遺存率の良好なのはD区の北側域だけであった。

以下、各調査区別に現地表面（T.P.+9.3～9.8m）下約2.5mまでに存在する土層から普遍的にみられる7層を抽出して基本層序とした。（第3図）

第1層：盛土。層厚50～90cm。現代の整地層及び攪乱層。

第2層：黒灰色土。層厚20～40cm。整地されるまでの旧耕土。

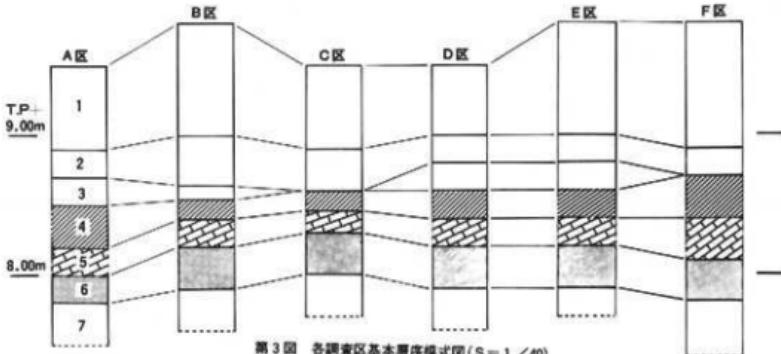
第3層：淡緑灰色粘質土。層厚10～20cm。耕作の床土。C区、F区には存在しない。

第4層：淡茶灰色～淡灰色粘質土。層厚10～30cm。鎌倉時代中期から末期に比定される遺物が含まれる。

第5層：茶褐色～暗褐色粘質土。層厚20～30cm。古墳時代後期から奈良時代に比定される遺物が含まれる。

第6層：青灰色～暗灰色粘質土。層厚20～30cm。古墳時代前期から後期に比定される遺物が含まれる。

第7層：青灰色シルト・灰色粗砂。層厚40cm以上。土層内には遺物は含まれていなかったが層位関係からみて、古墳時代後期以前に埋没した自然河川の堆積層であると考えられる。最深部の標高は7.4m前後を測る。



第3図 各調査区基本層序模式図 (S = 1/40)

第2節 検出遺構・出土遺物

調査の結果、現地表下1.5~2.0m（標高7.8~8.3m）で古墳時代後期（6世紀初頭~7世紀初頭）に比定される遺物包含層、現地表下1.5m（標高8.3m）前後で奈良時代（7世紀初頭~8世紀末）の井戸3基・落ち込み1箇所・土坑2基・柱穴2個・小穴32個、現地表下1.2m（標高8.6m）前後で鎌倉時代中期~末期に比定される土坑6基・鍛溝跡160条を検出した。出土遺物は、各遺構及び各時代の包含層である第4層淡茶灰色~淡灰色粘質土（鎌倉時代中期~末期）・第5層茶褐色~暗褐色粘質土（古墳時代後期~奈良時代）・第6層青灰色~暗灰色粘質土（古墳時代前期~後期）を中心にコンテナで48箱分が出土した。

以下、各調査区ごとに検出遺構・出土遺物について概観する。

〈A区〉

I. 検出遺構・出土遺物

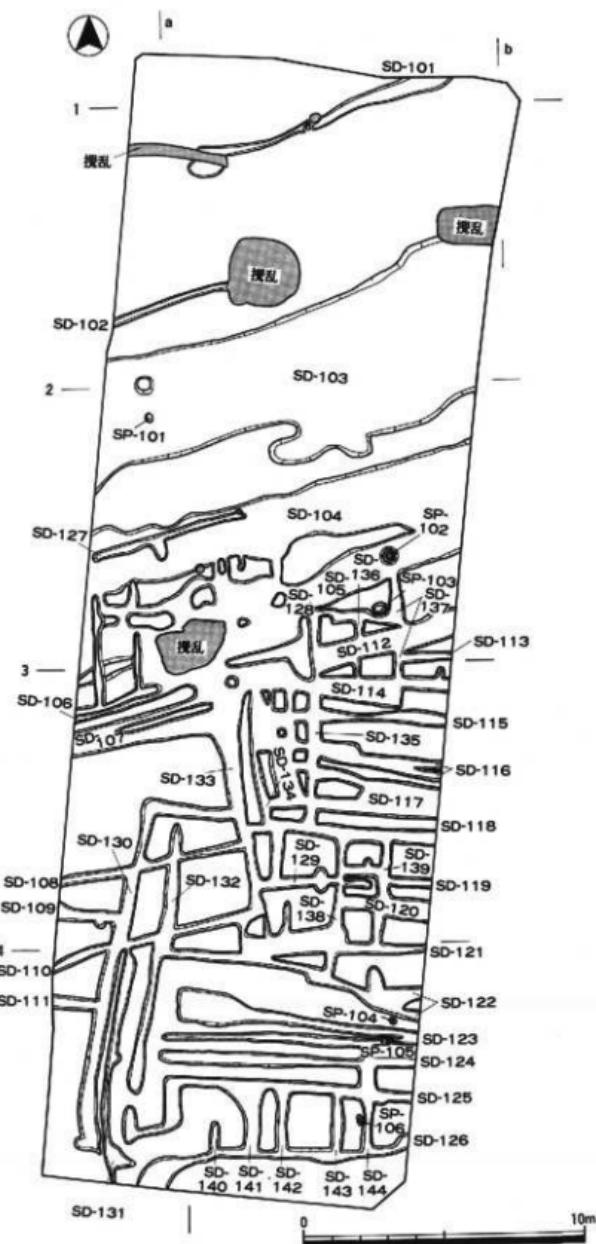
現地表下1.5m（標高8.3m）前後の第5層茶褐色~暗褐色粘質土上面において鎌倉時代中期~末期に比定される小穴6個（SP-101~106）・溝44条（SD-101~144）を検出した。（第4図）

溝（SD-101~144）

調査区のほぼ南半分に集中してみられ、方位で区別すると東西方向は29条（SD-101~129）、南北方向は15条（SD-130~144）である。溝の検出状況からみて農耕に伴う鍛溝と考えられる。溝の検出幅は0.3~0.8m、深さ10~15cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。なかには溝幅3.0mや5.0mを測るもの（SD-103~105）もみられるが、おそらくこれらは鍛が何度も重複して行き交われることによって1条の溝が次第に広がり、形成されたものとおもわれる。溝内埋土は灰色~暗灰色粘質土の単一層で、内部からは瓦器碗及び土師器皿の小破片が少量含まれていたが、固化できる遺物はなかった。

小穴（SP-101~106）

平面の形状はSP-101・102・104・105は円形、SP-103・106は梢円形を呈する。規模は、径20~50cm、深さ5~10cmを測る。断面形は全てU字形を呈し、遺構内埋土もすべて灰色粘質土の単一層である。出土遺物はそれぞれの小穴内から土師器の小破片が少量みられるが明確に時期を示すものはない。しかし、前述の鍛溝との遺構の切り合い関係からみて小穴のほうが時期的に新しいといえる。



第4図 A区遺構平面図

II. 遺構に伴わない遺物

第6層では古墳時代後期に比定される遺物がみられた。出土遺物の割合は、須恵器（蓋杯・壺・甕）が74%、土師器（壺・甕・高杯）が26%を占めるが、大半が破片で、図化できるものはなかった。出土量はコンテナ1箱分を数える。

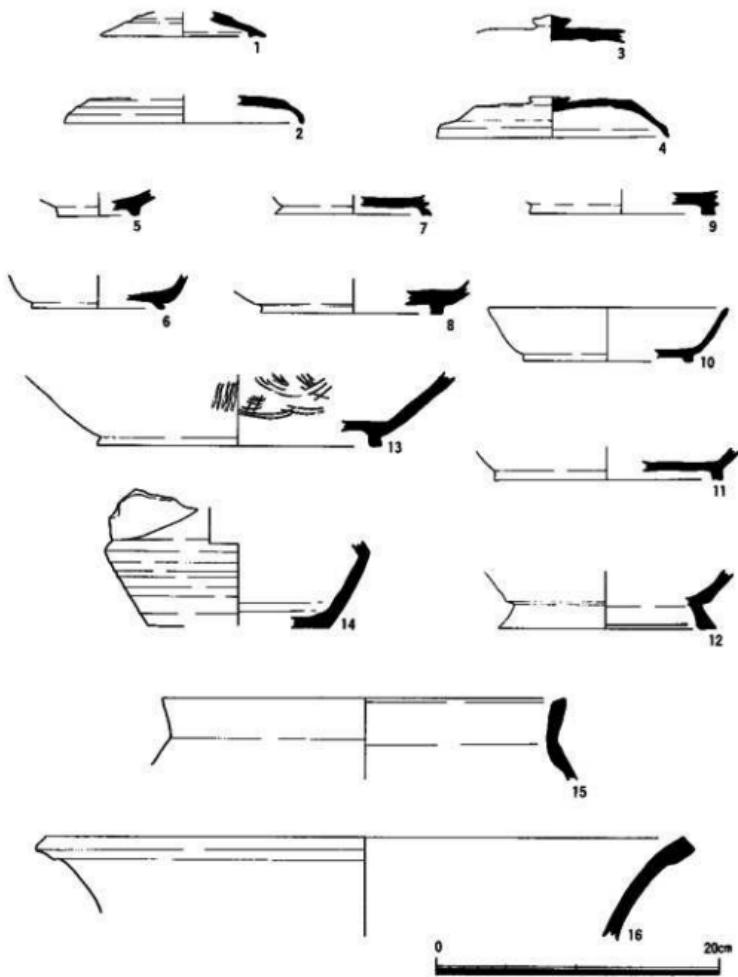
第5層では奈良時代に比定される遺物がみられた。出土遺物の割合は、須恵器（杯・鉢・提瓶・平瓶）が26%、土師器（皿・杯・壺・甕・鉢・高杯・羽釜・瓶）が74%を占め、そのうち図化できたものは33点を数える。その内訳は、須恵器16点（1～16）、土師器17点（17～33）である。

[須恵器]

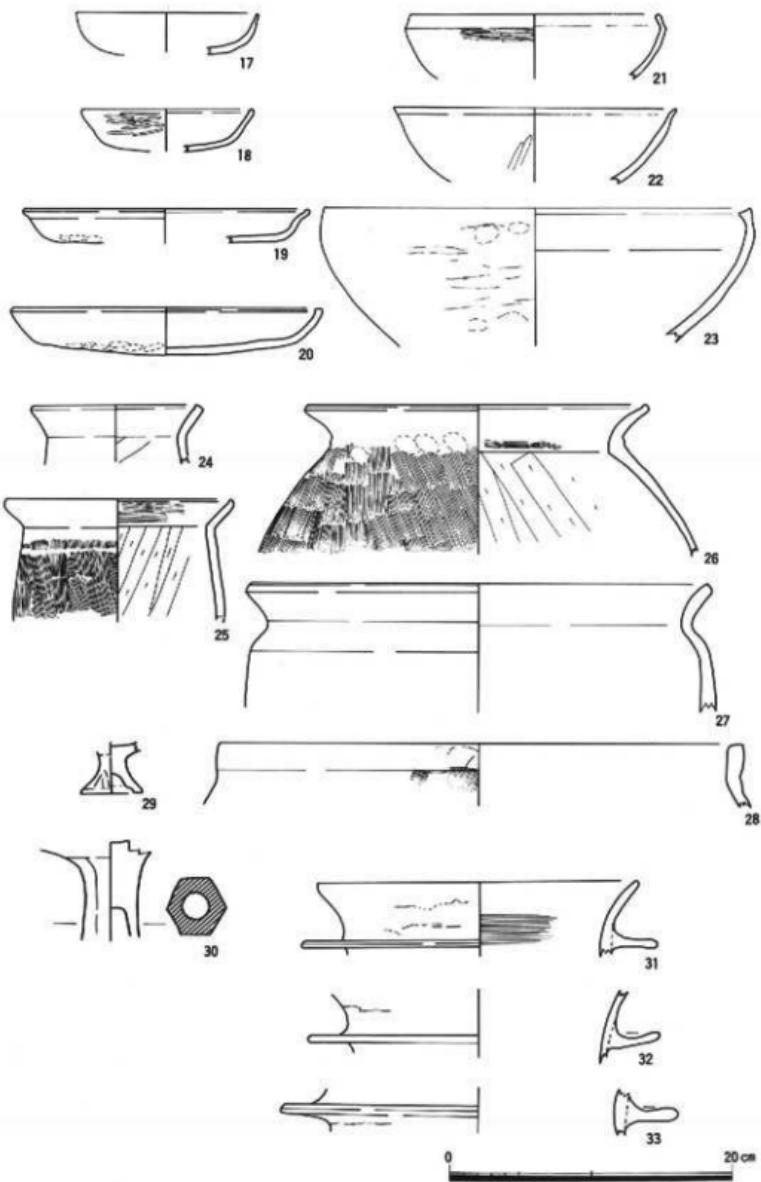
杯蓋は4点（1～4）で口縁端部にかえりを有するもの（1）と無いもの（2・4）がある。（5）は椀で、杯（6～11）はすべて高台を有する。甕（12・13）はいずれも底部のみ残存でそのうち（12）は比較的高くしっかりとした高台をもつ。（13）は肩の張る広口甕とおもわれる。（14）は口頭部の欠損した平瓶、（15）・（16）は甕のそれぞれ口縁部である。（第5図）

[土師器]

小皿（17・18）、中皿（19・20）があり、（17）の口縁端部が上方につまみ上げられる以外はすべて丸味をもって終わる。鉢（21～23）は体部が内湾気味に伸びる。甕は小型のもの（24・25）と、大型のもの（26～27）がある。（28）は甕の口縁部分とおもわれる。（29）はミニチュア高杯の底部であろう。高杯（30）は外面に6角の面取りが施されている。羽釜については遺存率の悪いものがほとんどで、そのなかで（31～33）の3点が幸うじて図化できた。（第6図）



第5図 A区第6層出土遺物実測図Ⅰ



第6図 A区第6層出土遺物実測図II

〈B区〉

I. 検出遺構・出土遺物

現地表下1.6m（標高8.4m）前後の第6層青灰色～暗灰色粘質土上面において奈良時代に比定される井戸1基（SE-201）、柱根を伴う柱穴1個（SP-201）、鎌倉時代中期～末期に比定される土坑3基（SK-101～103）、溝31条（SD-101～131）を検出した。（第8図）

1) 奈良時代

井戸（SE-201）

調査区北西部のA区との境界付近にあたる6b区で検出した。掘り形の上面形状が円形を呈するもので、東西幅1.9m、南北幅1.8m、深さ2.2mを測る。摺鉢状を呈する掘り形の中央に2段の井戸枠が設置されており、上段の短めの井戸枠は下段の井戸枠の最上部に覆い被さるように組まれているが、土圧のためかやや内側に傾いている。これら2段の井戸枠は船材の一部を転用したものとおもわれ、弧形のものと平板のものがある。（第11図）

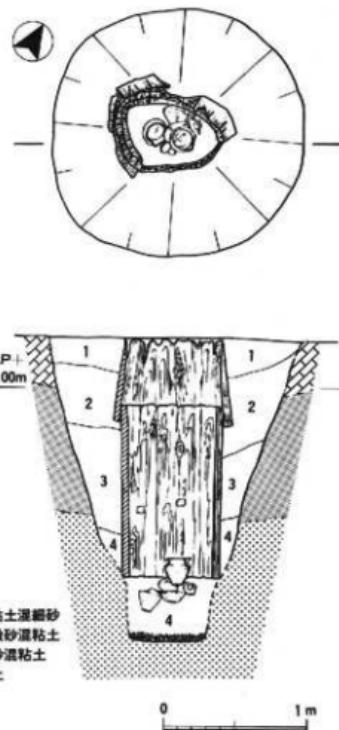
掘り形内の埋土は、上層から第1層淡青灰色粘土混細砂・第2層淡青灰色微砂混粘土・第3層青灰色微砂混粘土・第4層暗灰色粘土の4層である。井戸枠内部には灰色細砂混粘土が堆積しており、最深底部には径2～3cm程の小石が厚さ10cm前後の間で敷き詰められている。

（第7図）

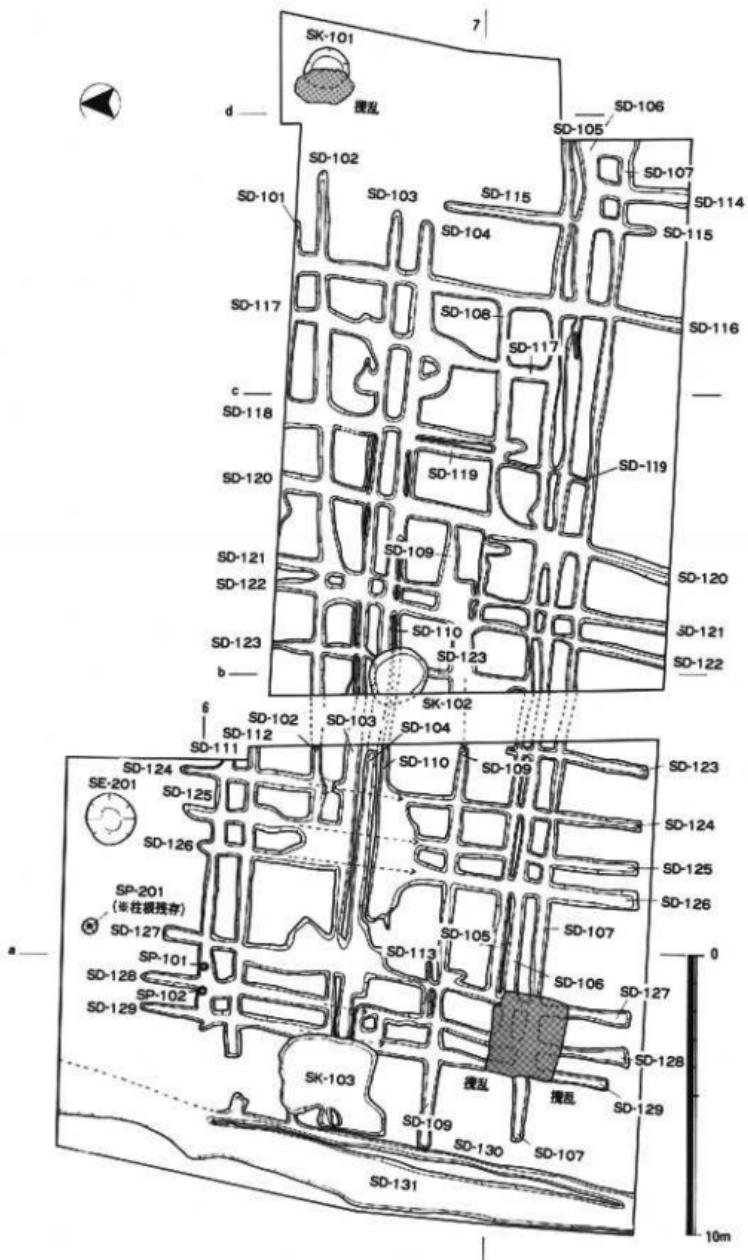
遺物は井戸枠内から、須恵器（壺・甕・杯蓋・杯身・杯）、土師器（杯・中皿・鉢・甕・高杯・羽釜）が出土したが、そのうち図化できたものは17点である。

[須恵器]

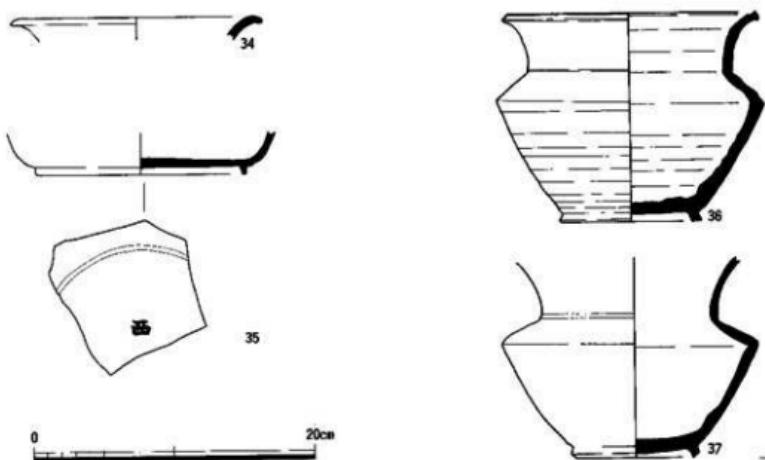
(34) は広口壺の口縁部であろう。(35) の杯は、底部外面のほぼ中央に墨書きで「西」と記されている。(36・37) の甕のうち(36)は完形品で(37)は口縁端部が欠損している以外は



第7図 B区SE-201平面図



第8図 B区造橋平面図



第9図 B区SE-201出土遺構実測図I

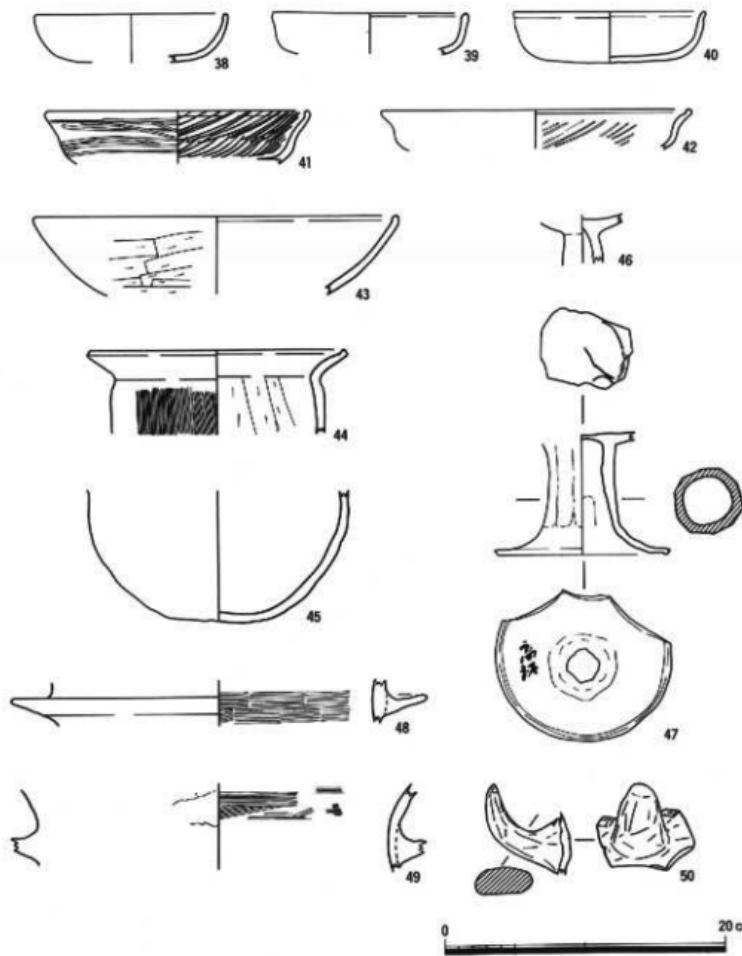
原形を止めている。双方とも肩が鋭く張り、やや外方へ踏ん張った高台がつく。(第9図)

[土師器]

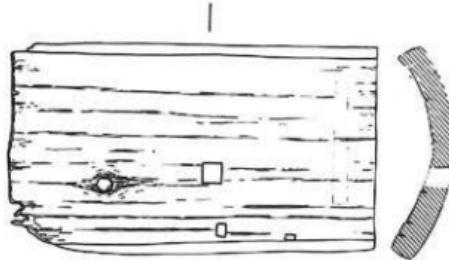
杯(38~40)は口縁部がやや内湾気味に直上する。中皿(41・42)は内面にヘラミガキを施す。鉢(43)は口縁部が内湾して縁部は丸く終わる。小型甕(44)の体部はひじょうに張りが弱い。臺の体部の下半(45)は、遺物の割れ口が研磨されている等の状況からみて井戸の水汲み用として用いられた可能性も考えられる。高杯(46・47)ではミニチュア(46)のものと、柱状部が中空で、外面に6面の面取りが施されているもの(47)がある。また(47)の高杯の脚底部内面には墨書きで「高坏」と明確に記されており、祭祀的なものを窺わせる。(48・49)の羽釜の内面はいずれもハケメが施されている。(50)の三角形の粘土版は把手付甕の把手であろう。(第10図)

柱穴 (SP-201)

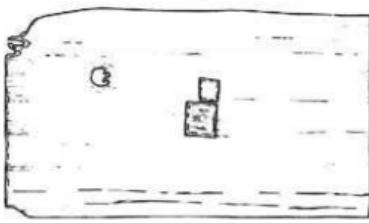
SE-201の西方約3m地点で検出した。この柱穴は柱根を伴うもので、掘り形の上面形状は中世の備溝によって削平されているため不明であるが、検出時点での掘り込みの深さは42cmを測る。掘り形内埋土は灰色微砂混粘土の單一層で、埋土内からの出土遺物はなかった。柱根の規模は径17cm、長さ65cmを測る。上部の先端部分は腐食しており、幾分細くなっている。この柱穴は確実に建物跡に伴うものとおもわれるが、周囲を調査した結果これ以外、建物を構成するとみられる柱穴跡はなかった。



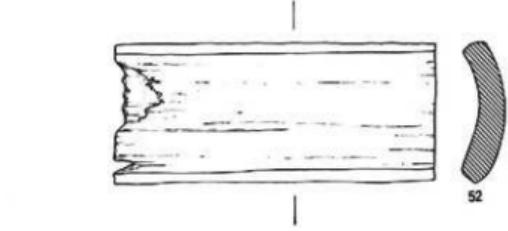
第10圖 B区S E - 201出土遺物実測図II



51



52



53



第11図 B区 S E - 201井戸柾実測図

2) 鎌倉時代

土坑 (SK-101~103)

SK-101

調査区北東隅7d区で検出した。西部分は攪乱によって削平されているため全容は不明である。規模は検出部で南北1.5mを測る。内部堆積土は灰色～暗灰色粘質土の單一層で、埋土内からの出土遺物はなかった。

SK-102

調査区中央7b区で検出した。上面は円形を呈し、数条の溝を切る。規模は東西1.7m・南北2.0m・深さ16cmを測る。断面の形状は浅い皿形を呈し、内部堆積土はSK-101同様灰色～暗灰色粘質土の單一層で、埋土内からの出土遺物はなかった。

SK-103

調査区西部7a区で検出した。上面の形状はほぼ方形を呈し、数条の溝を切る。規模は東西3.0m・南北3.5m・深さ6~10cmを測る。断面の形状は浅い皿形を呈し、内部堆積土は灰色～暗灰色粘質土の單一層で、埋土内からは土師器及び瓦器の小破片が少量出土した。

溝 (SD-101~131)

調査区のほぼ全城にみられる農耕に伴う動溝跡である。方位で区別すると東西方向は13条(SD-101~113)、南北方向は18条(SD-114~131)である。各溝の検出幅は0.3~1.7m、深さ10~20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色～暗灰色粘質土の單一層で、内部からは瓦器軸及び土師器皿の小破片がごく少量含まれていたが、図化できる遺物はなかった。

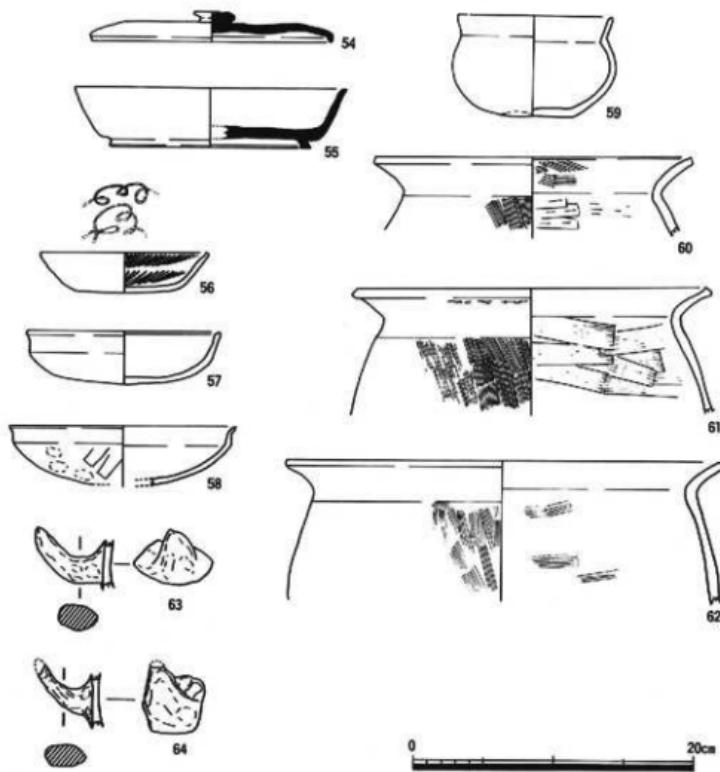
II. 遺構に伴わない出土遺物

第6層においては古墳時代中期から後期に比定される遺物包含層が認められた。出土遺物の割合は、総量全体でみると須恵器(杯蓋・壺・高杯・鉢・壺)が85%、土師器(壺・壺・羽釜)が15%で、須恵器が大半を占めるが全て小片で図化できるものはなかった。

第5層においては主に奈良時代に比定される遺物包含層が認められた。出土遺物の割合は、総量全体でみると須恵器(杯蓋・杯身)が23%、土師器(壺・皿・杯・壺)が77%で圧倒的に土師器が占める。しかし図化できたものはひじょうに少なく、須恵器が2点(54・55)、土師器が9点(56~64)の11点である。(第12図)

[須恵器]

(54) の擬宝珠形のつまみをもつ杯蓋及び(55) の高台を有する杯身は陶邑編年でみると第IV型式1~2段階に相当する。



第12図 B区第5層出土遺物実測図

[土師器]

(56) の中皿は内面に連続輪状と2段の放射状略文を施す。(57・58) の杯は双方とも底部に丸みをもつ。(59) の小型鉢は偏平な体部をもつ。(60~62) の臺の体部は3者とも比較的張りが弱い。(63・64) は舌型をした把手杯壺の把手である。

〈C区〉

当調査区においては、第13図に示すように調査面積のほぼ6割近くが近代の整地等の削平により擾乱されている。遺構は鎌倉時代の土坑・溝・落ち込みを検出した。

I. 検出遺構・出土遺物

現地表下1.0m（標高8.4m）前後の第5層茶褐色～暗褐色粘質土上面において鎌倉時代中期から末期の土坑1基（SK-101）、溝24条（SD-101～124）、落ち込み（SO-101）1箇所を検出した。

土坑（SK-101）

7g区で検出した。平面は梢円形を呈し、規模は東西幅1.1m、南北幅0.6m、深さ15cmを測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色～暗灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土している。

溝（SD-101～124）

普遍的にみられる農耕に伴う鋤溝である。方位で区別すると南北方向は18条（SD-101～118）、東西方向は6条（SD-119～124）である。溝の検出幅は0.3～1.0mを測るが、広いものになると2m前後に達する溝もある。幅広い溝は特に調査区東部にみられ、これはA区でもみられたように鋤が幾度も重複して行き交われたことを示すものであろう。また、溝の深さは10～20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色～暗灰色粘質土の単一層で、内部からは瓦器・土師器の小片が出土している。

落ち込み（SO-101）

7f区で検出した。東西方向に伸びる鋤溝（SD-120～124）の西端で合流し、緩やかに西側へ落ち込む遺構である。上面の形状は東側を除く周開がすべて擾乱されており、全容は不明である。規模は検出部で最大幅4.5m、深さ20cm前後を測る。遺構内埋土は灰色～暗灰色粘質土の単一層で、内部からは瓦器・土師器の小片が出土している。

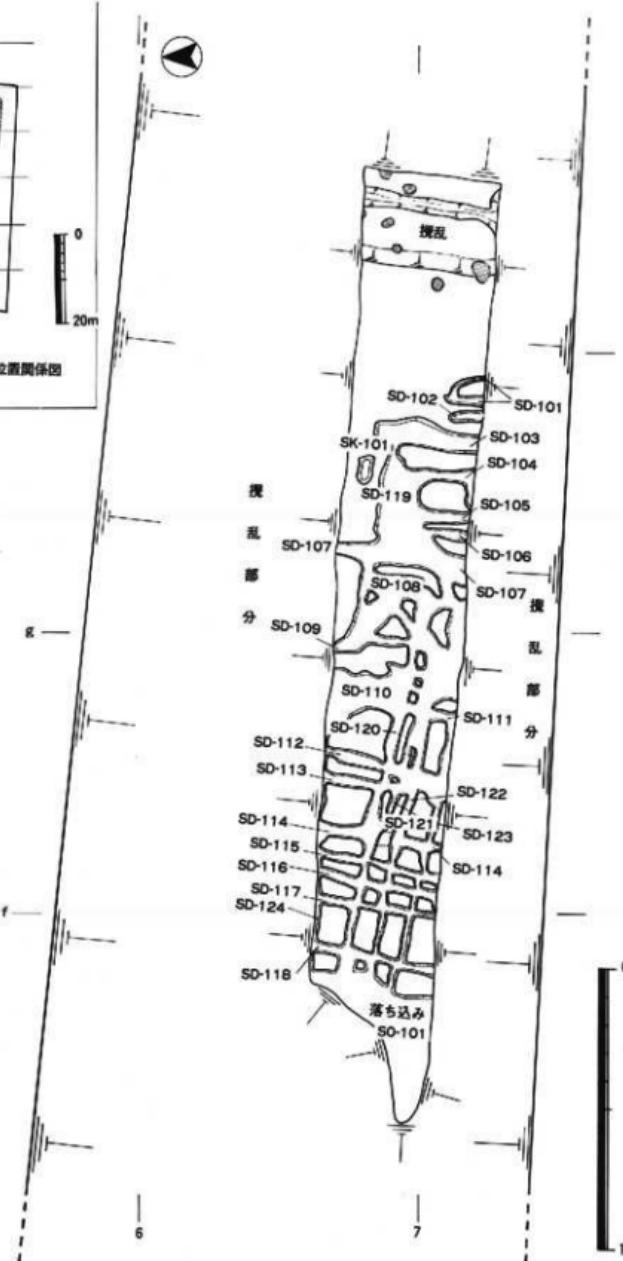
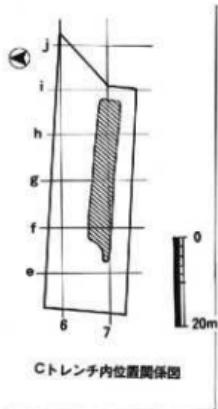
II. 遺構に伴わない出土遺物

第6層内においては古墳時代中期～後期に比定される遺物が認められた。出土遺物の割合は、土師器が32%、須恵器が67%を占め、そのうち図化できたものは須恵器が21点（65～85）、土師器が2点（86・87）を数える。（第14図）

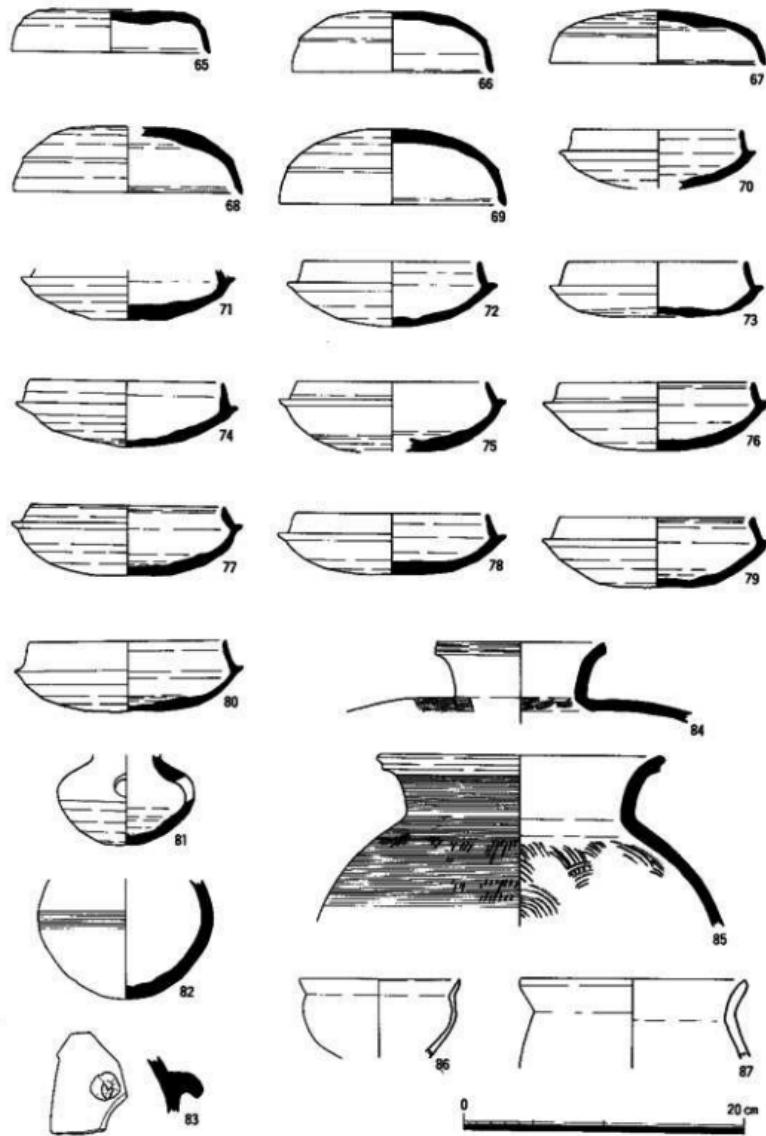
〔須恵器〕

陶邑編年でみると第Ⅱ型式3～4段階に相当する。

杯蓋には天井部でみるとやや凹むもの（65）、平らなもの（66・68）、丸みをもつもの（67・69）があり、（65・67）はなかでも比較的器高が低い。杯身では底部でみると丸みをもつもの（70・72・74・76）と平らなもの（71・75・77～80）があり、（73）の底部は若干窪む。（76・



第13図 C区造構平面図



第14図 C区第6層出土遺物実測図

77・79) は立ち上がりの端部が内傾する凹面をもつ。壺には小型のもの(81)と横瓶の大型のもの(84)がある。(85)の壺は口縁端部外側に凹面を成す。(82)は短い口縁が付く小型の短頸壺であろう。(83)は肩の両側にカギ状の耳が付く提瓶である。

[土師器]

(86)の小型の鉢は、形態的に布留式期新相の系統を引くものかと思われる。(87)は張りの弱い体部をもつ小型の壺である。

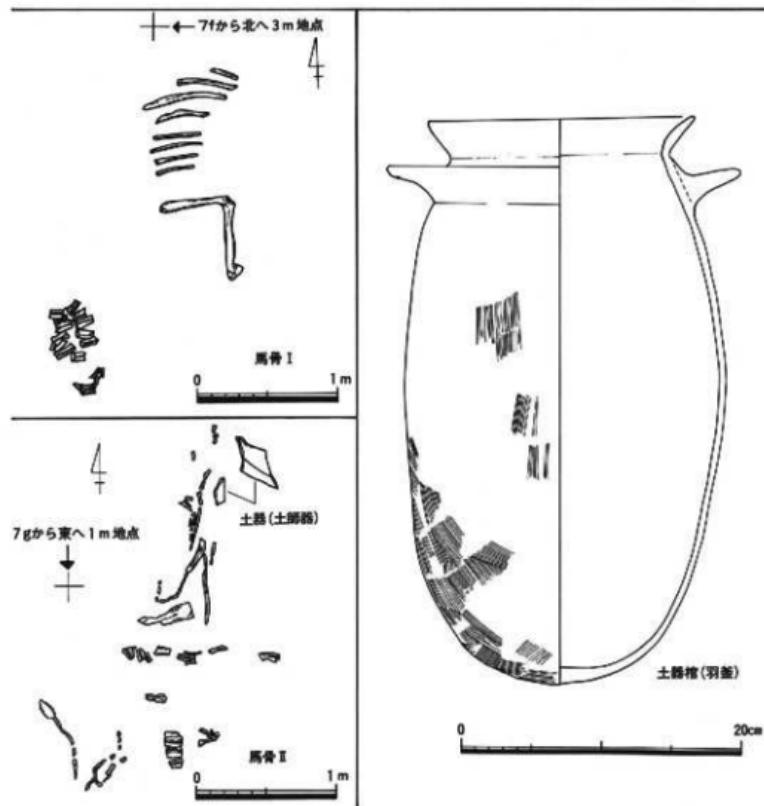
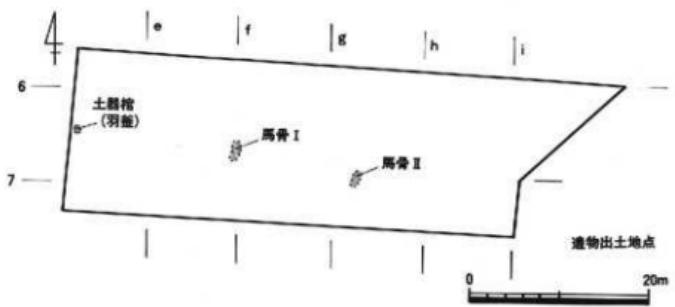
第5層内においては奈良時代に比定される遺物が含まれるのを確認したが出土量がひじょうに少なく、またすべてが小破片で復元できるものはなかった。遺物片の内容は、須恵器では杯蓋・杯身、土師器では杯・壺・羽釜等である。しかし第5層の掘削を終了した際、第6層上面(標高8.3m前後)においては原形をとどめる羽釜が1点、土師器片に混ざって散乱した馬骨を2地点において検出した。いずれも時期的に層位および周囲の遺物片から考えて奈良時代のものと思われる。(第15図)

羽釜はC区とB区との境界付近にあたる7e区内で検出した。形態的にみて背原編年^註いう河内A型bに比定されるもので、砲弾形の長い体部と「く」の字形に外反する口縁部とからなり、頸部に幅広の鋸をめぐらす。時期的には7世紀前半頃と比較的古い方に位置付けられる。各部の法量は、口径19.1cm、器高40.7cm、鋸径25.2cmを測る。周囲には遺構としての痕跡を示すものは認められなかつたが、「土器棺」として用いられた可能性も考えられる。2地点の馬骨のうち、馬骨Iを前述の羽釜出土地点から東へ約19mのところで検出した。出土状況は、上顎歯・下顎歯・桡骨・中手骨・肋骨等の配置からみて頭部を南、脚部を東に向けて横たわっている様子が窺える。

馬骨IIは馬骨Iの出土地点からやや南東よりに約17mのところで検出した。出土状況は、上顎歯・下顎歯についてのみ明確に判断できるがその他は細かい骨片が散乱した状態にあり、詳細は不明である。北部に土師器壺の一部が混在している。

馬骨の出土については、「平常京右京八条一坊十一坪」、「大阪府 城山遺跡」、「大阪府 日下貝塚」等の出土例から松井章氏は、「古代遺跡からのウシやウマの出土は、儀礼として明確なものを除いては、祭祀的なものと考えるよりはむしろ、社会技術史的観点から説明を付けた方が妥当な場合が多い。」と考察され、古代人の動物の皮革利用の技術や、動物食の伝統に関する事項について論じられている^{註7}。

しかし、今回出土した馬骨については明確な遺構に伴うものではないので、詳細については不明である。



第15回 C区土器(羽釜)、馬骨出土地点及び実測図

〈D区〉

II. 検出遺構・出土遺物

現地表下1.3m（標高8.2m）前後の第6層青灰色～暗灰色粘質土上面において奈良時代に比定される井戸2基（S E-201・202）、土坑3基（S K-201～203）、柱根を伴う柱穴1個（S P-201）、小穴群31個（S P-202～232）、溝1条（S D-201）、落ち込み1箇所（S O-201）を検出した。（第17図）

さらに奈良時代の遺構面より20cm上（標高8.4m）の第5層茶褐色～暗褐色粘質土上面において、鎌倉時代中期から末期に比定される小穴4個（S P-101～104）、落ち込み1箇所（S O-101）、溝34条（S D-101～134）を検出した。なお、当調査区の北側部分は近世以降の整地等によって中世の遺構面は削平されている。（第25図）

1) 奈良時代

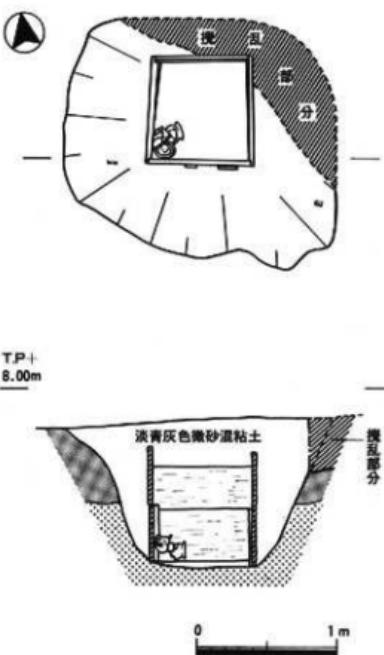
井戸（S E-201・202）

S E-201

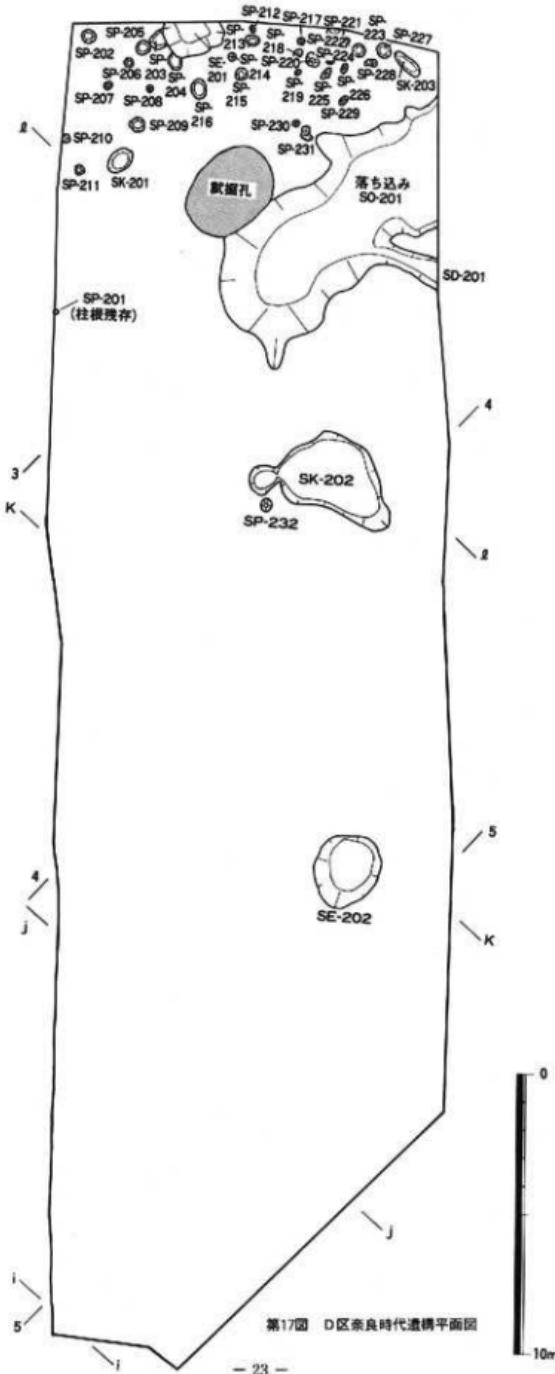
調査区北東3m区で検出した。井戸枠を伴うもので、掘り形の形状は北東の一部が調査区外に至るため全容は不明であるが、規模は検出部で東西幅1.8m、南北幅1.5m、深さ1.0mを測る。井戸枠は掘り形の検出面から30cm下で検出された。この井戸枠は長さ70cm前後、幅40cm前後、厚さ4cm前後の長方形の4枚の横板のうち、東西の井戸枠の両端に切り込みを入れて組まれたものをさらに2段に積み重ねて据えられている。（第16図）

また、下段の井戸枠のうち3枚には、それぞれ「北一」・「南一」・「西一」と小さく片隅に墨書きされているのが認められた（第19図）。このことから当時の人々が方位を意識していた様子が窺われる。

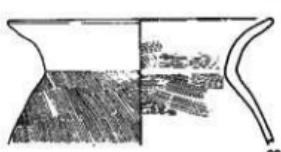
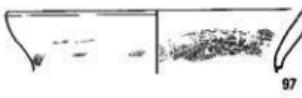
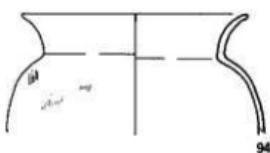
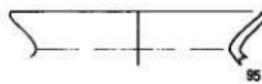
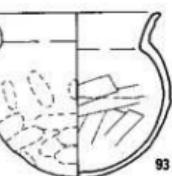
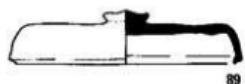
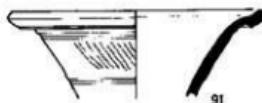
遺物は井戸枠内最下層から、固化できたもので須恵器の杯蓋（88）、壺蓋（89）、杯身（90）、壺（91）、平瓶（92）、土師器では壺（93・94・96～99）、鉢（95）、杯（100）、大



第16図 D区 S E-201平面図

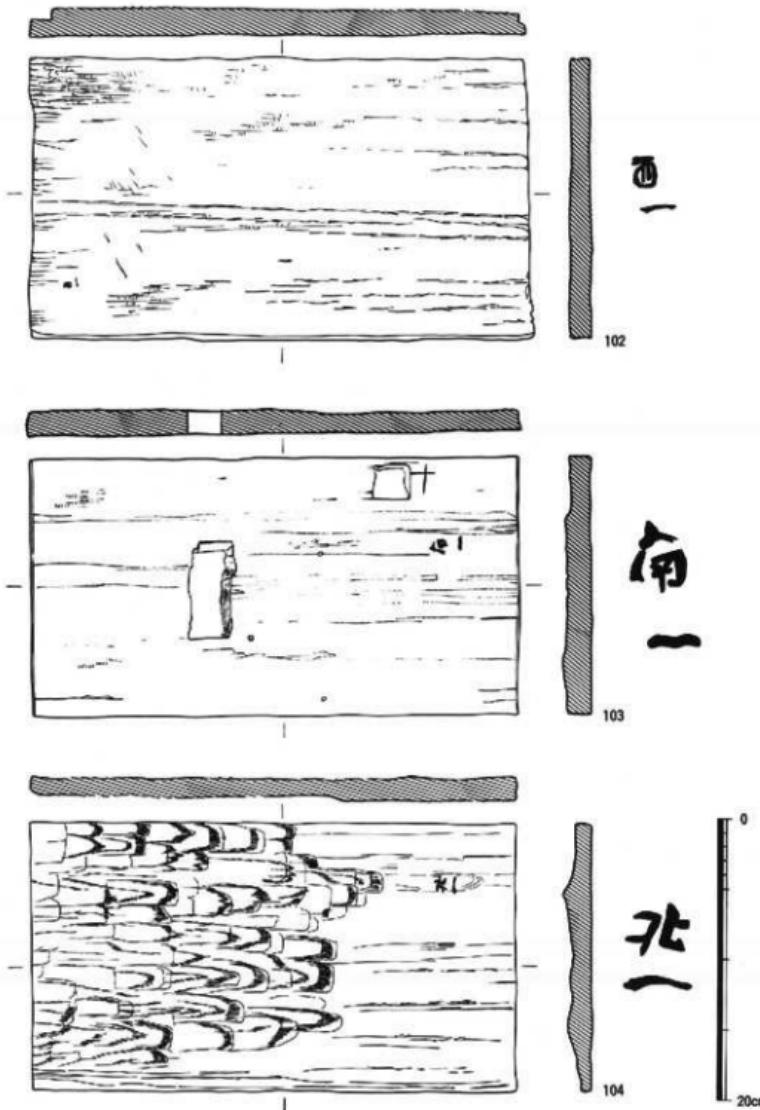


第17圖 D區奈良時代遺構平面圖



0 20cm

第15圖 D區S.E.-201出土遺物實測圖



第19図 D区 S E - 201井戸枠実測図(墨書き入りのみ)

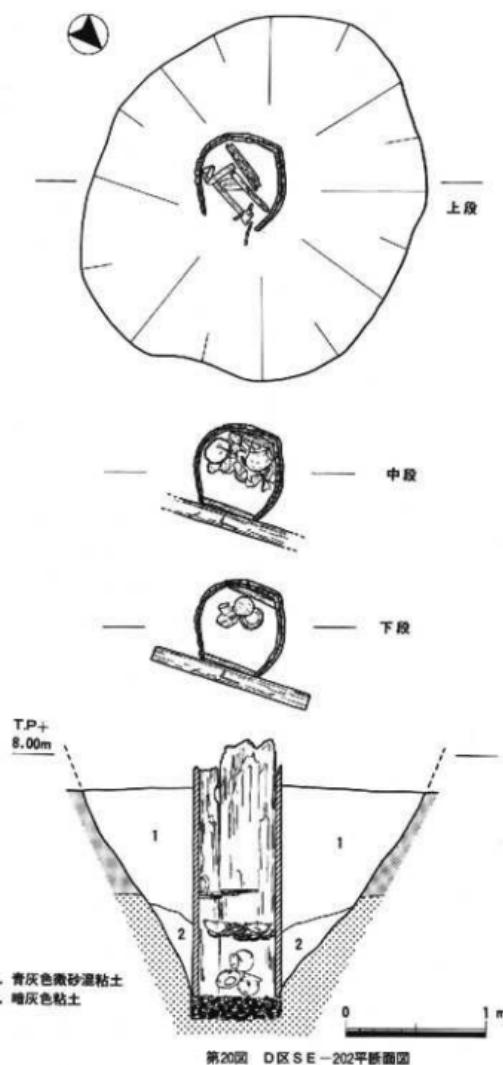
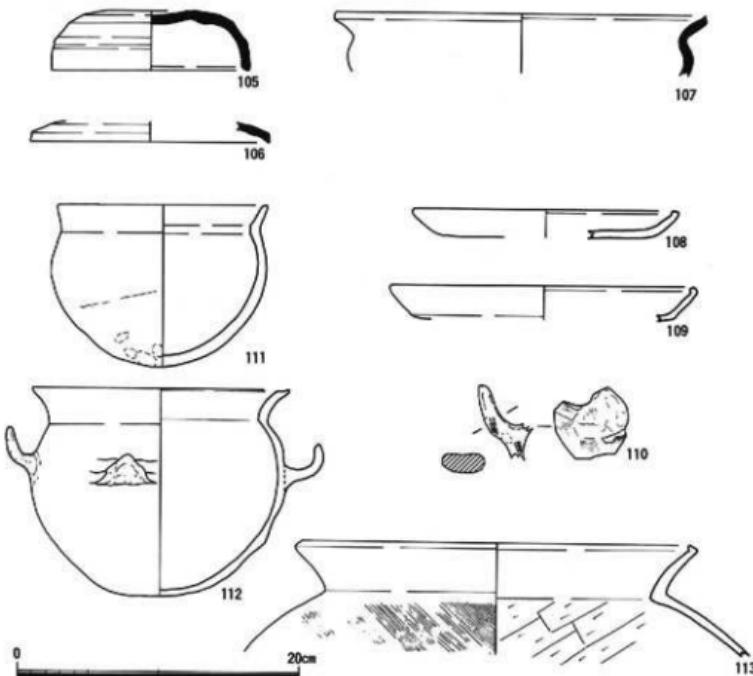


図 (101) の14点である。(第18
回)

S E - 202

調査区南部5k区で検出した。掘り形の上面形状がほぼ円形を呈するもので、東西径2.8m、南北径2.4m、深さ2.0mを測る。摺鉢状を呈する掘り形の中央にB区のS E - 201とほぼ同規模の井戸枠が据えられている。井戸枠は弧形のものが2枚、平板1枚(第22図)の3枚に向かい合させたもので、下層部分に枠を支える横木が取り付けられている。これらの井戸枠もB区のS E - 201同様に船材の一部を転用したものと考えられる。掘り形の埋土は第1層青灰色微砂混粘土・第2層暗灰色粘土の2層に分層できる。井戸枠内部には灰色細砂混粘土が堆積しており、最深底部には径5cm前後の小石が層さ20cm前後の間で敷き詰められている。(第20図)

井戸枠内から出土した遺物のうち図化できたものは、須恵器では杯蓋(105・106)、壺(107)、土師器では中皿(108・109)、壺(111・113)、把手付き壺(112)がある。このうち庄内式壺(113)は古墳時代前期の混入品である。(第21図)



第21図 D区 S E - 202出土遺物実測図

土坑 (SK-201~203)

SK-201

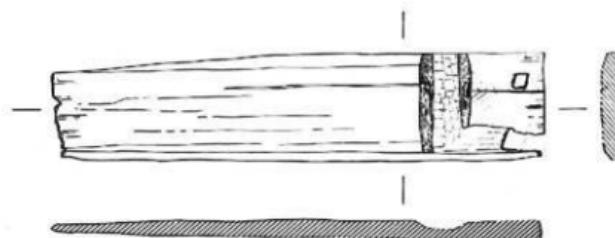
S E - 202から北東約12mの41区で検出した。平面は不定形を呈し、規模は東西径2.5m、南北径4.0m、深さ20cmを測る。遺構内埋土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は埋土内から土師器の小破片が少量出土したが、固化できるものはなかった。

SK-202

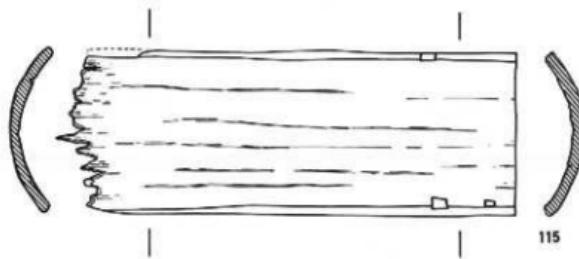
S E - 201から西約4mの31区で検出した。平面は橢円形を呈し、規模は東西径0.4m、南北径1.0m、深さ11cmを測る。遺構内埋土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は出土しなかった。

SK-203

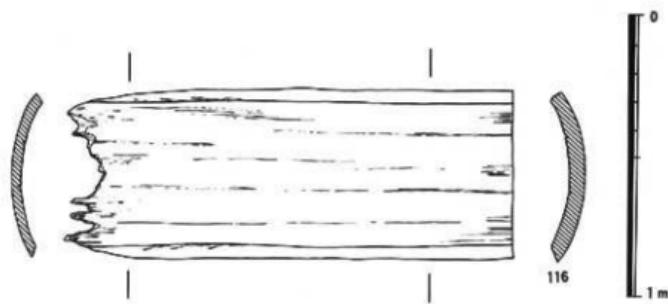
調査区の東隅の4m区で検出した。平面は長橢円形を呈し、規模は東西径0.5m、南北径1.2m、深さ11cmを測る。遺構内埋土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は出土しなかった。



114



115



116



第22図 D区 S E - 202井戸枠実測図

柱穴 (S P - 201)

S K - 202の南西約6mの側溝際（31区）で検出した。この柱穴はB区のS P - 201同様に柱根を伴うもので、掘り形の上面形状及び規模は不用意にも側溝掘削の際に削平してしまったため不明である。柱根の規模は短径23cm、長径27cm、長さ84cmを測り、断面形状はやや梢円形を呈する。柱根の先端部分は幾分細くなっているが、裾部分については末端から10cmのところに幅4cm、深さ3cmの切り込みが彫り廻らされており、明瞭に加工痕が認められる。底部は水平に削られている。（第23図）

この柱穴は建物跡に伴うものであるが、周囲には中世の開墾等の削平を受けたためか建造物を構成する他の柱穴はみられなかった。

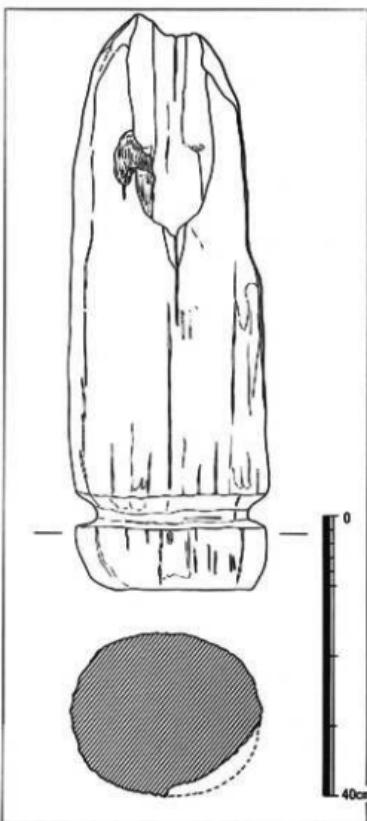
小穴 (S P - 202~232)

調査区北端部で検出した。総数31箇所で上面の形状は、主に円形を呈するものと梢円形を呈するものに分類される。規模は大型のもので径40~60cm、小型のもので径10~20cmを測る。深度では浅いもの5~10cm、深いもの30cm以上を測るものもある。遺構内の堆積土はすべて暗青灰色~暗灰色粘土の単一層である。遺物は各穴内から須恵器および土器の小片が僅かにみられたが、図化できるものはなかった。

なお、個々の小穴の法量等については第1表に記した。

溝 (S D - 201)

調査区北部の4m区で検出した。方向は南東~北西に伸び、南東部は調査区外に至り、北西部は落ち込み（S O - 201）と合流する。規模は検出部で、幅0.7~1.0m、深さ13cmを測る。断面の形状は逆台形を呈する。遺構内の堆積土は暗灰色粘土の単一層で、遺物は出土していない。



第23図 D区 S P - 201柱根実測図

第1表 D区小穴(S P)一覧表

※単位/cm

遺構番号	平面形	断面形	径	深さ	遺構内堆積土	備考
S P -202	円形	逆台形	30	5	暗青灰色粘土	
S P -203	——	逆台形	25~30	32	暗青灰色粘土	S E -201に切られる。
S P -204	——	逆台形	54~66	34	暗青灰色粘土	S E -201に切られる。
S P -205	円形	逆台形	55	11	暗青灰色粘土	
S P -206	円形	逆台形	42	6	青灰色粘土	
S P -207	円形	逆台形	33	13	青灰色粘土	
S P -208	円形	楕形	22	8	暗青灰色粘土	
S P -209	円形	逆台形	58	17	暗青灰色粘土	
S P -210	——	逆台形	28以上	17	暗青灰色粘土	調査区外に至る。
S P -211	円形	逆台形	43	5	暗青灰色粘土	
S P -212	椭円形	楕形	29~38	5	青灰色粘土	
S P -213	椭円形	逆台形	44~59	5	暗青灰色粘土	
S P -214	円形	楕形	27	5	青灰色粘土	
S P -215	円形	逆台形	40	7	暗青灰色粘土	
S P -216	椭円形	逆台形	52~64	31	暗青灰色粘土	
S P -217	円形	楕形	38	11	青灰色粘土	
S P -218	椭円形	逆台形	31~43	9	青灰色粘土	
S P -219	円形	楕形	26	4	暗青灰色粘土	
S P -220	椭円形	逆台形	48~57	11	暗青灰色粘土	
S P -221	——	逆台形	75以上	18	青灰色粘土	調査区外に至る。
S P -222	円形	楕形	36	9	青灰色粘土	
S P -223	円形	逆台形	51	12	青灰色粘土	
S P -224	椭円形	楕形	28~38	12	暗青灰色粘土	
S P -225	椭円形	逆台形	23~60	5	暗青灰色粘土	
S P -226	椭円形	楕形	31~46	7	暗青灰色粘土	
S P -227	円形	逆台形	48	7	暗青灰色粘土	
S P -228	不定形	逆台形	24~37	8	暗青灰色粘土	
S P -229	椭円形	楕形	25~37	7	青灰色粘土	
S P -230	円形	楕形	33	11	青灰色粘土	
S P -231	不定形	逆台形	42~54	13	青灰色粘土	
S P -232	円形	逆台形	38	8	青灰色粘土	

落ち込み (S O - 201)

調査区北部の41~4m区で検出した。平面は不定形を呈し、北東部の一部は試掘孔に削平され、南東部は調査区外に至る。また南部ではSD-201と合流する。規模は検出部で東西幅9.0m、南北幅3.5~4.5m、深さ30cmを測る。断面の形状は緩やかな逆台形を呈する。遺構内の堆積土は暗灰色粘土の單一層である。遺物は遺構内の南西部に集積した状態で出土した。出土量はコンテナ箱にして1箱分を数える。

遺物は須恵器が全体の7割前後を占め、土師器をはるかに上回るがそのほとんどが破片であり、岡化できたものは壺が2点(117・118)、杯身が4点(119~122)の6点である。杯身のうち(122)の底部外面には「寿」ともよめるような墨書きが認められる。

土師器では古墳時代前期の混入品とみられる布留式期の鉢(123~125)、以下奈良時代の小皿(126)・中皿(127~131)・(132)の杯は底部外面に「信」の墨書きがみられる。壺(133~135)は3点ともに体部以下は欠損しており、幸うじて口縁部のみ岡化することができた。(136)は把手付き壺と推定されるが破片のため全容は不明である。羽釜の2点(137・138)も銅部分のみの破片のため全容は不明である。他に比較的小型の土鉢(139)が1点含まれていた。(第24図)

2) 鎌倉時代

小穴 (S P - 101~104)

S P - 101

6k区で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で最大幅60cm、最小幅42cm、深さ10cmを測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の單一層である。遺物は出土していない。

S P - 102

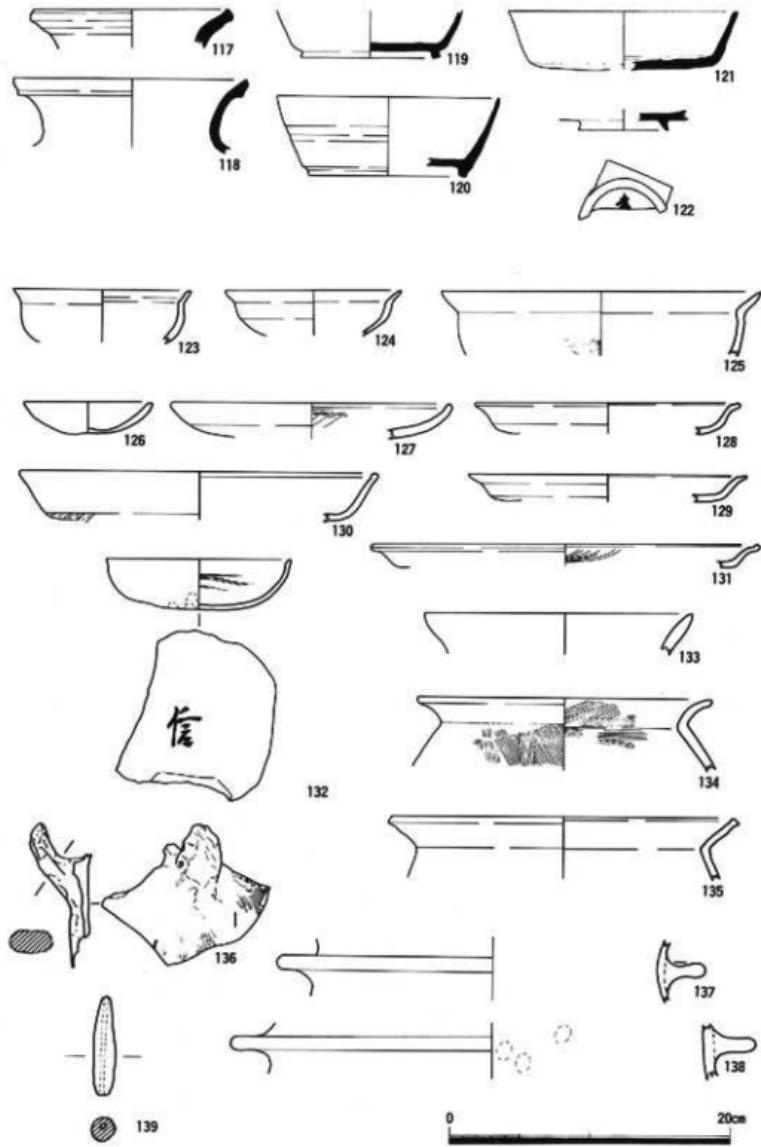
S P - 101の西部で検出した。上面は梢円形を呈する。規模は検出部で最大幅55cm、最小幅33cm、深さ11cmを測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の單一層である。遺物は出土していない。

S P - 103

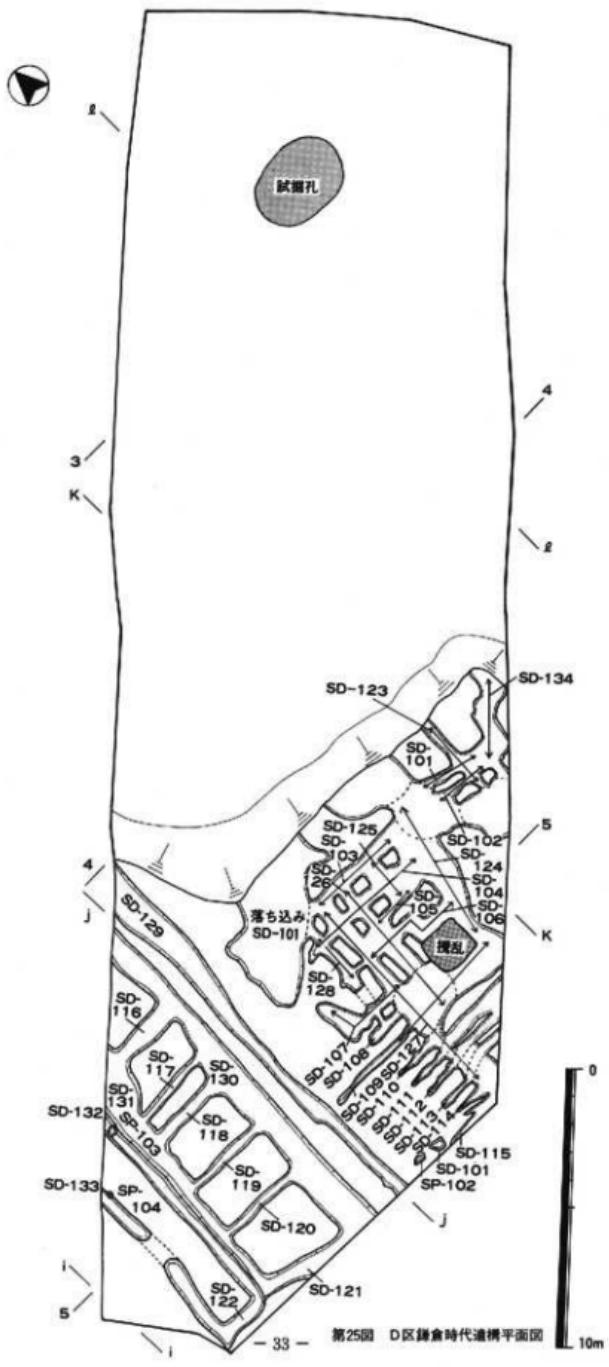
5j区で検出した。上面は隅丸方形を呈する。規模は検出部で径30~45cm、深さ15cmを測る。断面は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の單一層である。遺物は出土していない。

S P - 104

S P - 103の南西部で検出した。上面は円形を呈する。規模は検出部で径20~30cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の單一層である。遺物は出土していない。



第24図 D区落ち込み(S O-101)出土遺物実測図



落ち込み（S O-101）

5 k区で検出した。南部はSD-103・127・128と合流し、北部は近世以降の擾乱によって削平される。平面は不定形を呈する。規模は検出部で最大幅3.0m、最小幅1.4m、深さ18cmを測る。断面の形状は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色～暗灰色粘質土の單一層である。遺物は土師器の小片が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

溝（SD-101～134）

他の調査区同様、農耕に伴う動溝である。方位で区別すると東西方向は22条（SD-101～122）、南北方向は11条（SD-123～133）、北東～南西方向に1条（SD-134）である。溝の検出幅は0.3～1.3m、深さ10～20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色～暗灰色粘質土の單一層で、他の調査区同様に瓦器・土師器の小破片が僅かにみられた。

II. 遺構に伴わない出土遺物

第6層においては、古墳時代中期から後期に比定される遺物がみられた。出土遺物の割合は、須恵器が81%、土師器が19%と圧倒的に須恵器の占める率が高い。しかし全体的にみると出土量はひじょうに少なく、粉碎した破片がほとんどで、特に土師器では磨滅したものが目立つ。そのなかで図化できたものは須恵器が25点（140～164）で蓋杯が多く、罐や高杯のなかには古墳の供獻用とも思えるものもある。土師器は6点（165～170）である。

[須恵器]

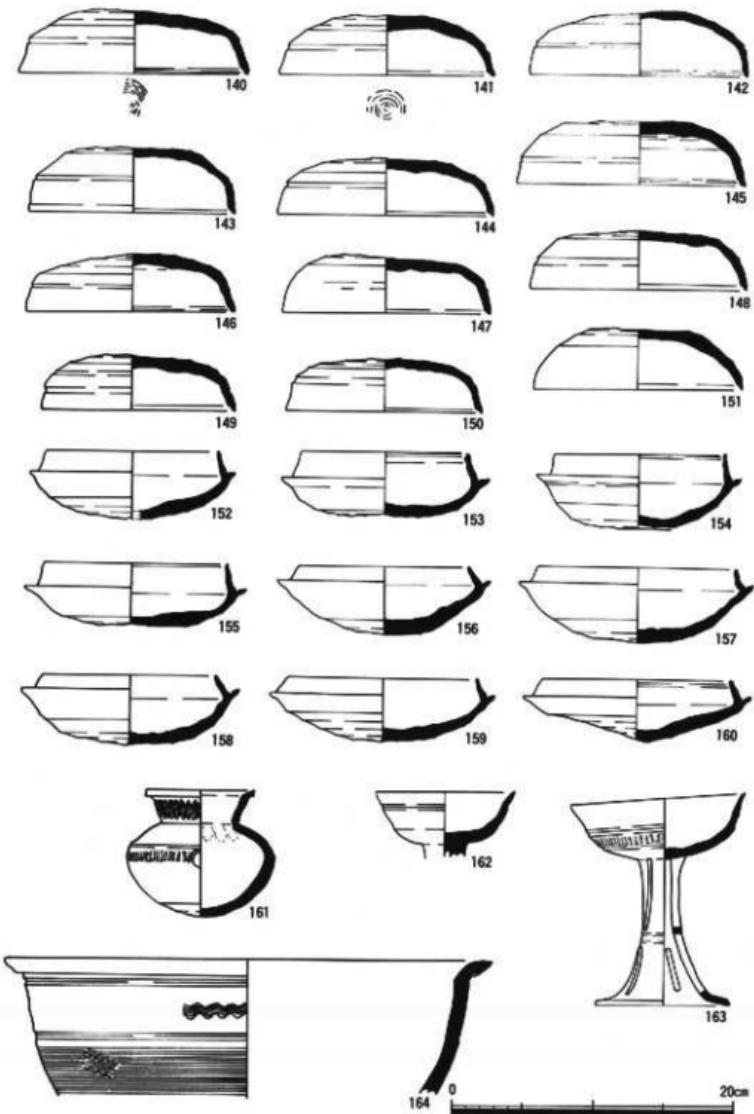
時期的に陶邑編年でみると第Ⅱ型式1～5段階に相当する。

杯蓋（140～151）では天井部の形態でみると（142）の丸みをもつもの以外はすべて平坦である。器高でみると平均4.3cmで、なかでも（142・143）が比較的高く、（149・150）は比較的低い。（140・141）の天井部内面には円弧タキ（同心円タキ）が施されている。また、（151）には外面の体部と口縁部の境に稜がみられない。杯身（152～160）は底部の形態でみると（153・155）の平坦なもの以外はすべて丸みをもつものであるが、（160）は他のものと比較すると全体的に浅く偏平である。立ち上がりでみると長く直立気味なもの（152・154・155）と、短く前者よりも内傾するもの（156～160）とに分類できる。（161）の小型の罐は肩に明瞭な稜をもち、長脚無蓋高杯（162・163）のうち（163）の杯部外面には櫛描き列点文が施されている。（164）の大型器台の杯部は尖り気味の口縁端部をもつ。（第26図）

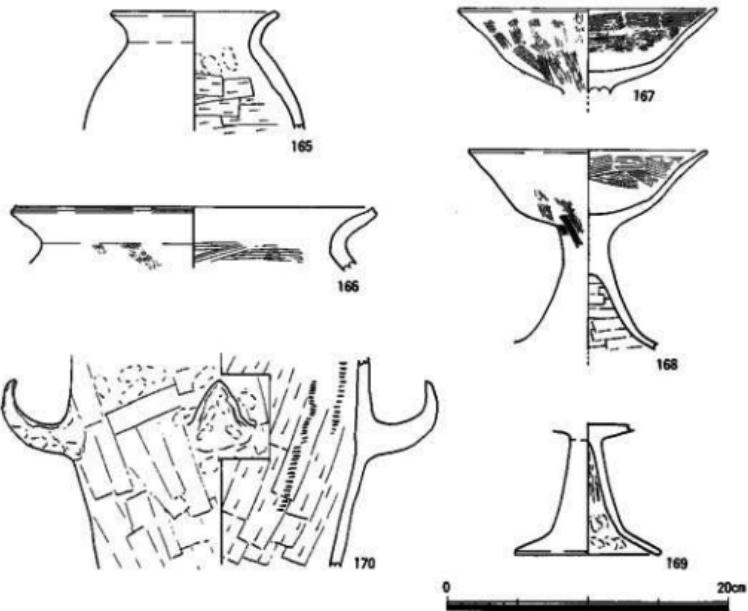
[土師器]

壺（165・166）のうち（165）口縁部が比較的短く、器壁は厚い。（166）の壺は比較的器壁が厚い。（167～169）の高杯は布留式期新相に比定される。瓶とみられるもののなかで図化できたものは（170）の1点のみである。（第27図）

第5層については奈良時代に比定される遺物がみられた。この包含層からは、コンテナ箱に



第26図 D区第6層出土遺物実測図Ⅰ



第27図 D区第6層出土遺物実測図II

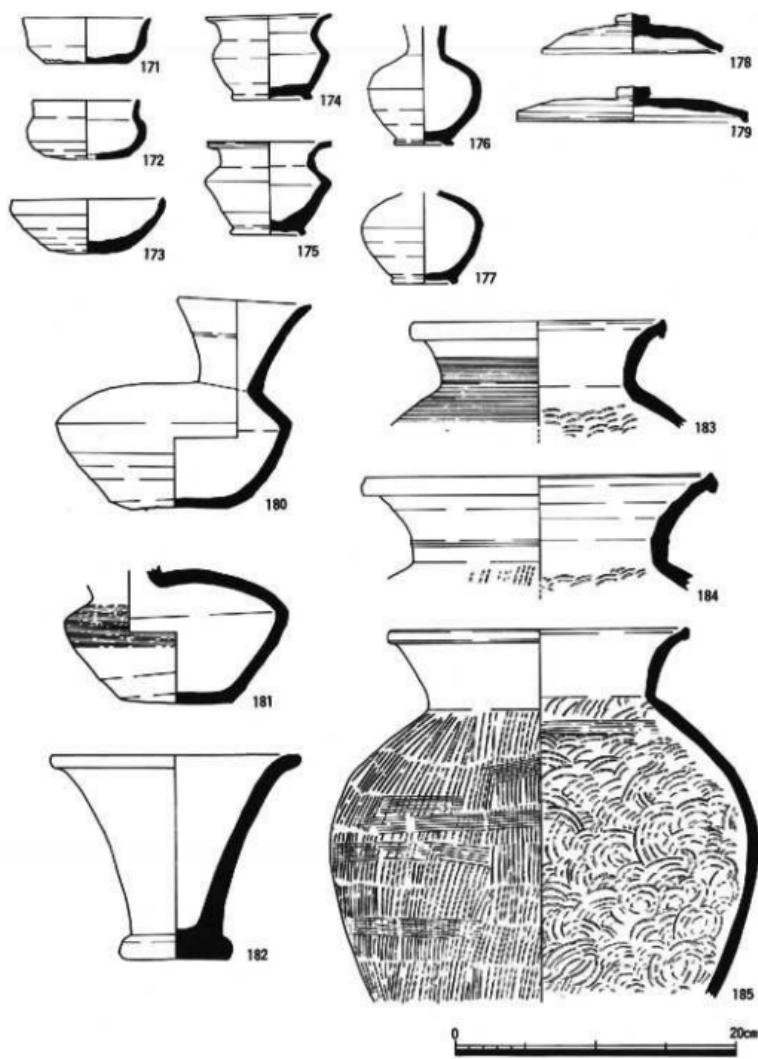
して3箱分の遺物が出土した。この出土遺物の内訳の割合は、須恵器（杯・杯蓋・壺・甕・鉢・平瓶）が38%、土師器（皿・杯・鉢・壺・甕・羽釜）が62%という結果で、土師器の占める割合が高い。器種別でみると須恵器では杯、壺、土師器では皿、甕が比較的多い。

これらの出土遺物のうち図化できたものは須恵器が15点（171～185）、土師器が21点（186～201）の計36点で全体の出土量からみると少ない。

〔須恵器〕

陶邑編年でみると第IV型式1～3段階に相当するものと思われる。

小型の杯には底部が平坦なもの（171）とやや丸みをもつもの（173）がある。体部が偏平な小型の壺（172）には肩部に蓋を受けるためのわずかに窪むところがみられる。また小型甕には同じ高台が付くものでも、口縁が広口のもの（174・175）と長頸とみられるもの（176・177）がある。擬宝珠形のつまみを有する杯蓋には口縁端部の丸いもの（178）と垂直に下がるもの（179）がある。平瓶の2個体（180・181）は同形態であるが、（181）の方には肩部の上下にカキメ調整が施されている。鉢（182）は厚い円盤状の底部をもつ。（183～185）の壺の体部外面を



第28図 D区第5層出土遺物実測図Ⅰ

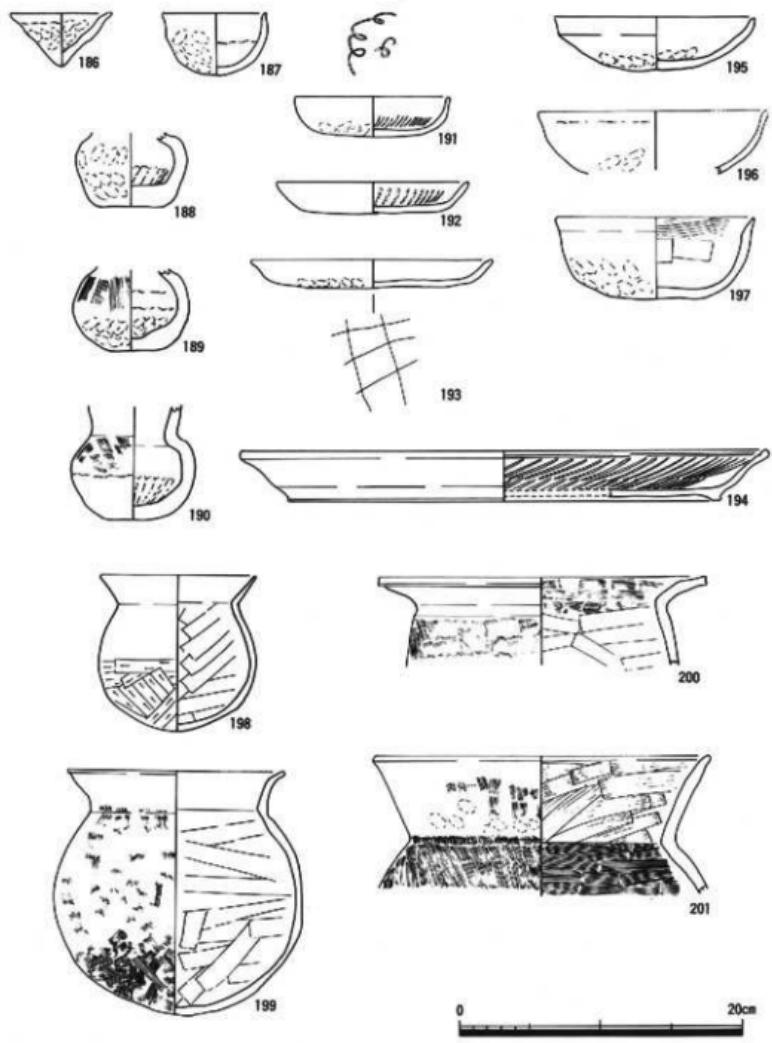
みると（183）はカキメ調整によってタタキの痕跡を消している。（第28図）

[上]師器

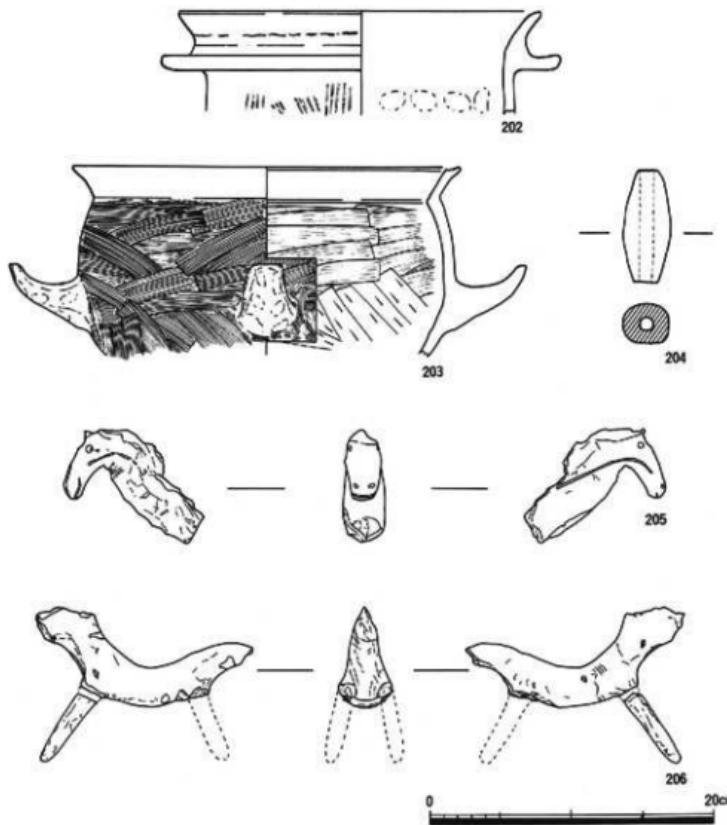
小型模造土器（186）および小型壺（188～190）は成形がほとんど手づくねによるもので、そのうち（186）に関しては「平常京右京八条一坊十一坪」調査の溝（S D-920）から出土したものと酷似しており、それから考え合わすと、何らかの祭祀に使用された可能性もある。（187）の小型壺は完形品である。当調査区で出土した数ある土師器杯のなかで、（191）のように底部内面に連結輪状ヘラミガキが明瞭に認められるものはこの杯1点のみである。中皿（192・193）のうち（193）の底部外面にはヘラ記号がみられる。（194）の大型の皿は「盤」と呼ばれる特別な儀式・宴等に食物の「盛り皿」として用いられるものである。（195・196）の杯は、両者とも成形および調整が粗雑である。（197）の椀は器種別にみるとひじょうに少ない。壺には体部が球形を呈するもの（198・199）と体部に張りをもたないもの（200）がある。（201）の壺は体部以下が欠損しており、詳細は不明である。（202）の羽蓋は形態的にみて菅原分類による河内A型bに類するものと思われる。（203）は舌型の把手が付く鍋であろう。（204）の土鍤がこの包含層から1点出土した。（205・206）の土馬に関してはどちらも原形をとどめず、（205）は頭部から首まで、（206）は胴部と前脚とみられるうちの片脚のみの残存である。また、（205）には馬具としての手綱がヘラ状工具によって線刻されている痕跡が認められる。両者とも形態的には馬具が省略され、裸馬の段階にはいる小笠原編年の第Ⅱ段階D形式（8世紀初頭）に比定されよう。（第29・30図）

土馬は現在までの出土例からみて、祭祀に関わる遺物とされている。大場勢雄氏によると上馬の出土は九州地方から東北地方南部までの広範囲に及ぶが、とくに畿内に多く、畿内でもとりわけ大和で顕著に出土する。その形態的特徴には馬具を表現した飾馬と、それを欠く裸馬の2種類がある。土馬の製作目的は、出土する遺跡と文献にみる馬との関連から水靈祭祀・峠神祭祀・祈雨祭祀・墓前祭祀などが考えられている。これらの分類から今回当遺跡から出土した土馬を考えると、形態的には後者の裸馬に近いといえるが、製作目的については何等かの祭祀に用いられたであろう事だけで、今回の場合決定付けられる遺構の痕跡はない。しかし、ここでまた小笠原氏の論説をみると、土馬の出土した遺構例では溝が多く、溝は土壤と同じく、しばしば諸物の廃棄処理にあてられる。民族例では、祈雨祭祀に川あるいは水路など水に関係したものの付近に祭場を設置するものが知られる。土馬の場合でも溝岸で祭儀がなされ、その後投棄された可能性も低くはないであろうとされている。

八尾市内における土馬の出土例をみると、当調査研究会において昭和62年に実施した「成法寺遺跡第3次調査（S H87-03）」_出及び「矢作遺跡第2次調査（Y H87-02）」_出、平成4年に実施した「菅振遺跡第12次調査（K F92-12）」_出があり、それらは今回出土したものとほぼ同一時期



第29図 D区第5層出土遺物実測図II



第30図 D区第5層出土遺物実測図

と考えられる。

そのなかでも菅振遺跡については飛鳥時代（7世紀頃）に比定される溝内からで、造構に伴ったものでは数少ない出土例といえる。この土馬は、脚と尾が欠けているが、現状で体長21cm、総高7.6cmを測り、土馬のなかでも大型の飾り馬で、馬具が写実的に表現されている。

〈E区〉

I. 検出遺構

現地下1.4m（標高8.4m）前後の第5層茶褐色～暗褐色粘質土上面において、鎌倉時代中期から末期に比定される小穴4個（S P-101～104）、土坑1基（S K-101）、溝8条（S D-101～108）を検出した。（第31図上）

小穴（S P 101～104）

S P-101

調査地東部4-h区で検出した。上面は円形を呈する。規模は検出部で径38cm、深さ10cmを測る。断面形は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

S P-102

4-h区で検出した。上面は梢円形を呈する。規模は検出部で長径62cm、短径40cm、深さ23cmを測る。断面形は2段逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

S P-103

S P-102の南西部で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で長径69cm、短径41cm、深さ16cmを測る。断面形は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

S P-104

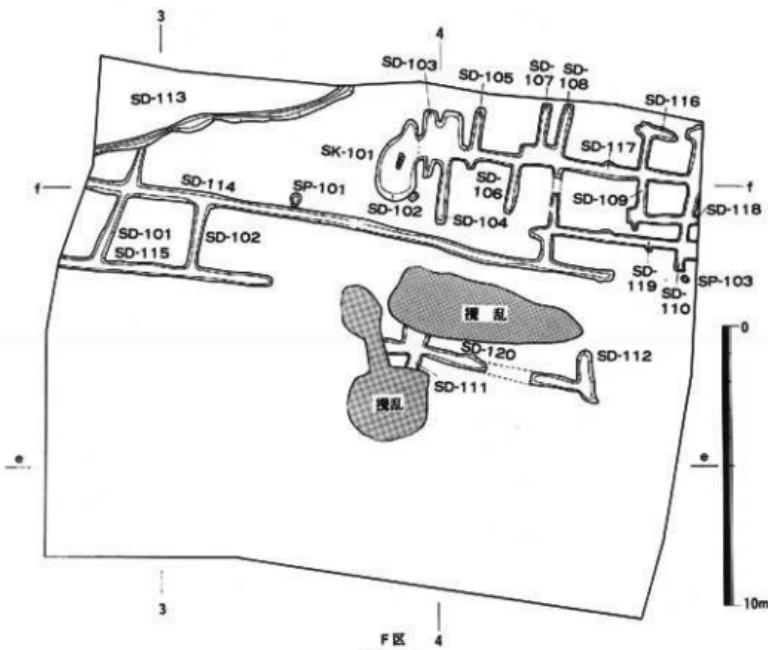
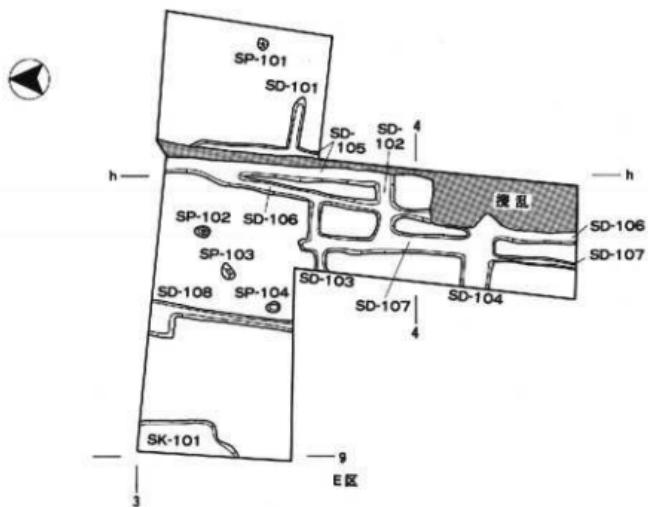
S P-105の南西部で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で長径55cm、短径40cm、深さ12cmを測る。断面形は椀形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土しなかった。

土坑（S K-101）

調査区西部4-h区で検出した。北部及び西部は調査区外に至る為、全容は不明である。規模は検出部で最大幅3.6m、最小幅1.2m、深さ6cmを測る。遺構内埋土は灰色～暗灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土している。

溝（S D-101～108）

他の調査区同様、農耕に伴う鋤溝である。方位で区別すると東西方向に4条（S D-101～104）、南北方向に4条（S D-105～108）である。溝の検出幅は0.2～1.0m、深さ10～20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色～暗灰色粘質土の単一層で、内部からは土師器の小片が少量出土した。



第31図 E区、F区遺構平面図

II. 遺構に伴わない出土遺物

第4～6層にかけての堆積層から遺物が僅かに出土している。第6層では古墳時代前期（庄内式期）から古墳時代後期に比定される遺物、第5層では古墳時代後期から奈良時代に比定される遺物、第4層では鎌倉時代中期から末期に比定される遺物がみられる。しかし、それらはすべて小片で図化できるものはなかった。

（F区）

I. 検出遺構・出土遺物

現地下1.4m（標高8.4m）前後の第5層茶褐色～暗褐色粘質土上面において、鎌倉時代中期から末期に比定される小穴3箇所（S P-101～103）、土坑1基（S K-101）、溝20条（S D-101～120）を検出した。（第31図下）

小穴（S P-101～103）

S P-101

4f区で検出した。上面は椭円形を呈する。規模は検出部で長径52cm、短径43cm、深さ5cmを測る。断面形は浅い皿形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

S P-102

4f区で検出した。北東の一部はS K-101に切られる。上面は円形を呈する。規模は検出部で径30cm、深さ5cmを測る。断面形は楕形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

S P-103

5f区で検出した。上面はほぼ円形を呈する。規模は検出部で径25cm、深さ6cmを測る。断面形は逆台形を呈し、遺構内埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。

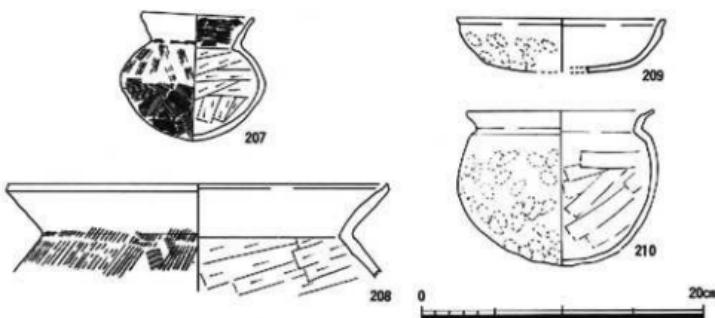
土坑（S K-101）

S K-101

4g区で検出した。南部はS D-103と合流する。上面は不定形を呈する。規模は最大幅3.0m、最小幅1.4m、深さ28cmを測る。断面は浅い楕形を呈し、遺構内埋土は灰色～暗灰色粘質土の単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土している。

溝（S D-101～120）

E区同様、農耕に伴う耕溝と思われる。方位で区別すると東西方向に12条（S D-101～112）、南北方向に8条（S D-113～120）である。溝の検出幅は0.2～1.0m、深さ10～20cmを測り、断面の形状は逆台形を呈する。溝内埋土は灰色～暗灰色粘質土の単一層で、各溝からは



第32図 E区第5層出土遺物実測図

土師器の小片が少量出土した。

II. 遺構に伴わない出土遺物

E区同様に第4層から第6層にかけて、古墳時代前期から鎌倉時代末期までの遺物が僅かに出土している。それらのはほとんどは小片であったが、その中で固化できたものは第5層から出土した古墳時代前期に比定される小型丸底壺（207）、壺（208）、奈良時代に比定される杯（209）、壺（210）の4点である。（第32図）

第3節 出土遺物観察表

A区

遺物番号 図版番号	器 出土地点	種 類	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色 調	粘 土	焼 成	備 考
1 盃 備 須恵器 第5層		口径	11.6		天井部から外下方向へ直線的に伸びる口縁部に至り、 漏斗内面にかえりを有す。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
2 杯 備 須恵器 第5層		口径	16.8		平坦な天井部から外方へ下る口縁部に至る。端部は丸くおさめる。 内面ナデ、外側回転ヘラケズリ。	灰色	精良	良好	
3 両 上	つまみ径 2.85 つまみ高 0.9				平坦な天井部に幅広な腰宜珠形のつまみがつく。 内面中央及びつまみナデ、その他の回転ナデ。	黒灰色	精良	良好	
4 両 上	口径 16.4 高台 2.9				偏平なつまみをもち、平らな天井部から端部は直 角して細く仕上げる。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
5 碗 須恵器 第5層	高台径 5.6 高台高 0.6				底部はヘラキリのち、高台を貼り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
6 杯 身 須恵器 第5層	高台径 9.6 高台高 0.4				底部はヘラキリのち、高台を「ハ」の字状に貼り 付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
7 両 上	高台径11.2 高台高 0.6			両 上		灰色	精良	良好	
8 両 上	高台径13.2 高台高 0.5			両 上		灰色	精良	良好	
9 両 上	高台径13.2 高台高 0.6			両 上		灰白色	精良	良好	
10 両 上	口径 17.6 器高 3.8 高台径11.6 高台高 0.5				平坦な杯底部から上方へ伸びる。U字縫部は丸 く終まる。底部はヘラキリのち、高台を「ハ」の字 状に貼り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
11 両 上	高台径16.0 高台高 0.7				底部はヘラキリのち、高台を貼り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
12 九	両 上				「ハ」の字状に開いたしつかりした高台をもち、 内面に直線で縫合する。 内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	
13 両 上	高台径18.8 高台高 0.6				底部は広く平坦とおもわれる。 内面同心円タタキ、外面タタキ。	灰色	精良	良好	
14 平 板 須恵器 第5層	-				U縫部は体部中央から外れて接合され、U縫部を もって底部に至る。体部3/5焼成。 外側回転ヘラケズリ、内面ナデ。	灰色	精良	良好	
15 裏 須恵器 第5層	口径 28.4				口縫部はほぼ直立気味に近く伸びる。体部欠損。 口縫部内外面ナデ、内部内面は同心円タタキのち ナデによるすり消し。	灰色	-	精良	良好

遺物番号 団体番号	器 出土地点	機 法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色	調	胎	土	焼成	備考
16	蓋 須恵器 第5層	口径 45.6		口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は外側へやや肥厚する。 内外面ともにナデ。	灰白色		精良		良好	
17	小皿 土器器 第5層	口径 13.0	器高 2.9	平坦な底部から内側して斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。 外面は密なヘラミガキを施しているとおもわれるが、自然輪付着及び剥離が激しいため調査の評価は不明である。	褐褐色		精良		良好	
18	同上	口径 12.0		平坦な底部から屈曲して斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く仕上げる。 外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶色		長石・雲母 を含む		良好	
19	中皿 土器器 第5層	口径 20.0		平坦な底部から一段屈曲したのち、外反気味に緩く伸びる口縁部に至る。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外周ユビ押さえ、ナデ、内面ナデ。	淡茶褐色		長石・石英 を含む		良好	
20	中皿 土器器 第5層	口径 21.8	器高 3.35	平坦な底部から内湾気味に屈曲したのち、外反気味に緩く伸びる口縁部に至る。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外周ユビ押さえ、ナデ、内面ナデ。	淡茶褐色		長石・雲母 を含む		良好	
21	鉢 土器器 第5層	口径 17.6		やや内湾気味に伸びる体部から口縁部は内側に屈曲する。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外周ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶褐色		長石・雲母 を含む		良好	
22	同上	口径 20.0		体部は外反しながらほぼ直線的に伸び、端部は丸く終わる。 外面にヘラミガキを施しているとおもわれるが、剥離が激しいため調査の評価は不明である。内面ナデ。	褐色		精良		良好	
23	同上	口径 30.0		体部は外反しながら伸び、端部は内傾する面をもつ。 体部外周ヘラケズリ、ナデ、内面不定方向のナデ	褐褐色		長石を含む		良好	
24	裏 土器器 第5層	口径 11.6		張りのない体部から緩やかに屈曲して、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ。	褐褐色		精良		良好	
25	同上	口径 16.0		斜内方へほぼ直線的に伸びる体部から屈曲して、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はややつまみ上げる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外周ユビ押さえ、内面ハケメ、体部外周ハケメ（6本）、内面ヘラケズリ。	淡茶褐色		長石・雲母 を含む		良好	
26	同上	口径 21.0		張りのある体部から屈曲して斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はややつまみ上げる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外周ユビ押さえ、内面ハケメ、体部外周ハケメ（6本）、内面ヘラケズリ。	淡茶褐色		精良		良好	庄内式土器
九	同上	口径 32.4		直上気味に伸びる体部から屈曲して、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともにナデ。	淡茶灰色		長石・石英・ 雲母を含む		良好	

遺物番号 国歴番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
28	壺 上輪器 第5層		口径 36.0	短く直上する肥厚した口縁部をもつ。体部欠損。 外側ユビナデのちハケメ、内面ナデ。	橙褐色	雲母・角閃石を含む	軟	
29	ミニチュア杯 土輪器 第5層		底径 3.6	脚部は下外方へ外反して短く開き、端部は下に曲がる。 外側ユビナデ、内面ナデ。	暗青褐色	長石・雲母を含む	良好	
30	高杯 土輪器 第5層		-	6角径に面取りされた脚部のみ遺存する。 外側ユビナデと具有する面取りのちナデ、内面ナデ。	橙褐色	長石・雲母クサリ輝石を含む	良好	
31	羽釜 土輪器 第5層		口径 22.6 脚径 25.2	脚部は水平に伸び、口縁端部は丸い。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケメ、脚部ヨコナデ。	茶褐色	長石を含む	良好	
32	同上		脚径 25.0	脚部のみ遺存。脚部は上外方へ伸び、端部は丸く終わる。 内外面ともにナデ。	茶褐色	長石を含む	軟	
33	同上		脚径 28.2	脚部のみ遺存。脚部は水平に伸び、端部は肥厚して丸く終わる。 内外面ともにナデ。	茶褐色	長石を含む	良好	

B区

遺物番号 国歴番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	壺 須恵器 SE-201		口径 16.8	外上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 内外面ともにヨコナデ。	灰色	精良	良好	自然釉付着
35	杯身 須恵器 SE-201		高台径14.6 高台高 0.6	「ハ」の字状の高台が付く平底な底部から、内湾して立ち上がる体部に至る。 内外面ともにヨコナデ。	灰色	精良	良好	底部外面に「西」の墨書きあり
36	壺 須恵器 SE-201	口径 17.6 器高 14.8 高台径 9.2 高台高 0.8 体部最大径 19.0	口径 17.6 器高 14.8 高台径 9.2 高台高 0.8 体部最大径 19.0	「ハ」の字状の高台が付くやや平底な底部から、鋸く脇の強まる体部に至り、一旦立ち上がって上外方へ外反する口縁部に至る。端部は若干つまみ上げ、外側する面をもつ。 口縁部から肩にかけては内外面ともにヨコナデ、以下底部内面凹縫ナデ、外側露輪ユビナデ、底部内外面ともにナデ。	灰色	精良	良好	光沢
37	同上		体部最大径 19.0 高台径 8.2 高台高 0.7	形態は36と同様。(口縁部の一部欠損。) 内外面ともにナデ。	灰色	精良	良好	
38	杯 土輪器 SE-201		口径 13.7	平底とおもわれる底部から内湾して、上外方へ伸びる口縁部に至る。 内外面ともにヨコナデ。	黄褐色	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	
39	同上		口径 13.4	底部から屈曲して直上気味に伸びる口縁部にいたり、端部は丸く終わる。 内外面ともにヨコナデ。	黄褐色	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	

遺物番号 国宝登録番号	器種 出土地元	法蓋 口径 器高 (cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	燒成	備考
40 一〇	杯 土師器 SE-201	口径 13.6 器高 3.6	広く平坦な底部からやや内溝気味に立ち上がり、 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともヨコナデ、底部ナデ。	淡褐色	0.5mm以下の 砂粒を含む	良好	底部外間に 「+」のヘ ラ記号あり
41	中 直 土師器 SE-201	口径 18.6	底盤から外反しながら立ち上がる口縁部に至る。 内面に2段の放射状踏文、外面は富なハラミガキ	橙色	2mm以下の 砂粒を含む	良好	
42	同 上	口径 21.8	口縁部の形態は41と同様 口縁部内面から体部内面にかけて放射状のハラミ ガキ、外面ヨコナデ。	淡褐色	0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	
43	鉢 土師器 SE-201	口径 25.6	内溝して伸びる口縁部に至り、端部は丸く終わる 内面ヨコナデ・ナデ、外面ナデのちハラケズリ。	淡褐色	2mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	
44	壺 土師器 SE-201	口径 18.1	張りのない体部から内溝して上外方へ外反気味に 伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側する 面をもつ。 口縁部内外面ともヨコナデ、体部内面ハラケズ リ、外面ハケメ（10本）。	淡褐色	0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	
45 一〇	同 上	—	平坦な底部から内溝して上外方へ立ち上がる体部 に至る。体部下半の内造存。 外面ともにナデ。	茶褐色	精良	良好	
46	高 杯 (ミニチュ ア) 土師器 SE-201	—	接合手法を用いる。柱上部の一部のみ造存。 体部外面は丁寧なハラケズリ、内面ナデ、脚部は 内外面ともにナデ。	橙色	精良	良好	
47 一〇	高 杯 土師器 SE-201	底径 12.0	杯部は欠損。脚部は10角形の面取りを施した柱状 器から墨出し、外下方向へ大きく聞く脚部に至る。端 部は外側する面をもつ。 柱状部外面ハラケズリ、脚部は内外面ともにユビ ナデ。	淡茶褐色	精良	良好	底部内面に 「高杯」の 墨書きあり
48	羽 築 土師器 SE-201	鉢径 29.6	脚部はやや上外方へ伸びる。脚部のみ造存。 脚部ヨコナデ、体部内面ハケメ（10本）、外面ユ ビ押さえ・ナデ。	茶褐色	2mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	
49	同 上	—	脚部先端部は欠損。 脚部ヨコナデ、体部内面ハケメ、外面ユビ押さえ・ ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	
50	把手 土師器 SE-201	—	舌形を呈する。 ユビ押さえ・ナデ。	淡褐色	精良	良好	
54 一〇	杯 盖 須恵器 第5型	口径 17.2 器高 2.1 つまみ径 2.9 つまみ高 0.7	凹状の天井部から外下方へ伸び、直立に近く下げる U字縁部に至る。端部は尖り氣味に終わる。天井部中央に 低く優平でややむし擬宝珠状のつまみが付く。 内外面ともに粗軽ナデ。	外 淡灰色 内 淡青灰色	3mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	軽用器
55 一〇	杯 盖 須恵器 第5型	口径 19.2 器高 4.2 高台径14.2	「ハ」の字状の高台が付く平坦な底部から、やや 丸みをもって立ち上がり、上外方へ漸進的に伸びる U字縁部に至る。端部は尖り氣味に終わる。 内外面ともに粗軽ナデ。	灰色	3mm以下の 砂の粒子を 含む	良好	

遺物番号 回収番号	器種 出土地点	法蓋 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
56	中腹 土師器 第5層	口径 器高	11.8 2.9	平坦な底部から斜上方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は丸みをもってやや内側に巻き込む。 口縁部内面は2段の放射状のヘラミガキ、底面内面は直進輪状のヘラミガキで施はナデ。	乳茶灰褐色	長石・雲母 を含む	良好	
57	杯 土師器 第5層	口径 器高	13.6 3.8	やや丸みのある底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干盛り、内傾面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内面ナデ、外面ユビナデ。ユビ押さえ	淡茶褐色	長石・雲母 を含む	良好	ほぼ完形
58	同上	口径	16.0	丸みのある底部から、外反する口縁部に至る。端部は丸みをもつて終わる。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内面ナデ、外面指留印或形後、一部ヘラナデ。	淡茶色	長石・雲母 を含む	良好	
59	小型鉢 土師器 第5層	口径 器高	11.0 7.1	平坦な底部から球形の体部に至り、上外方へ短く直線的に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部から底部にかけて内外面ユビナデ。	橙褐色	長石を含む	良好	
60	甕 土師器 第5層	口径	22.4	比較的張りの弱い体部から弧曲して上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデのちハケメ、外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ、外側ハケメ(8本)。	外 茶褐色 内 淡褐色	長石・クサ リ礁を含む	不良	保付着
61	同上	口径	25.0	張りの弱い体部から屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ、外側ハケメ(10本)。	淡橙褐色	長石・雲母 を多量含む	良	保付着
62	同上	口径	31.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部にいたる。端部は外傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデのちハケメ(8本)。	淡橙褐色	精良	良好	
63	把手 土師器 第5層	—	—	舌形を呈する。 ユビ押さえのちナデ。	茶褐色	精良	良好	
64	同上	—	—	同上	暗橙褐色	精良	不良	

C区

遺物番号 回収番号	器種 出土地点	法蓋 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
65	杯置 土師器 第5層	口径 器高	14.0 3.0	やや凹面の天井部から、明瞭な棱をもたず屈曲し下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 天井部外面1/4回転ヘラケズリ、その他回転ナデ	紫灰色	精良	良好	
66	同上	口径 器高	14.2 4.3	平坦な天井部から、明瞭な棱をもたず屈曲し、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い面をもつ。 天井部外面1/4回転ヘラケズリ、その他回転ナデ	灰褐色	精良	良好	

遺物番号 同版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
67	杯型 須恵器 第6層	口径 15.4 器高 3.7	66と同様。		紫灰色	精良	良好	
68 -○	同上	口径 16.2 器高 4.7	形態は66と同様。 天井部外周回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		灰白色	精良	良好	
69 -○	同上	口径 16.2 器高 5.4	やや丸みをもつ天井部から、明顯な縁をもたず唇 無し、下外方へドリの口縁部に来る。縁部は内傾する 浅い凹面をもつ。 天井部外周回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		灰白色	精良	良好	
70	舟身 須恵器 第6層	口径 12.0 器高 4.2 立ち上がり 高 1.5 受部径14.0	丸みをもつとおもわれる杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 端部は鋸く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外周回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		灰褐色	精良	良好	
71	同上		平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 端部は鋸く尖る。口縁部欠損。 底体部外周回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		青灰色	精良	良好	
72 -○	同上	口径 12.6 器高 4.7 立ち上がり 高 1.5 受部径14.0	やや深く丸みをもつ底体部から受部にいたる。受部は水平に伸び、 端部は鋸く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外周回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		灰褐色	精良	良好	
73	同上	口径 12.8 器高 3.9 立ち上がり 高 1.6 受部径15.2	平坦な杯底部から受部にいたる。受部は水平に伸び、 端部は鋸く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に 伸び、端部は丸い。 底体部外周1/3回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		灰白色	精良	良好	
74	同上	口径 13.6 器高 4.7 立ち上がり 高 1.6 受部径15.8	丸みをもつ底体部から受部にいたる。受部は水平に伸び、 端部は鋸く尖る。立ち上がりは上内方へ外 反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外周回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		紫灰色	精良	良好	受部の上方 に重ね模様 の実跡あり
75 —	同上	口径 13.6 立ち上がり 高 1.2 受部径16.5	同上(但し、底部一部欠損。)		紫灰色	精良	良好	
76 —	同上	口径 13.7 器高 4.9 立ち上がり 高 1.4 受部径16.2	やや丸みをもつ杯底部から受部に至る。受部は水 平に伸び、端部は鋸く尖る。立ち上がりは上内方へ 外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外周回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。		灰白色	精良	良好	
77	同上	口径 13.7 器高 5.0 立ち上がり 高 1.2 受部径16.4	同上		灰白色	精良	良好	

遺物番号 國立考古学 研究所	出土地点 種類	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成 度	備 考
78	杯身 須恵器 第6層	口径 13.6 器高 4.4 立ち上がり 高 1.7 受部径 16.2	平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 縁部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、 縁部は鋭く尖る。 底体部外側回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰色	精良	良好	ほぼ完形
79	杯身 須恵器 第6層	口径 13.7 器高 5.0 立ち上がり 高 1.6 受部径 16.2	平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 縁部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、 縁部は内傾する浅い凹面をもつ。端部は鋭く尖る。 底体部外側回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	青灰色	精良	良好	
80	杯身 須恵器 第6層	口径 13.8 器高 5.0 立ち上がり 高 1.8 受部径 16.4	平坦な杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、 縁部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、 縁部は丸い。 底体部外側回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	灰色	精良	良好	
81	盃 須恵器 第6層	体部最大径 9.6	最大径を中位より上にもつ球形に近い体部で、口 縁部は欠損。底部は丸底。体部中位よりやや上に一方 側かしを有する。 肩部外側回転ナデ、底部外側回転ヘラケズリ、内 側回転ナデ。	灰色	4mm以下の 砂粒を含む	良好	
82	小型盃 須恵器 第6層	体部最大径 12.6	球形の体部を呈する。口縁部欠損。 体部中央にカキメを施す。	灰色	精良	良好	
83	提瓶 須恵器 第6層	-	肩にカギ状に屈曲する耳がつく。耳の先端部は尖 る。 体部回転ナデ、カギ状把手部ナデ。				
84	横瓶 須恵器 第6層	口径 11.6	横形を呈するとおもわれる体部に、上外方へ伸び るU縁部がつく。縁部はややつまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部内外面とともに回転ナデ、体部外面は細かい タタキのちカキメ、内面同心円タタキ。	灰白色	織を含む。	良好	
85	甕 須恵器 第6層	口径 19.6	内上方へ滴出する体部から屈曲して上外方へ外反 するU縁部に至る。縁部は外傾する浅い凹面をもつ 体部中位以下欠損。 口縁部内外面にカキメ、内面ヨコナデ、体部外面タタ キのちカキメ、内面同心円タタキ。	白灰色	精良	良好	
86	鉢 土師器 第6層	口径 11.4	丸みをもつ体部から屈曲して、斜上方へ内湾気味 に伸びる口縁部にいたる。縁部は鋭く尖る。底部欠 損。 口縁部内外面とともにヨコナデ、体部内外面ともに ナデ。	淡褐色	雲母を含む	良好	布留式土器
87	甕 土師器 第6層	口径 16.0	体部から緩やかに屈曲して、上外方へ伸びる口縁 部に至る。縁部はややつまみ上げ、外傾する面をも つ。 口縁部内外面とともにヨコナデ。	紫褐色	長石・雲母 を含む	良好	

D区

遺物番号 出土地点	器種 法量	口径 器高	形態・測定等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
88 杯 根芯器 SE-201	つまみ径 2.8 つまみ高 0.6	つまみ径 15.6 器高 3.8	天井部外側に僅かな擬宝珠状のつまみが付く。口縁部外折。 つまみ及び内面中央ナデ、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
89 壺 根芯器 SE-201	口径 17.8	15.6 器高 3.8	いわゆる壺臺形の蓋と考えられる。中央部に擬宝珠つまみを付し、大井部端からほんの一点下の口縁部をうち、堆部は内削する。 内外面ともに回転ナデ。	灰白色	精良	良好	外面に白熱釉付着。
90 杯 根芯器 SE-201	口径 9.4	9.4	底部はヘラキリのち、高台を貼り付ける。 内外面ともに回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
91 壺 根芯器 SE-201	口径 17.8	17.8	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、堆部は近く内削して外に面をもつ。 底部外側近くに2条の凹線を施らせ、その下に沈穂をもつ有する。底部内面には14本前の唇状工具による列点文を施す。内面ナデ。	灰白色	精良	良好	
92 平瓶 根芯器 SE-201	口径 8.3 器高 15.2	8.3 15.2	全体的に丸みをもたら、底部が平坦で最大径を上位にもつ体部の片端に、上外方へやや内削気味に伸びる口縁部が付す、端部は丸く終わる。 体部外側下半へラケヅリ、その他の回転ナデ。	灰白色	精良	良好	完形 窓の方の周部にへつ状 T字による 沈穂2条の 記号?あり
93 小型壺 七輪器 SE-201	口径 11.6 器高 11.8	11.6 11.8	球形の体部から瓶やかに傾曲して上方へ外反して伸びる口縁部に至る。堆部は丸く終わる。 口縁部の外側とともにヨコナデ、体部外側ユビナデ、内面ヘラケヅリ。	淡褐褐色	長石・雲母 を多量含む	良好	ほぼ完形
94 壺 土器器 SE-201	口径 16.1	16.1	丸みをもつ体部から傾曲して斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。堆部は丸く終わる。体部中位以下欠損。 口縁部内外面とともにヨコナデ、体部外側ハケメナデ、内面ナデ。	淡褐色	長石を含む	良好	
95 同上	口径 18.0	18.0	体部から外上方へ内削気味に伸びる口縁部に至る。堆部は丸く終わる。 口縁部内外面とともにヨコナデ。	淡黄褐色	精良	良好	
96 同上	口径 18.2	18.2	体部は丸く終わる。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケメ、瓶部外側にハケメがみられる。	淡褐色	精良	良好	
97 同上	口径 21.4	21.4	体部から上方へ内削気味に伸びる口縁部に至る。堆部はやや外削する面をもつ。 口縁部内外面とともにヨコナデ、ハケメ。	茶褐色	長石を含む	良好	
98 同上	口径 18.8	18.8	上内方へ内削気味に伸びる体部から傾曲して外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。堆部は丸く終わる。 体部中位以下欠損。 口縁部内外面とともにヨコナデ、内面ハケメ、体部内外面とともにハケメ(6本)。	淡茶褐色	長石・雲母 ・角閃石を 含む。	良好	
99 鉢 十輪器 SE-201	口径 13.6	13.6	上内方へ内削気味に伸びる体部である。堆部はやや外側へつむ。 内外面ともにナデ。	明褐茶色	長石・角閃石を 少量含む。	良好	
100 杯 土器器 SE-201	口径 15.0	15.0	やや丸みをもつ体部から外反しながら立ち上がる口縁部に至る。堆部は内側に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外側ナデ、内面ヘラミガキ。	淡褐褐色	精良	良好	

植物番号 園版番号	基出土地点	機器 法量 (cm)	口徑 器高	形態・調整等の特徴	色 調	貯 土	焼成	備 考
101	大皿 土鍋器 SE-201	口徑 31.4		底部から一旦内湾して立ち上がり、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、外に面をもつ。 外面部ア、内面部放射状暗文を施す。	灰青褐色	精良	良好	
105	杯蓋 調理器 SE-202	口徑 14.0	器高 4.4	凹面をもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。後は形化して、端部は内横する面をもつ。 大舟部/JC回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
106	同上	口徑 17.0		天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は外に面をもつ。 内外面ともにヨコナデ。	暗灰色	やや精良	良好	
107	羹 須恵器 SE-202	口徑 26.1		丸みのある体部から屈曲して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はややつまみ上げ、外傾する面をもつ。 内外面ともにナデ。	灰色	精良	良好	
108	中皿 土鍋器 SE-202	口徑 18.8		平坦な底部から斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。 内外面ともにナデ。	淡褐色	精良	良好	
109	同上	口徑 21.4		同上。(底部欠損。)	橙色	精良	良好	
110	把手 土鍋器 SE-202	—		舌形を呈する。 ユビ押さえのちナデ。	暗褐色	精良	良好	
111	小型坐 土鍋器 SE-202	口徑 14.8	器高 11.6	丸底の底部から内湾する体部にいたり、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。 口縁部内外面ともにヨコナデ。底部内面ヘラケズリ、体部内外面ともにナデ、底部外縁ユビ押さえナデ。	茶褐色	精良	良好	ほぼ完形 保存者
112	把手付 土鍋器 SE-202	口徑 18.2	器高 14.9	球形の体部から屈曲して斜上方へ外反する口縁部に至る。端部は上に浅い凹面をもつ。体部の両側に一对の舌形をした把手が付く。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外側面ともにナデ。	黒褐色	長石・2mm 以下の砂粒 を含む。	良好	
113	羹 土器 SE-202	口徑 27.4		張りのある体部から屈曲して斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。 J型縁部内外面ともにヨコナデ。体部外側面ハケメ。(5~6本)、内面ヘラケズリ。	黑褐色	精良	良好	庄内式土器
117	羹 須恵器 落ち込み	口徑 13.6		斜上方へ外反して立ち上がる口縁部で、端部はややつまみ上げ。 内外面ともにナデ。	褐色	精良	良好	
118	同上	口徑 16.4		体部から斜上方へ大きく外反する口縁部に至る。端部は外傾する浅い凹面をもつ。 内外面ともにナデ。	灰白色	精良	軟	
119	杯身 須恵器 落ち込み	高台径 9.4		「ハ」の字状に高台が付く平底な底部から屈曲して、上外方へ内湾気味に伸びる体部に至る。口縁部欠損。 底部外側ヘラキリのちヘラナデ、その他回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
120	同上	口徑 15.8		高台が付く平底とおもわれる底部から屈曲して、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部はやや尖り気味に終わる。 底部外側ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
I21 一六	杯 須恵器 落ち込み	口径 16.4 器高 4.2	平坦な底部から斜上方へ直線的に立ち上がる口縁部に至る。端部は丸く終わる。底部の一部欠損。底部外側ハケナデ、その他鉄ナデ。	灰白色	精良	良好	
I22 一六	同上	高台径 6.3 高台高 0.7	平坦とおもわれる底部に断面近三角形の「ハ」の字状に開く高台が付く。内外面ともにナデ。	灰色	精良	良好	底部外側に「寺」のよう墨書きあり。
I23	鉢 土師器 落ち込み	口径 12.6	丸みをもつ体部から緩やかに屈曲して斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともにナデ。	灰褐色	精良	良好	布留式土器
I24	同上	口径 12.6	同上	褐色	精良	良好	布留式土器
I25	同上	口径 22.8	形態は同上。口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ、内面ナデ。	淡黄褐色	精良	良好	布留式土器
I26 一六	小皿 土師器 落ち込み	口径 9.0 器高 1.2	やや盛りだ底部から斜上方へ内湾気味に伸びる口縁部にいたる。端部は丸く終わる。内外面ナデ。	淡褐色	精良	良好	
I27	中皿 土師器 落ち込み	口径 19.8	平坦とおもわれる底部から上外方へ緩やかな立ち上がる口縁部に至る。端部はやや内側に凹屈する。口縁部内面ヨコナデのちハラミガキ、外面ヨコナデ、底面内外面ともにナデ。	淡褐色	精良	良好	
I28	同上	口径 18.6	平坦とおもわれる底部から一旦立ち上がり、外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸くおさめ、内面に3条の沈線を施す。口縁部内外面ともにヨコナデ。底面外側ユビ押さえ、ナデ、内面ナデ。	黄褐色	長石を含む	良好	
I29	同上	口径 19.8	平坦とおもわれる底部から外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上に浅い凹面を有する。口縁部内外面ともにヨコナデ、底面内外面ともにナデ。	黄褐色	精良	良好	
I30	大皿 土師器 落ち込み	口径 25.2	平坦とおもわれる底部から屈曲して斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚する。口縁部内外面ともにヨコナデ、底面内外面ともにナデ。	暗褐色	精良	良好	
I31	同上	口径 27.4	形態はI28と同様。口縁部内面ヨコナデのち放射状ハラミガキ、外面ヨコナデ。	暗褐色	精良	良好	
I32 一六	杯 土師器 落ち込み	口径 13.0 器高 3.65	平坦な底盤から緩やかに内湾して立ち上がる口縁部に至る。端部は内側に張る。口縁部内面ヨコナデのちハラミガキ、外面ヨコナデ、底面外側ユビ押さえ、ナデ、内面ナデ。	淡褐色	精良	良好	底部外側に「信」の墨書きあり。
I33	臺 土師器 落ち込み	口径 20.0	比較的器壁の厚い口縁部で、端部は純く尖る。内外面ともにヨコナデ。	明褐色	長石・角閃石を含む	良好	
I34	同上	口径 24.6	張りのある体部から屈曲して外上方へ外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。口縁部内面ヨコナデのちハケメ（6本）、外面ヨコナデ、体部内外面ともにハケメ（6本）。	淡褐色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	出土地点	種 法量 (cm)	径 器高	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
135	堀 土師器 落ち込み	口径 24.2		体部から「く」の字状に屈曲して外上方へ伸びる口 縁部に至る。端部は外傾する浅い凹面をもつ。 口縁部内外面ともに口コナデ。	淡黄褐色	精良	良好	
136	把手 土師器 落ち込み	—		スピ押さえのちナデ、一部ハケメ。	淡褐色	長石・雲母 ・石英を含む	良好	
137	羽茎 土師器 落ち込み	口径 30.6		器は水平に伸び、端部は丸く終わる。器部のみ造 成。 器部ヨコナデ、内面ナデ。	淡黄色	精良	良好	
138	同上	口径 37.4		同上	暗褐色	精良	良好	
139	土錐 上部器 落ち込み	長さ 7.0 最大径 1.6 孔径 0.4		手づくね成形。管状形。外外面折出し成形後ナデ。	淡黄色	精良	良好	
140	杯型 頭巻器 第6巻 六	口径 16.2 器高 4.4		平坦な天井部から、明瞭な棱をもたず屈曲し、下 方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面 をもつ。 天井部外周1/2回転ヘラケゼリ、内面円弧タタキ その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	
141	同上	口径 15.2 器高 4.3		同上	外 暗灰色 内 灰色	精良	良好	
142	同上	口径 15.4 器高 4.6		丸みをもつ天井部から、明瞭な棱をもたず屈曲し 下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹 面をもつ。 大井部外周1/4回転ヘラケゼリ、その他回転ナデ。	淡青灰色	精良	良好	
143	同上	口径 14.5 器高 4.7		平坦な天井部から、明瞭な棱をもたず屈曲し、下 外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面 をもつ。 天井部外周1/4回転ヘラケゼリ、その他回転ナデ。	淡青灰色	精良	良好	
144	同上	口径 15.2 器高 4.1		同上	暗灰色	精良	良好	
145	同上 六	口径 16.2 器高 4.5		形態は同上。 天井部外周2/3回転ヘラケゼリ、その他回転ナデ。	外 灰色 内 淡青灰色	精良	良好	完形
146	同上 六	口径 14.6 器高 4.1		やや丸みをもつ天井部から、明瞭な棱をもたず屈 曲し、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面 をもつ。 天井部外周1/2回転ヘラケゼリ、その他回転ナデ。	外 灰色 内 淡青色	3~5mmの 砂礫を少量 含む	良好	完形
147	同上 一六	口径 14.8 器高 4.2		平坦な天井部から、明瞭な棱をもたず屈曲し、下 外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面 をもつ。 天井部外周1/2回転ヘラケゼリ、その他回転ナデ。	灰色	2~3mmの 砂礫を少量 含む	良好	
148	同上	口径 15.2 器高 4.1		同上	淡青灰色	1~2mmの 砂礫を少量 含む	良好	
149	同上	口径 13.6 器高 3.9		同上	灰黑色	1~2mmの 砂礫を含む	良好	
150	同上	口径 13.8 器高 3.8		やや丸みをもつ天井部から、明瞭な棱をもたず屈 曲し、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面 をもつ。 天井部外周1/3回転ヘラケゼリ、その他回転ナデ。	外 暗灰色 内 灰色	精良	良好	

遺物番号 部品番号	器 川上地点	種 径 法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色	調 粒 土	焼成	備 考
151 一六	杯 須恵器 第6層	口径 14.7 器高 4.4		平底を天井部から腰をもたずに縦やかに屈曲し、下外方へ下る「J」形部に至る。端部は内傾する面をもつ。 天井部外側1/3回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	灰白色	精良	良好	
152	杯身 須恵器 第6層	口径 12.2 器高 4.9 立ち上がり 高 1.5 受部径14.0		やや浅く丸みをもつ杯底部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は純く尖る。底部の一部欠損。 底体部外側1/2回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	
153	同上	口径 11.8 器高 4.6 立ち上がり 高 1.9 受部径14.8		やや浅く平坦な底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外側1/4回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	外 灰色 内 灰白色	精良	良好	
154 一七	同上	口径 12.2 器高 5.2 立ち上がり 高 1.7 受部径14.5		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は純く尖る。立ち上がりは底立気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外側1/2回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	淡青色	1~3mmの 砂礫を多量 含む	良好	
155 一七	同上	口径 13.5 器高 4.5 立ち上がり 高 1.8 受部径15.7		浅く平底な底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外側1/5回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	灰色	2~3mmの 砂礫を少量 含む	良好	完形
156	同上	口径 12.0 器高 4.8 立ち上がり 高 1.2 受部径15.0		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外側1/4回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	青灰色	精良	良好	
157 一七	同上	口径 14.1 器高 5.4 立ち上がり 高 1.3 受部径16.7		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は純く尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外側1/4回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	淡青灰色	精良	良好	完形
158 一七	同上	口径 12.2 器高 4.9 立ち上がり 高 1.2 受部径15.5		同上	青灰色	1~3mmの 砂礫を多量 含む	良好	完形
159 一七	同上	口径 13.4 器高 4.6 立ち上がり 高 1.3 受部径16.0		形態は同上。 底体部外側1/2回転ヘラケズり、その他回転ナデ。	灰色	精良	良好	完形

遺物番号 回収番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
160	杯身 須恵器 第6層	口径 器高 立ち上がり 高 受部径	13.5 4.4 1.4 16.2	浅く幅広な底部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は内側する浅い凹面をもつ。 底部外側1/2回転へラケズリ、その他の回転ナデ。	外 灰色 内 青灰色	1~2mmの 砂粒を多量 含む	良好	
161	小型 須恵器 第6層	口径 器高 体部最大径	7.6 9.0 10.6	ほぼ球形をなす体部から屈曲して上外方に伸びる口縁部に至る。端部は外側する浅い凹面をもつ。体部中央に円孔と1箇所拿つ。 口縁部内面にヨコナデ、外面磨き波状文(10本)、 体部外側にラケズリ沈線を1条握らす。肩部内面ユビ押さえ、外縁ナデ、体部外側沈線下に磨き列点文が巡る。その他の回転ナデ。	灰白色~灰 色	精良	良好	ほぼ完形
一七								
162	高杯 須恵器 第6層	口径	9.8	やや平坦な杯底部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。脚部欠損。 杯部外側に内縁が2条巡り、その底下に磨き点列点文が巡る。その他の回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
163	同上	口径 器高 根脚	12.3 15.0 9.5	杯部の形態は同上。脚部は下外方に伸びる柱状部から屈曲し、下外方に開く脚部に至る。 杯部外側に内縁が2条巡り、その底下に磨き点列点文が巡る。脚部は2段透かしの3方向で、1段目と2段目の間に2条の凹線文が巡る。その他の回転ナデ。	灰色	精良	良好	
一七								
164	唇台 須恵器 第6層	口径	34.8	上外方へ内側して伸びたのち、近く外上方へ屈曲する口縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。脚部は欠損。 口縁部外側直下に1条、中央に1条の計2条の凹線文が巡る。その内縁の間に磨き波状文(11本)が巡る。下半部はカキメ・タタキを施す。	黒灰色	精良	良好	
165	垂 土師器 第6層	口径	11.5	上内方へ内側気味に伸びる体部から屈曲して上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部外側直下ともにヨコナデ、頭部内面ユビ押さえ、2本の接合糸、体部内面へラケズリ。外面は磨きが著しいため調整不明。	外 淡灰茶 内 暗灰褐色	長石・石英 を含む	良好	
一七								
166	裏 土師器 第6層	口径	25.4	体部から屈曲して外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はわざりにつまみ上げる。 口縁部外側直下ともにヨコナデ、頭部内面ともにハケメ。	淡茶褐色	長石・雲母 ・石英を含む	良好	
167	高杯 上師器 第6層	口径	18.2	平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。脚部欠損。 杯部外側直下ともにハケメ(内6本、外7本)。	橙色	長石・雲母 ・角閃石を 含む	良好	
一七								
168	同上	口径	16.8	丸みをもつ杯底部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。脚部は杯部から下外方へ下る中空の柱状部をもつが脚底部は欠損。 杯部内面ハケメ(6本)、外面ナデ・ハケメ、柱状部内面へラナデ、外面ナデ。	外 乳灰茶 色~橙 灰色 内 橙灰色	長石・雲母 を含む	良好	
一八		底径	16.8					
169	同上			杯部は欠損。脚部は下外方に伸びる中空の柱状部から屈曲し、下外方に開く脚部に至る。端部は丸く終わる。 柱状部内面シボリ目、鋸歯内面ユビナデ、外面ナデ。	明茶褐色	長石・チヤ ートを含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
170 一八	瓶 土器部 第6層	—	—	口縁部および底端は欠損。体部中位に把手がつく把手は上方に溝曲する舌形である。 体部内面ヘラケズリ、一部縮方向に2箇所長さ10cm前後のヘラ削みの痕跡がみられる。外側ユビナデ・ハラナデ、把手部はユビナデを施す。	外 黄褐色 内 赤褐色	精良	良好	
171 一八	小型杯 須恵器 第5層	口径 9.0 器高 3.2	—	平坦な底部から上外方へやや外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。 底部外面ヘラキリ・ヘラケズリのち全体を回転ナデ。	淡灰青色	1.5 mm以下の砂粒を微量含む	良好	
172 一八	小型盃 須恵器 第5層	口径 7.4	—	中位に張りをもつ偏平な体部から屈曲し、直立気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 底部一部欠損。 口縁部内外面ともにヨコナデ、底部外面1/3回転ヘラケズリ、その他の回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
173 一八	杯身 須恵器 第5層	口径 10.8 器高 3.8	—	丸みをもつ体部から内湾して立ち上がる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 杯底部外側1/2回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	外 淡茶灰 色～乳 灰色 内 赤褐色	5 mm以下の 砂塵を少量 含む	良好	
174 一八	小型盃 須恵器 第5層	口径 8.8 器高 6.0 高台径 4.9	—	平坦な底部から上位に張りをもつ体部に至り、屈曲して外上方へ外反しながら伸びる口縁部に至る。 端部は外傾する面をもつ。底部には「ハ」の字状の高台がつく。 内外面とともに回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	完形
175 一八	同上	口径 8.8 器高 6.8 高台径 4.2	—	形態は同上。 口縁部外縁面に1条の凹線が温る。その他の内外面ともに回転ナデ。	灰色	精良	良好	完形
176 一八	同上	—	体部最大径 8.0 高台径 4.2	放錐に「ハ」の字状の高台が付く球形の体部から屈曲して、直立気味に伸びる口縁部に至る。口縁部欠損。 体部外側1/2下半回転ヘラケズリ、その他の回転ナデ。	淡白灰色～ 淡青灰色	2 mm以下の 砂塵を少量 含む	良好	
177 一八	同上	体部最大径 8.7 高台径 4.0	同上	—	青灰色	精良	良好	
178 一八	杯高 須恵器 第5層	口径 12.6 器高 2.8 つまみ径 2.4 つまみ高 0.8	—	陶宝珠状のつまみが付くやや丸みのある天井部から、緩やかに外上方へ向る口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。 天井部外側回転ヘラケズリ、その他の回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
179 一八	同上	口径 16.4 器高 2.7 つまみ径 2.5 つまみ高 0.8	—	陶宝珠状のつまみが付く平坦な天井部から、緩やかに外上方へ向る口縁部に至る。端部は下端が強く垂直に下り、外傾する面をもつ。 天井部外側回転ヘラケズリ、その他の回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	
180 一八	平底 須恵器 第5層	口径 9.4 器高 15.0 腹径 16.0	—	平坦な底部をもつ体部の一方の肩附近から外上方へ大きく開く口縁部が付く。端部は丸く終わる。 口縁部外側中央に一条の凹線を温らす。体部下半1/3ヘラケズリ、その他のナデ調整。	灰色	精良	良好	ほぼ完形
181 一八	同上	腹径 15.8	—	平坦な底部と体部最大径を肩にもつ器体で、器体の上面は偏平でその一方に口縁部が付く。口縁部は欠損。	暗灰色	1~3 mmの 砂塵を多量 含む	良好	

遺物番号 出土地点	器種 寸法(cm)	口径 口径	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
182 一九 骨 灰窓器 第5層	口径 器高 底径	17.4 14.7 7.3	厚い円錐状の底盤から、外上方へ外反気味に伸びる体部をもつ。口縁部は丸く終わる。 底部外周は不調整、その他の凹凸なし。	暗灰色	精良	良好	自然釉付着
183 一九 須恵器 第5層	口径	17.8	体部から一旦立ち上がり、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し、外に面をもつ。 口縁部内面凹凸なし、外面カキメ、体部内面同心円タタキ、外面カキメ。	淡灰色	精良	良好	
184 同上	口径	24.6	形態は同上。 口縁部内外面ともに凹凸なし。体部内面同心円タタキ、外面輪状方向のタタキの痕跡を残す。	灰色	精良	良好	
185 一九 同上	口径 体部最大径	21.0 30.6	中位より上に最大径をもち球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はやや上下に肥厚する。 口縁部内外面ともに凹凸なし。体部内面同心円タタキ、外曲平行タタキのちハケメ。	灰色	精良	良好	
186 一九 ミニチュア 十ヶ 土師器 第5層	口径 器高	7.2 3.9	尖り底の底盤から外上方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 全体が手づくねによる成形で、内外面ともにユビナダ調整を施す。	灰白色	精良	良好	完形 祭祀用器?
187 一九 小口坏 土師器 第5層	口径 器高	7.2 4.5	深い平底形を呈し、垂直に伸びる口縁部をもつ。 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナダ。体部内面ヘラナダ接合痕、外面ユビ押さえ。	外 乳灰褐色 内 褐色	長石を含む	良好	完形
188 土師器 第5層	口 体部最大径	8.0	器壁の厚い平坦な底盤から、肩の張る体部に至る 口縁部は欠損。 全般的に手づくね成形、内面に接合痕。	灰茶色	長石・石英 ・雲母を含む	良好	黒斑有り
189 同上	体部最大径	8.4	器壁の厚いやや丸いのある底盤から、球形の体部に至る。 口縁部は欠損。 全般的に手づくね成形、肩部外面にハケメ(5本)、 外面中位に接合痕。	灰茶色	長石・石英 ・雲母を含む	良好	黒斑有り
190 一九 同上	体部最大径	8.9	器壁の厚いほぼ球形を呈する体部から、直立気味に立ち上がる口縁部に至る。 口縁部は欠損。 全般的に手づくね成形、肩部外面にハケメ(5本) 外面中位に接合痕。	灰茶色	長石・石英 ・雲母を含む	良好	黒斑有り
191 一九 骨 土師器 第5層	口径 器高	10.9 2.85	半厚な底盤から内側して直立気味に立ち上がる口縁部に至る。 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナダ、体部内面放射状ハラミガキ、底部内面連結輪状突起、外面ナダ、ユビ押さえ。	外 褐灰色 内 灰褐色	長石・雲母 を含む	良好	黒斑有り
192 中层 土師器 第5層	口径 器高	13.4 2.3	平坦な底盤から内側して斜上方へ伸びる口縁部に至る。 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナダ、底部内面放射状ハラミガキ、その他のナダ。	乳褐色	精良	良好	
193 同上	口径 器高	17.0 2.0	平坦な底盤から緩やかに内側して斜上方へ伸びる口縁部に至る。 端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナダ、底部内面ユビ押さえ、その他のナダ。	淡茶褐色	精良	良好	底部外面に ヘラ記号有り
194 盤 土師器 第5層	口径 器高 高台径	37.0 3.6 29.5	広く平坦な底盤から緩やかに内側して外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、やや肥厚する。底盤外周には低く高台が付く。 口縁部内面に2段の放射状ハラミガキ、外面ヨコナダ、底部内外面ともにナダ。	赤褐色	精良	良好	

遺物番号	器種	器出土地点	法基 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
195 一九	杯 土器 第5層	口径 14.2 器高 3.6			やや盛み底をした底部から内側して上方外へ伸びる口縁部にいたる。端部は内傾する浅い凹面をもつ。口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内外面ともにナデ、底部内外面ともにユビ押さえ。	乳褐色	粗	不良	完形 焼付着
196 一九	同上	口径 16.0			底部は欠損。内溝して立ち上がる体部から口縁部に至る。端部はやや肥厚する。 口縁部内外面ともにヨコナデ、口縁部外面に接合痕、体部外面ナデ・ユビ押さえ、内面ナデ。	淡灰茶色	粗 長石・雲母 を含む	不良	
197 一九	同上	口径 13.8 器高 5.8			半円な底部から内溝して立ち上がる体部から口縁部に至る。端部は鈍く尖り、内傾する面をもつ。 口縁部内面ハケメ(5本)、外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ・ナデ、外面ユビ押さえ、ナデ。	外 淡茶灰色 内 乳茶灰色	長石・雲母 角閃石を含む	良好	
198 一九	小瓶 土器 第5層	口径 10.8 器高 11.0 最大径12.2			球形に近い体部から屈曲して斜上方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面上半ナデ・下半ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	乳茶灰色	長石を含む	良好	
199 二〇	甕 土器 第5層	口径 15.2 器高 12.4 最大径17.0			球形の体部から屈曲し、外上方へ外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ(8本)、内面ヘラナデ。	明茶褐色	精良	良好	ほぼ完形
200 二〇	同上	口径 23.0			張りのない体部から屈曲し、外上方へ外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内面ハケメ(6~8本)、外面ヨコナデ、体部内外面ともにハケメ(6~8本)。	明茶褐色	精良	良好	
201 二〇	甕 土器 第5層	口径 23.6			体部から外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。 口縁部内面ハケメ、外面ユビ押さえのちハケメ、体部内外面ともにハケメ(内~8本、外~12本)。	乳褐色	精良	良好	庄内式土器
202 二〇	羽釜 土器 第5層	口径 25.4 器高 28.2			口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はやや内傾する面をもつ。側は水平に伸び、端部は丸く終わる。 口縁部内外面ともにヨコナデ、鉛錠ヨコナデ、体部内面ナデ・ユビ押さえ、外面ハケメ。	暗茶褐色	長石・石英 ・雲母・角 閃石等を含む	良好	
203 二〇	把手付鍋 土器 第5層	口径 27.2			丸みをもつ体部から屈曲して斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く深い凹面をもつ。 体部中位に左右一对の香形の把手が付く。底部は欠損。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部外面ハケメ(8~10本)、内面上半横いハケメ、下半ヘラケズリ。把手部分はユビナデを施す。	褐灰色	長石・石英 を含む	良好	
204 二〇	土鍋 土器 第5層	長さ 8.0 孔径 1.0			手づくね成形、管状形。	赤褐色	長石・石英 を含む	良好	完形 黒斑を有す
205 二〇	土馬 土器 第5層	—			頭部から首の部分にかけてのみ連存。目・鼻・口・たてがみが明瞭に表わされており、手柄の痕跡も認められる。 手づくね成形。	赤褐色	精良	良好	
206 二〇	同上	—			首から同部および前脚部分の片方とみられる部分のみ連存。 手づくね成形。	赤褐色	精良	良好	

E区

遺物番号 図版番号	名 出土地(1)	法量 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備 考
207 二〇	小型丸底壺 上部器 第5層	口径 7.8 器高 9.0 最大径10.2	球形に近い体部から屈曲して上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。腹部は丸く終わる。 口縁部内面ハケメ（8本）、外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、外面ハケメ（8本）。	外：暗茶灰 色 内：淡乳灰 色	長石・石英 ・角閃石を 含む	良好	ほぼ完形。 黒斑有り。 布留式上部
208	甕 土師器 第5層	口径 27.0	体部から「く」の字状に屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。腹部はつまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部内外面とともにヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、外面タタキ（5本）のちハケメ。	茶褐色	長石・石英 ・角閃石・ 雲母・チャ ートを多量 含む	良好	庄内式土器
209 二〇	杯 土師器 第5層	口径 14.6	平底とおもわれる底部から内溝して上外方へ伸びる口縁部に至る。腹部は丸く終わる。底部一部欠損。 口縁部内外面ともにヨコナデ、体部内面ナデ、外面ユビ押さえ・ナデ。	明茶褐色	長石を含む	良好	
210 二〇	甕 土師器 第5層	口径 13.2 器高 11.1 最大径14.2	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。堆部は器内を減じ、丸くおさめる。 口縁部及び肩部の内外面ともにヨコナデ、体部内面ヘラナゲ、外面ユビ押さえ・ナデ。	乳茶褐色	精良	良好	ほぼ完形

第3章 まとめ

今回の発掘調査では、古墳時代中期から後期にかけての遺物包含層、奈良時代の集落に伴うと考えられる柱穴跡・小穴・井戸・土坑・落ち込み、鎌倉時代中期～末期にかけての農耕作に伴う幾条もの鑿溝跡を検出した。ここでは全調査区の遺構・遺物を踏まえて各時期ごとに概説していきたい。

I. 古墳時代中期～後期

この時期においては、包含層を確認し遺物を検出したに過ぎず、下層確認による断面観察を実施したにもかかわらず遺構検出にまで至らなかった。遺物だけみると圧倒的に須恵器の占める割合が高く、土師器は全体の2～3割程度である。また、須恵器のなかでも器種別にみると蓋杯の占める割合が高く、C区・D区に多くみられる。この両地区の遺物出土状況及びそれらの遺物を含む堆積層から考えて、当調査地では東側部分において5～6世紀代にかけての集落の存在が考えられる。

II. 奈良時代

この時期の遺構は中世以降の開墾等によってほとんど削平されてはいるが、井戸3基の遺存状況は比較的良好であった。井戸3基のうちB区のSE-201、D区のSE-202の2基については、船としての機能を果たせなくなった船材の一部を井戸枠に転用したと考えられるものである。八尾市内においてこれと同形態のものは、昭和57年に当調査研究会によって実施した「小阪合遺跡第1次調査（KS-82-1）」、昭和59年に大阪府教育委員会によって実施された「萱振遺跡」がある。また、時期は異なるが同一形態の井戸として、寝屋川市で昭和63年から平成元年にかけて同教育委員会によって実施された「譲良郡条里遺跡」でも古墳時代後期の井戸として検出されている。

また、同時代の井戸でもD区のSE-201は方形の8枚の板材を2段に組んで板井としたもので、下段の3枚の井戸枠には各々「南」・「北」・「西」と墨書きされた文字がみられる。これは本文でも述べたように当時の人々が方角を意識していたことを示す貴重な資料である。八尾市内においてこれと同時期の方形横板組をもつ井戸は、当調査研究会によって昭和58年に実施した「成法寺遺跡第2次調査（SH83-02）」^{注18}、昭和59年に実施した「弓削遺跡第1次調査（YGT84-1）」^{注19}でみつかっている。

柱穴についてはB区、D区で双方とも柱根を伴って検出されたが、残念ながら付近には建物跡を復原できる柱穴跡は認められなかった。しかしこれらの柱穴は明らかに建造物を示唆するものであり、見方によれば同時期頃、当地の周辺には大聖勝軍寺や古代寺院の龍華寺跡・宝積寺跡が所在していることから、当地に寺院が存在していた可能性もありうる。

C区で検出した土器棺（羽釜）、動物遺体（馬骨）、D区で検出した「土馬」についてはすべて明瞭な遺構に伴うものではないので、ここでは本文において他の遺跡や文献資料を参考に簡単に触れた。そのなかでも馬の遺体については、「八尾市 城山遺跡」や「平城京右京八条一坊十一坪」の出土例を挙げたが、今回の出土状況からは祭祀的・儀礼的な見解を示すような痕跡はみられなかった。今回の馬骨の散乱状況や土器片と混在していることなどからみて、当時の人々が食料として扱った後に廃棄したものとして解釈した方が良いであろう。

Ⅲ. 中世（鎌倉時代）

全調査区においていわゆる農耕作に伴うとみられる鋤溝を検出した。これらの鋤溝は層位的には奈良時代の整地層を切り込むもので、平面的にみるとほとんど言つていいほど溝の方向が東—西・南—北と格子状に交差している。鋤溝以外の遺構としては小穴・土坑が数箇所みられたが、井戸等はみられなかった。時期的には、溝埋土内の遺物片から鎌倉時代中期から末期頃に比定される。

今回検出した遺構・遺物のなかで、ある程度当遺跡の性格を位置付けられるものは奈良時代においてであり、井戸内から出土した墨書き入りの土器、包含層でみつかった土馬については何らかの祭祀を示唆するものである。柱根を伴う柱穴に関しては先述したように「大型勝軍寺」をはじめとする当時の周辺における古代寺院との有機的な関係が推定できる。さらに今回とらえることのできなかった当遺跡内における古墳時代以前の様相については、今後の調査に期待したい。

註記

- 註1 (財)八尾市文化財調査研究会『平成2年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』1990
- 註2 (財)八尾市文化財調査研究会『平成3年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』1991
- 註3 八尾市教育委員会『八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書II』1992.3
- 註4 (財)八尾市文化財調査研究会『跡部遺跡発掘調査報告書』大阪府八尾市春日町1「目出土銅鏡一」1991
- 註5 (財)八尾市文化財調査研究会『木の本遺跡 一八尾空港整備事業に伴う発掘調査一』1984
- 註6 菅原正明『畿内における土塁製作と流傳』「文化財論」奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 1987
- 註7 松井章「古代日本の皮革製作技術」民博通信第35号国立民族学博物館 1987
- 註8 大畠馨雄「上代馬形遺物に就いて」『考古学雑誌』第27巻4号 1937および「上代馬形遺物再考」「祭祀遺跡」1970年所収
- 註9 小笠原野彦「土馬考」物質文化研究会『物質文化考古学民族研究25』1975.7
- 註10 (財)八尾市文化財調査研究会『成法寺遺跡 第1次調査—第4次調査・第6次調査報告書』1991
- 註11 (財)八尾市文化財調査研究会『八尾市桂文化財発掘調査概要 平成元年度 II 矢作遺跡(第2次調査)』1989
- 註12 (財)八尾市文化財調査研究会『豊振遺跡 平成3年度第12次調査 (仮称)八尾市立生涯学習センターに伴う発掘調査 現地説明会資料』1992より *現在整理中
- 註13 同上『小坂合遺跡 一八尾都市計画事業南小坂合上地区画整理事業に伴う発掘調査報告書一』(第1次調査) 1985
- 註14 大阪府教育委員会『菅原遺跡 大阪府立八尾北高校建設に伴う発掘調査 現地説明会資料 1984』より *現在整理中
- 註15 大阪府教育委員会『都市計画道路国守・黒原線建設工事に伴う 調査結果報告書概要 II 一寝屋川市出雲町所在』1991.3
- 註16 註10と同じ
- 註17 (財)八尾市文化財調査研究会『昭和59年度事業報告』1985

図版



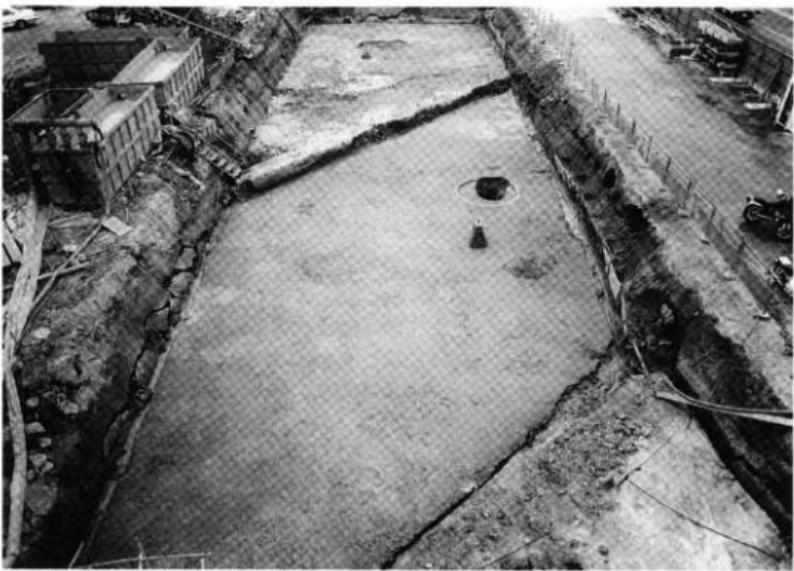
1. A区全景（北から）



2. B区全景（東から）



1. C区全景（東から）



2. D区奈良時代遺構面全景（南西から）



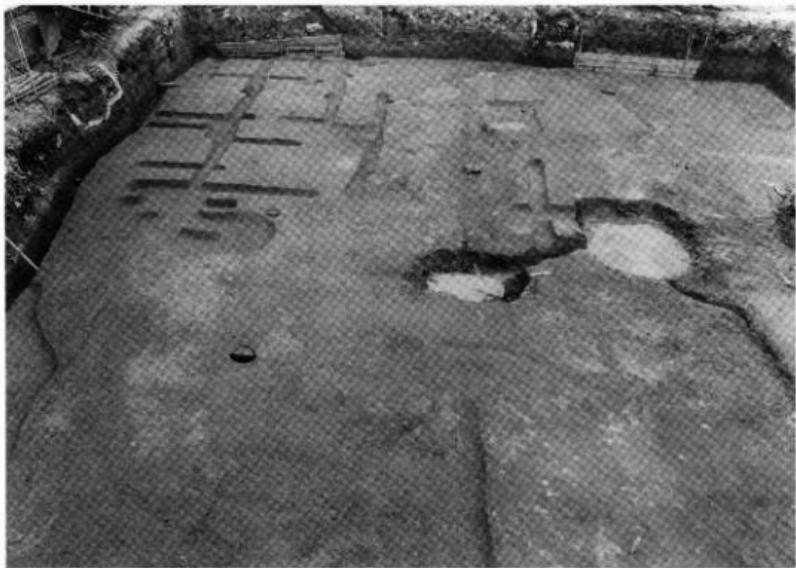
1. D区奈良時代造構面北部（北東から）



2. D区鎌倉時代造構面全景（南西から）



1. E区全景（北から）



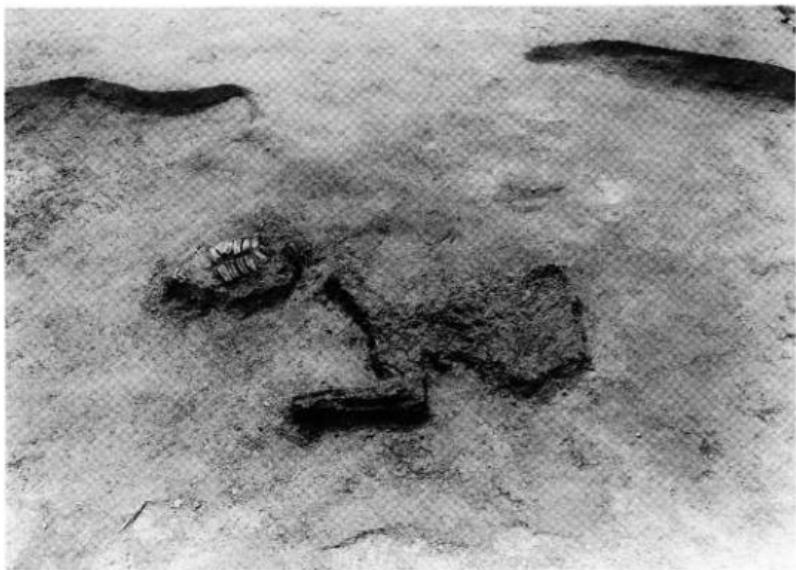
2. F区南部（北から）



1. B区SE-201検出状況（東から）



2. B区SE-201遺物出土状況（東から）



1. C区馬骨一I出土状況（東から）



2. C区馬骨一II出土状況（東から）



1. D区SE-201検出状況（南から）



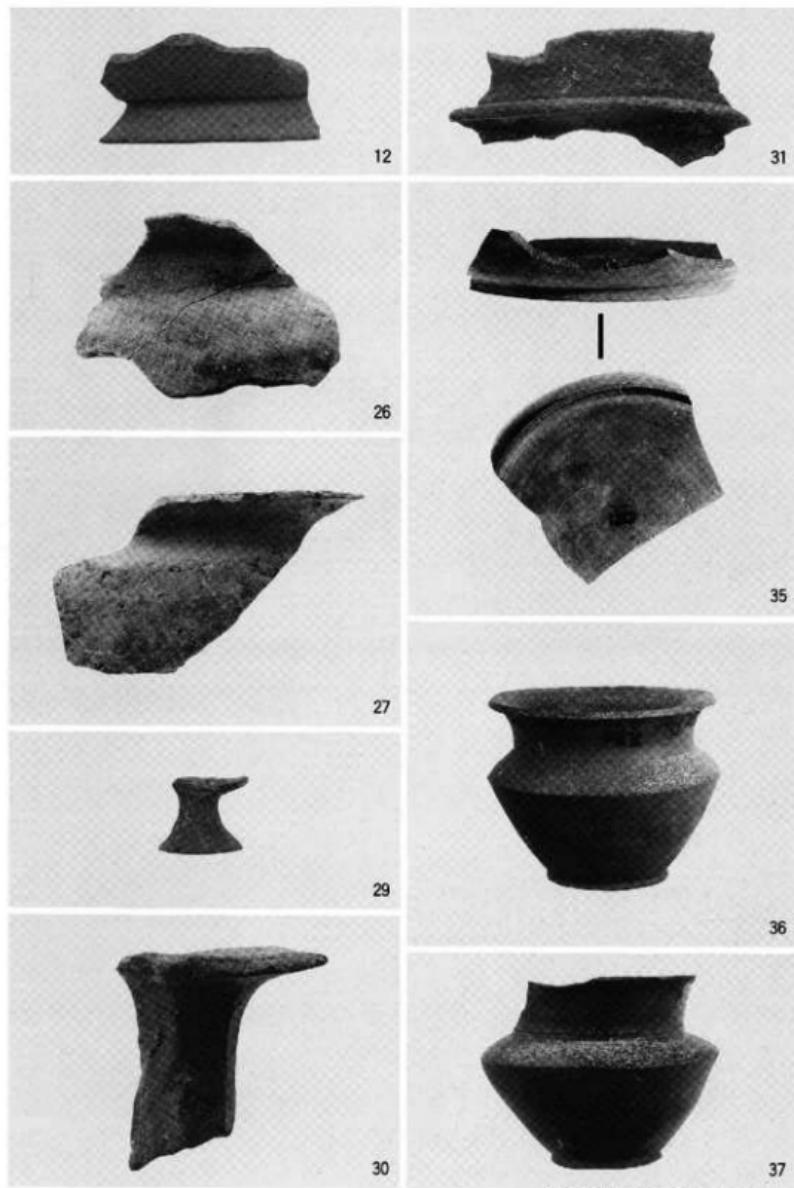
2. D区SE-201遺物出土状況（西から）



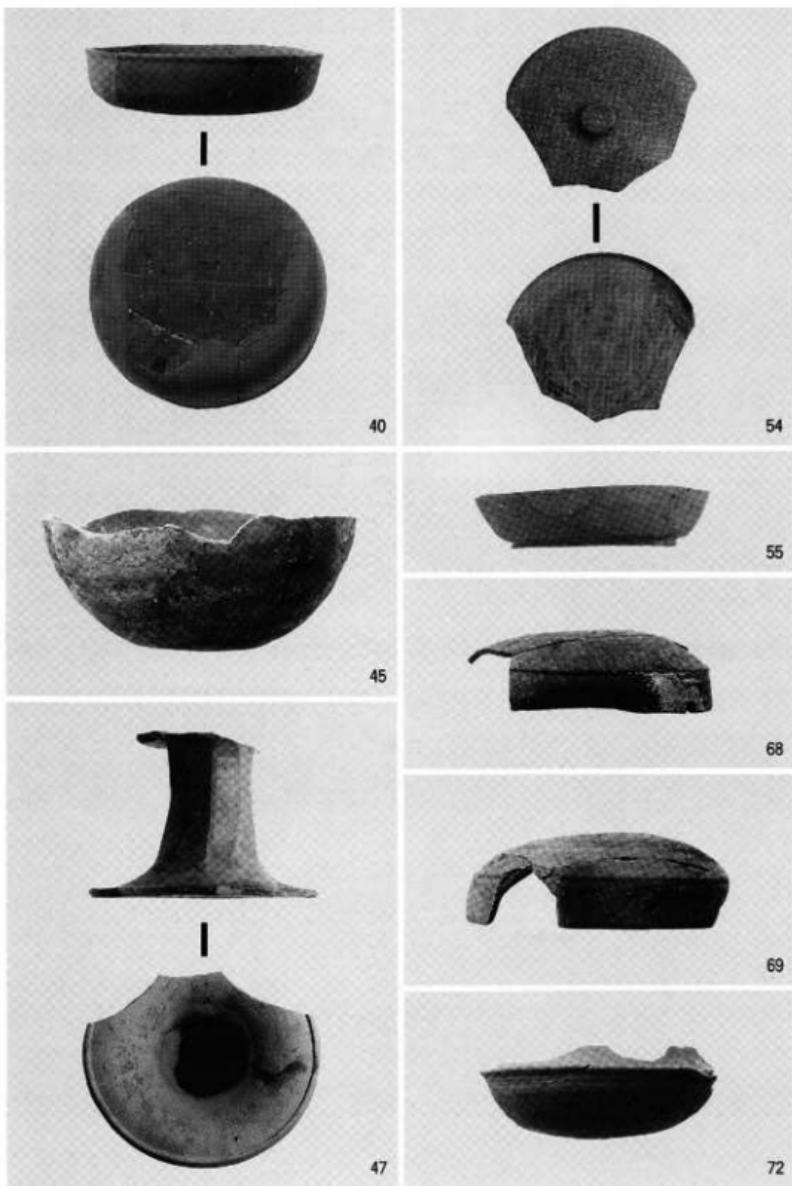
1. D区SE-202検出状況（東から）



2. D区SE-202遺物出土状況（西から）



A区第5層 (12-26-27-29-30-31)
B区SE-201 (35~37)



B区SE-201 (40·45·47)

B区第5層 (54·55)

C区第6層 (68·69·72)



75



81



76



82



78



84



79



85

C区第6層



A



112



92



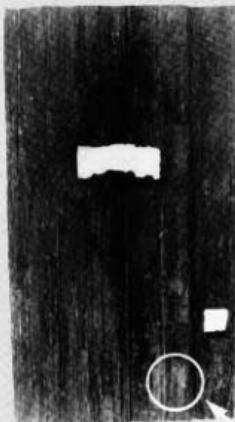
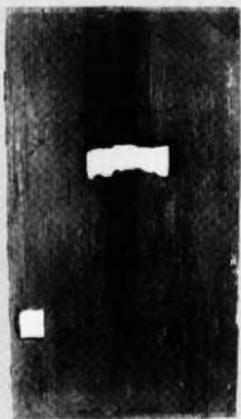
111



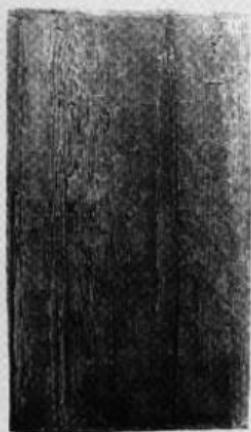
B

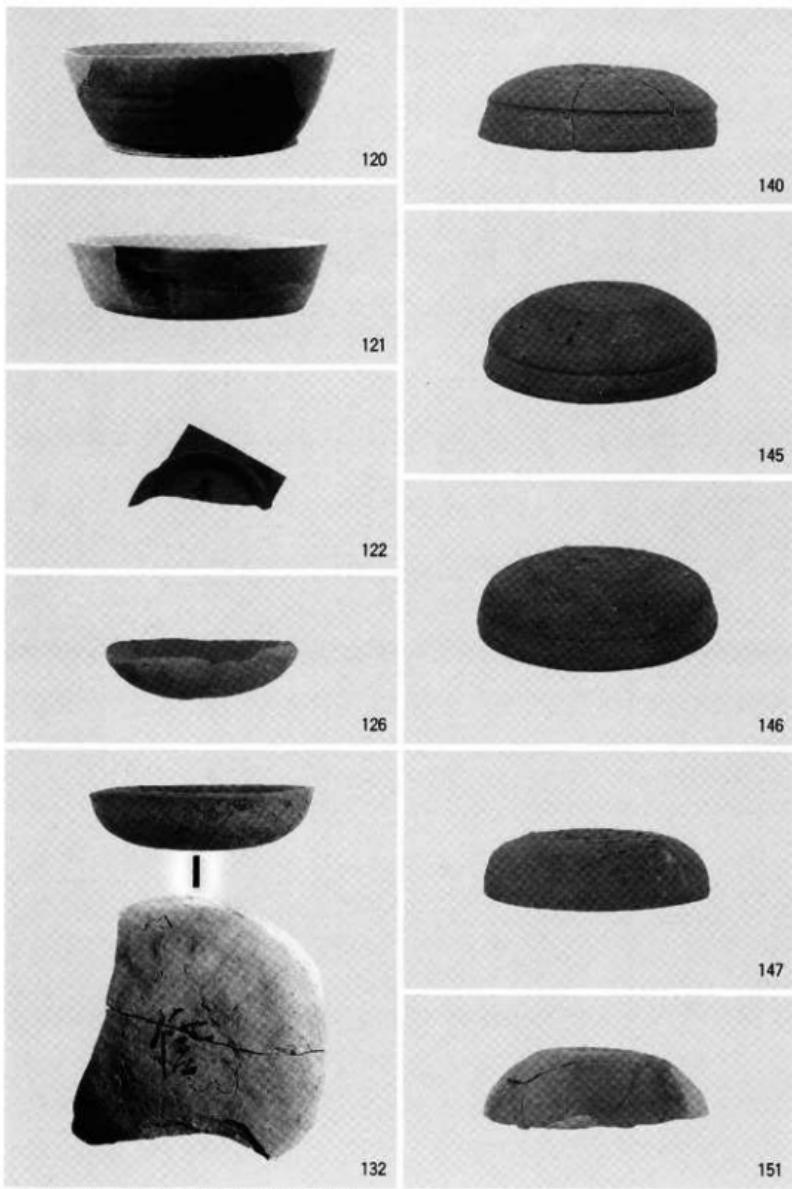
C区土器棺(A)、D区SE-201 (92)
D区SE-202 (111·112)
D区SE-201柱根(B)





D区SE-201墨書き入り井戸枠（南）





D区落ち込み (SO-201) (120・121・122・126・132)
D区第6層 (140・145・146・147・151)



154



161



155



163



157



165



158



167



159



168

D区第6層



169



175



170



176



171



177



172



174



181

D区第6層 (169+170)

D区第5層 (171+172+174+175+176+180+181)



182



190



183



191



185



195



186



197



187



198

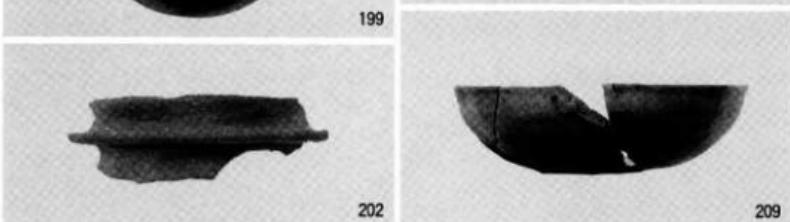
D区第5層



199

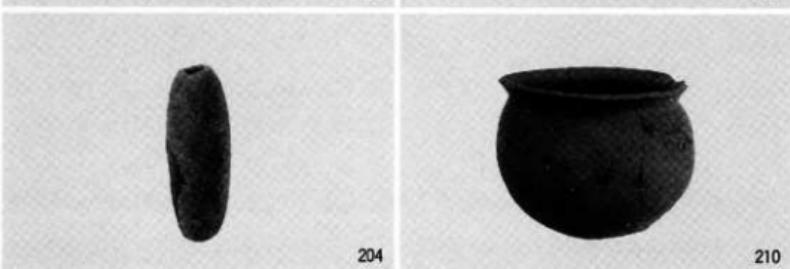


207



202

209

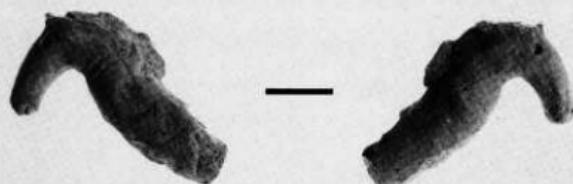


204

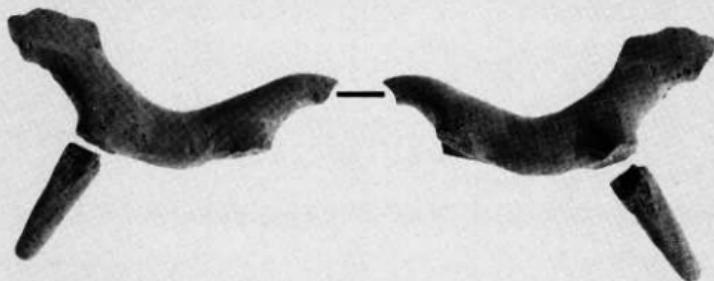
210

D区第5層 (199・202・204)

E区第5層 (207・209・210)



205



206

D区第5層出土土馬

II 第2次調査(TS90-2)発掘調査概要報告

例　　言

1. 本書は、八尾市太子堂2・3丁目地内で行った公共下水道工事に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本調査は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、八尾市の委託をうけて実施したものである。
1. 本調査は、当調査研究会が太子堂遺跡内で実施した第2次調査である。
1. 本調査は、当調査研究会 坪田真一を担当者として、平成2年11月27日に着手し、平成3年2月15日に終了した。調査面積は110m²である。
1. 現地調査には、岡田聖一・坂下 学・濱田千年・松下哲也・森本浩一・若竹慶弘の参加を得た。
1. 内業整理には上記の他、岩本順子・小山正子・田島和恵・都築聰子・宮崎寛子・山内千恵子の参加を得た。
1. 本書の執筆・遺物写真撮影及び編集は坪田が行い、遺物観察表を田島・山内が作成した。

本　　文　　目　　次

第1章 調査に至る経過.....	65
第2章 調査概要.....	65
第1節 調査方法.....	65
第2節 基本層序.....	67
第3節 検出遺構と出土遺物.....	67
第3章 まとめ.....	83
第4章 遺物観察表.....	88

挿図目次

第1図 調査区設定図(S = 1 / 600)	65
第2図 基本層序(S = 1 / 40)	66
第3図 2区S D201遺物出土状況図(S = 1 / 40)	68
第4図 2区S D201上層出土遺物①(S = 1 / 4)	69
第5図 2区S D201上層出土遺物②(S = 1 / 4)	70
第6図 2区S D201上層出土遺物③(S = 1 / 4)	71
第7図 2区S D201上層出土遺物④(S = 1 / 4)	72
第8図 2区S D201上層出土遺物⑤(S = 1 / 4)	73
第9図 2区S D201上層出土遺物⑥(S = 1 / 4)	74
第10図 2区S D201上層出土遺物⑦(S = 1 / 4)	75
第11図 2区S D201上層出土遺物⑧(S = 1 / 4)	76
第12図 2区S D201上層出土遺物⑨(S = 1 / 4)	77
第13図 2区S D201下層出土遺物①(S = 1 / 4)	78
第14図 2区S D201下層出土遺物②(S = 1 / 4)	79
第15図 2区S D201下層出土遺物③(S = 1 / 4)	80
第16図 3区遺構平面図(S = 1 / 60)	81
第17図 3区S E301平・断面図(S = 1 / 20)	82
第18図 3区S E301出土遺物(S = 1 / 4)	83
第19図 3区S X301出土遺物①(S = 1 / 4)	84
第20図 3区S X301出土遺物②(S = 1 / 4)	85
第21図 3区S X301出土遺物③(S = 1 / 4)	86
第22図 2区S D201出土遺物(S = 1 / 3)	86
第23図 2区S D201上層出土遺物⑩(S = 1 / 6)	87

図版目次

- 図版 1 2区 S D201遺物出土状況(南西から)
2区 S D201北壁遺物出土状況(南から)
- 図版 2 2区 S D201東部遺物出土状況(北から)
2区 S D201中央遺物出土状況(北から)
- 図版 3 3区全景(北から)
3区 S E301(西から)
- 図版 4 出土遺物(2区 S D201上層)
- 図版 5 出土遺物(2区 S D201上層)
- 図版 6 出土遺物(2区 S D201上層)
- 図版 7 出土遺物(2区 S D201上層・下層)
- 図版 8 出土遺物(2区 S D201下層、3区 S E301・S X301)
- 図版 9 出土遺物(3区 S X301、2区 S D201上層)

第1章 調査に至る経過

太子堂遺跡は八尾市の西端に位置し、現在の行政区画では、太子堂3～5丁目・東太子2丁目・南太子堂1～6丁目がその範囲となっている。当遺跡は昭和58年3月、八尾市教育委員会が東太子2丁目で実施した試掘調査において、古墳時代～奈良時代の遺物包含層が確認されたことにより認識された遺跡である。そして同年6～10月に同地点で当調査研究会による第1次調査が行われ、古墳時代～中世の遺構・遺物が検出されている。

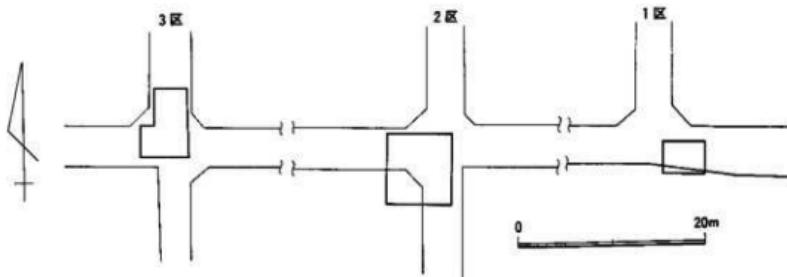
その後発掘調査は行われていなかったが、平成2年、八尾市下水道部から当遺跡内での下水道工事計画の通知が八尾市教育委員会文化財室に提出された。これを受けた市教委では、当該地が周知の遺跡範囲内にあることから、発掘調査が必要であると判断した。こうして同文化財室・下水道部・当調査研究会の三者間協議により、当調査研究会が主体となって発掘調査を実施することとなった。

第2章 調査概要

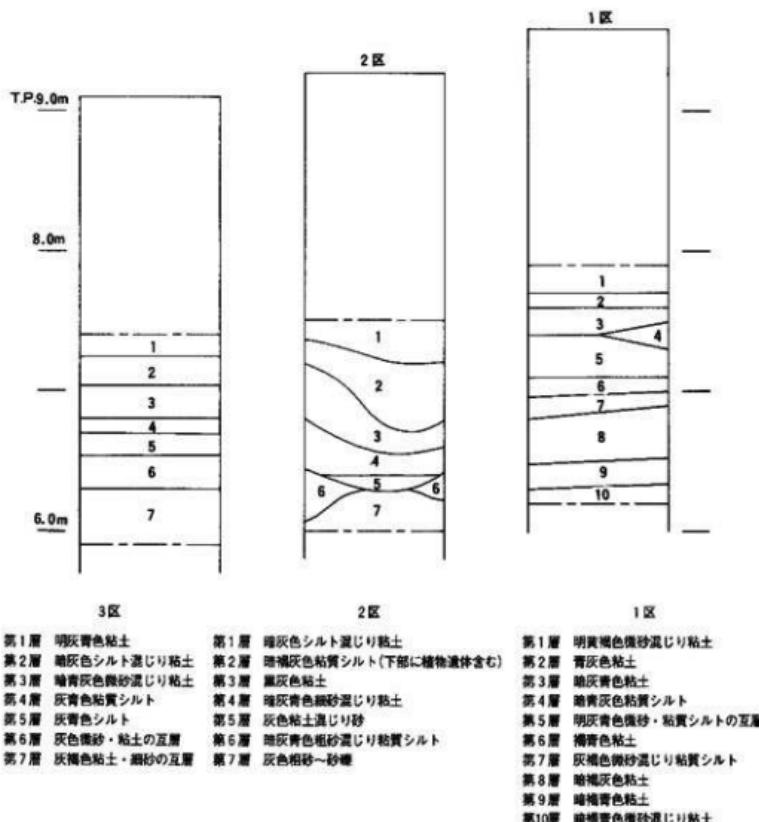
第1節 調査方法

今回の調査は公共下水道工事の立坑部分の調査である。調査区は3か所で東西方向に並んでおり、東から1区～3区とした。各調査区の面積は1区～18m²・2区～59m²・3区～33m²であり、各調査区間の距離は1～2区間約160m、2～3区間約120mである。

調査は工事工程に合わせて2区→1区→3区の順で行った。掘削は地表下約1.7mまでを機械掘削とし、以下を人力掘削により調査を実施した。



第1図 調査区設定図(S=1/600)



第2図 基本層序(S=1/40)

第2節 基本層序

・1区

全体に安定した水平堆積を呈している。1区は前述の第1次調査の北西部に接しており、その関連をみると、第1層上面(標高7.9m)が中世、第4・5層上面(標高7.4m~7.5m)が奈良時代の遺構面にあたるものと考えられる。

・2区

第1層・第2層は全く遺物を含んでいない。第3層・第5層は古墳時代前期の遺物を多量に含んでおり、間層の第4層にはあまり遺物は含まれていない。第6層以下は流水堆積と考えられ、遺物は出土していない。

・3区

全体に安定した水平堆積を呈している。第1層~第3層は古墳時代前期の包含層で、土器を少量含んでいる。また南部の第2層・第3層中には土器の集積が見られた。第4層上面が遺構面で、標高約6.8mを測り、南西部がやや高くなっている。第4層以下からは遺物は出土しておらず、第6層以下は粘土・微砂・細砂の互層になっている。

第3節 検出遺構と出土遺物

・1区

層理に従って掘削・精査を行ったが、遺構は全く検出されなかった。遺物は第3層から古墳時代前期初頭に比定される壺の体部片が1点出土したのみである。

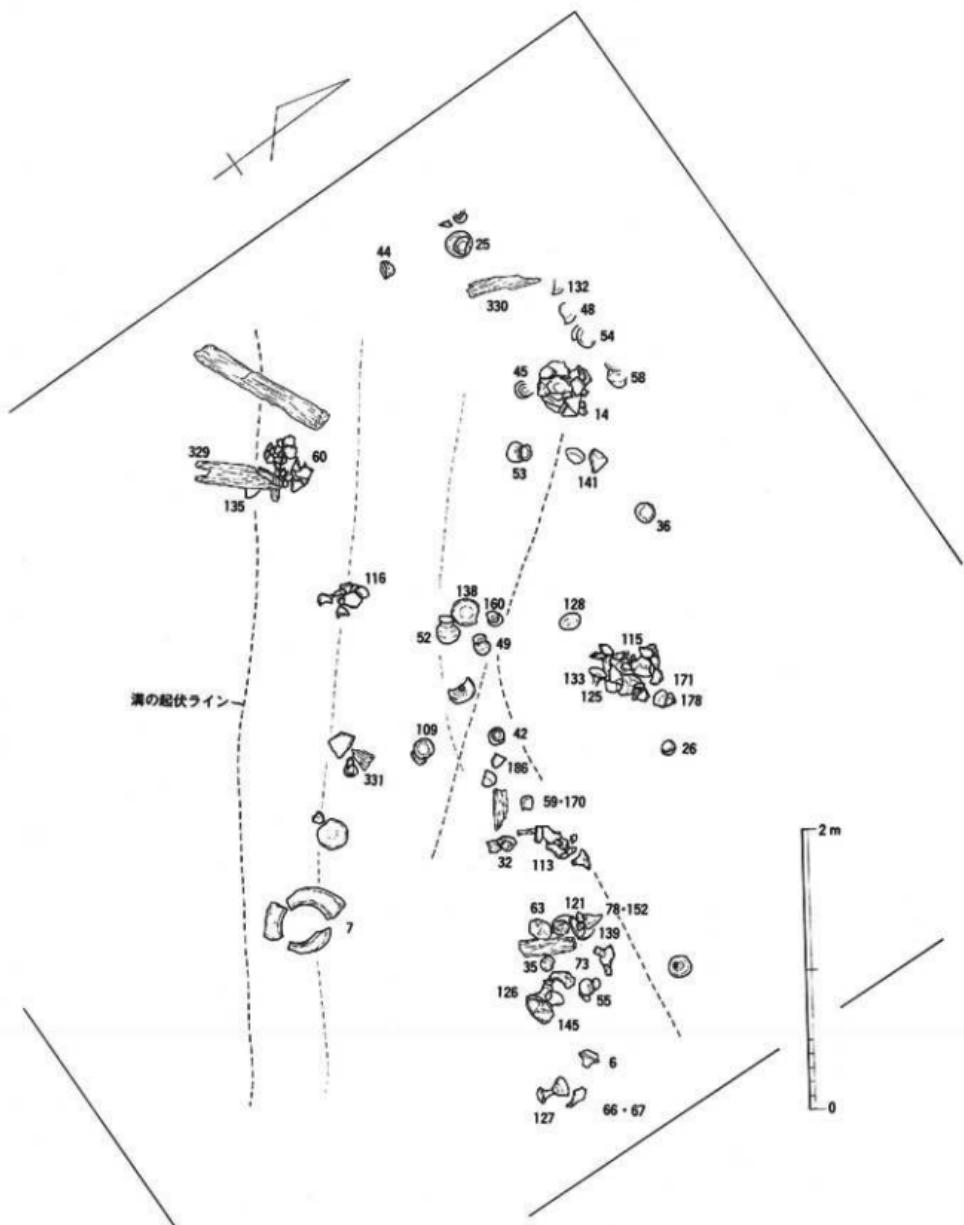
・2区

土層の堆積状況から、調査区全体が河川あるいは大規模な溝に含まれるものと考えられ、一応溝(SD201)とした。調査区内では明確な肩は検出できなかったが、遺物の出土状況等から北西~南東の流路方向が推定される。埋土は基本層序における第1層~第5層にあたり、暗灰色系の粘土~粘質シルトである。底部の標高は北西部で約6.2m、南東部で約6.0mを測る。

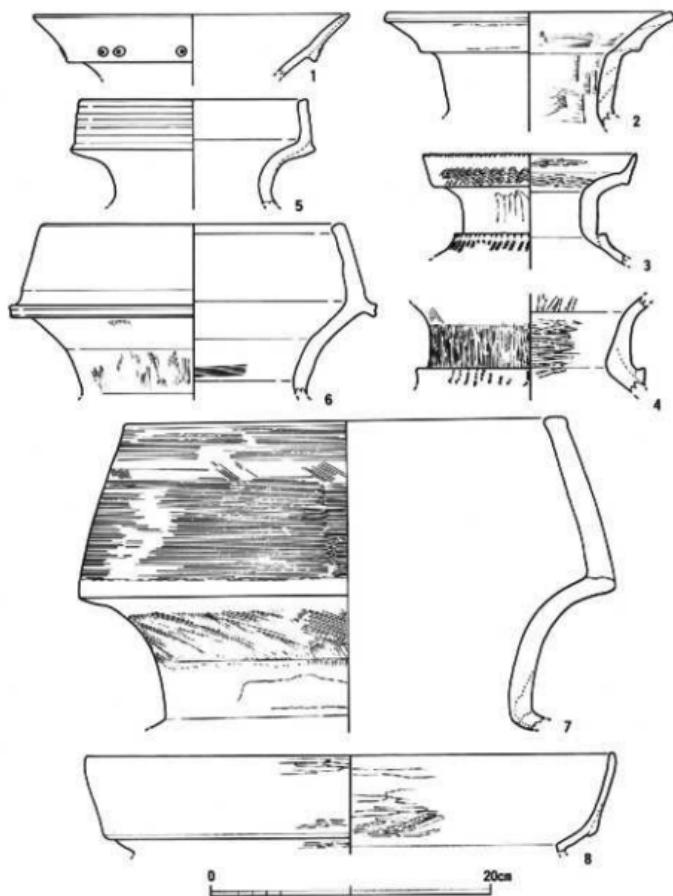
出土遺物には土器・木製品の他流木・種等の植物遺体がある。土器には完形品も多く含まれている。遺物の出土状況は、平面的には幅約3mの北西~南東方向の帯状を呈しており、出土範囲は標高約6.3m~7.0mにおよび、北西部がやや高くなっている。

遺物は第3層・第5層に多量に含まれており、上層・下層遺物として捉えることができる。ただ当調査区は湧水が著しく、調査面が常にヘドロ状を呈しているという非常に困難な状況での調査であり、遺物の取り上げに際して明確に上層・下層を分けたとは言い難い。

出土土器の器種は多岐にわたっており、また上層・下層の土器は器種構成等に若干の差異が認められる。

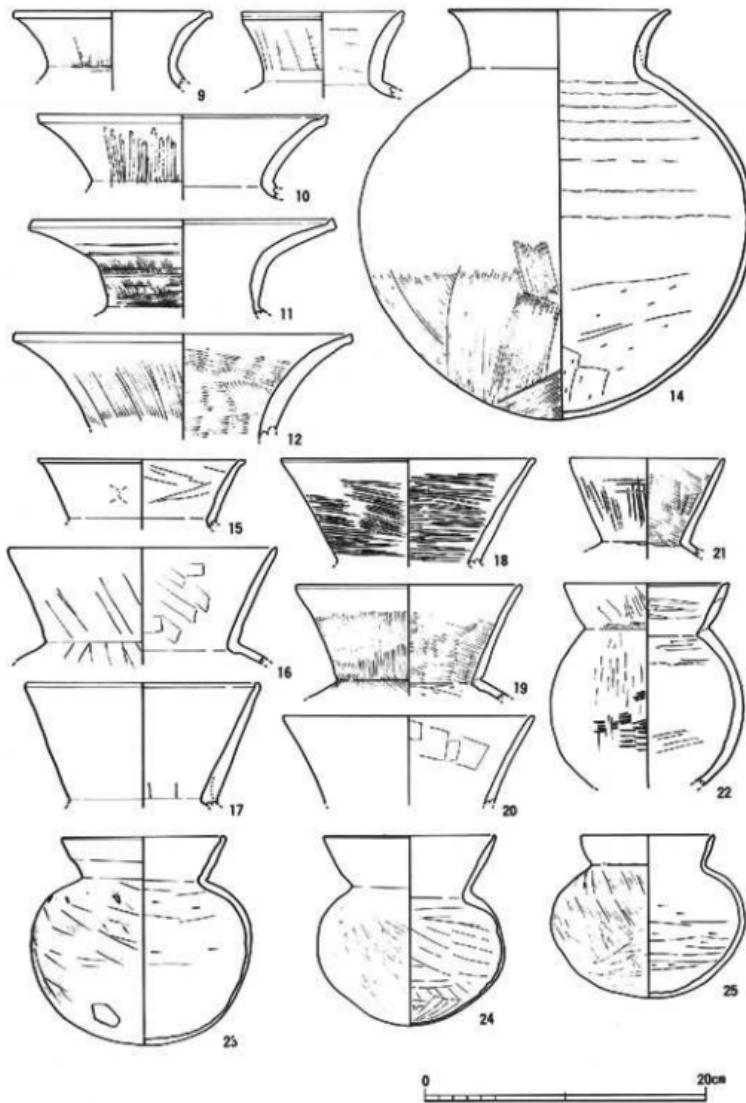


第3図 2区 S D 201遺物出土状況図 (S = 1 / 40)

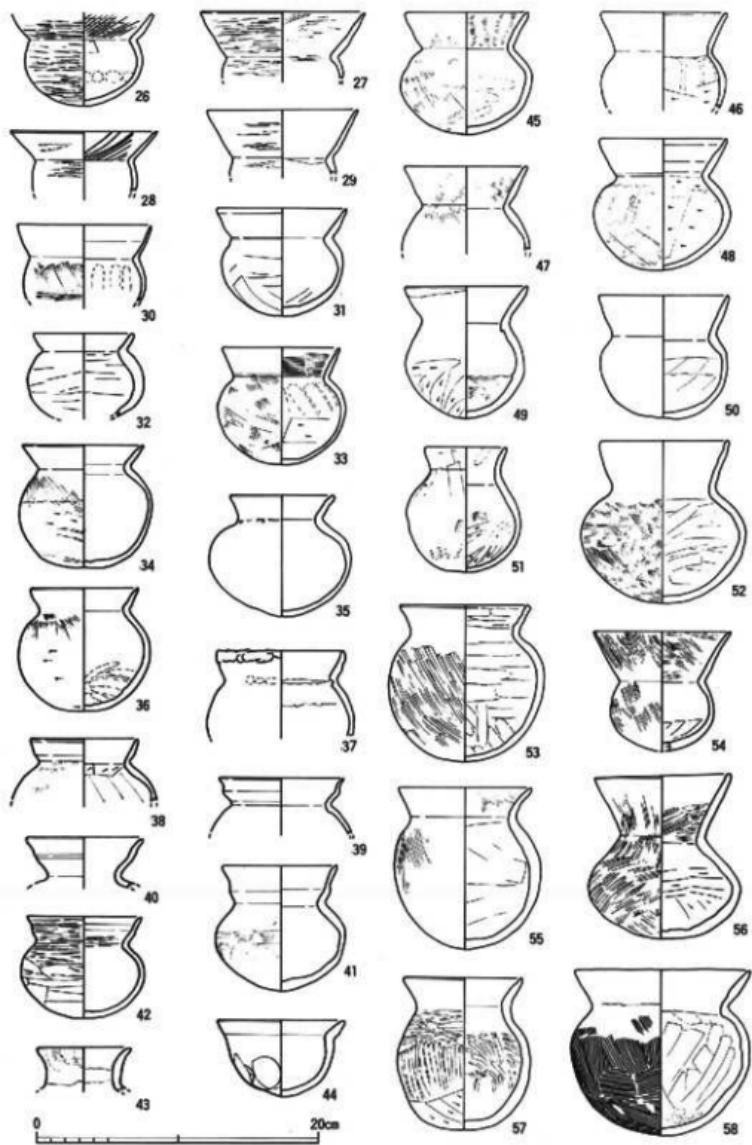


第4図 2区SD201上層出土遺物①(S=1/4)

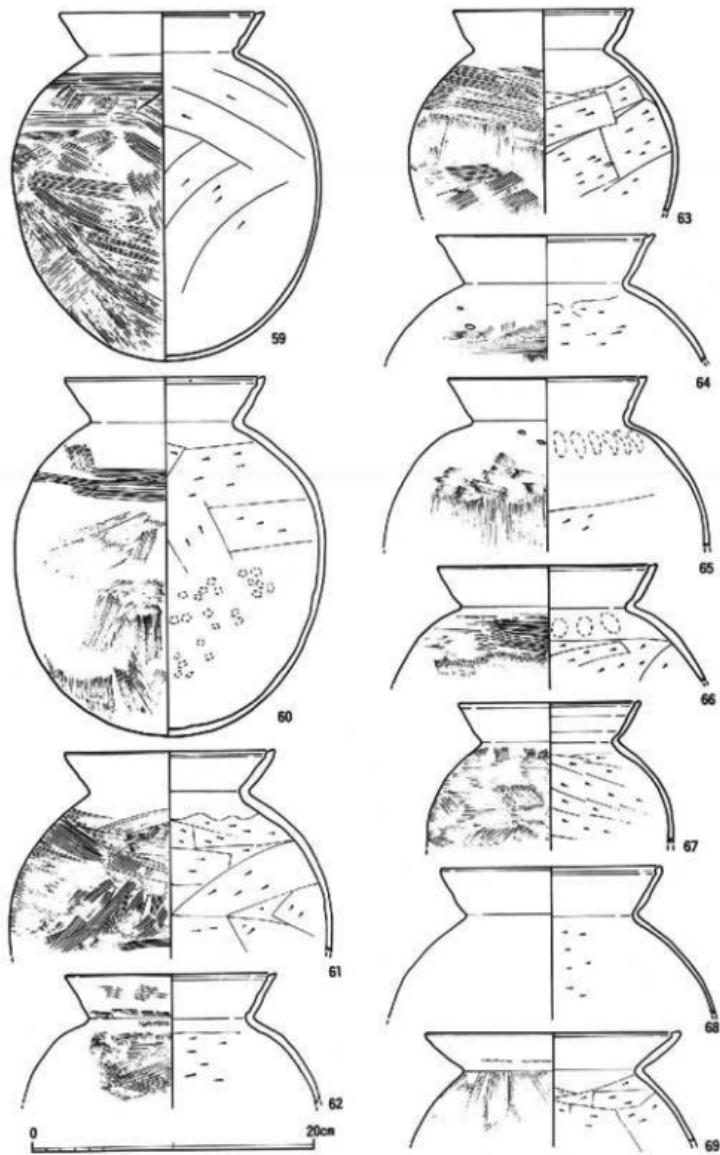
複合口縁壺(6・7・200)は西部瀬戸内系とされる形態を呈し、畿内を中心に分布するものである。このうち(6・7)は口頸部内面に漆が塗られていると考えられ、黒く光沢を持つ。周辺の遺跡では八尾南遺跡にこのような類例が認められる。小型丸底壺は上層では外面ハケ調整の粗製品の占める割合が高く、口縁部が長く発達したものがみられる。



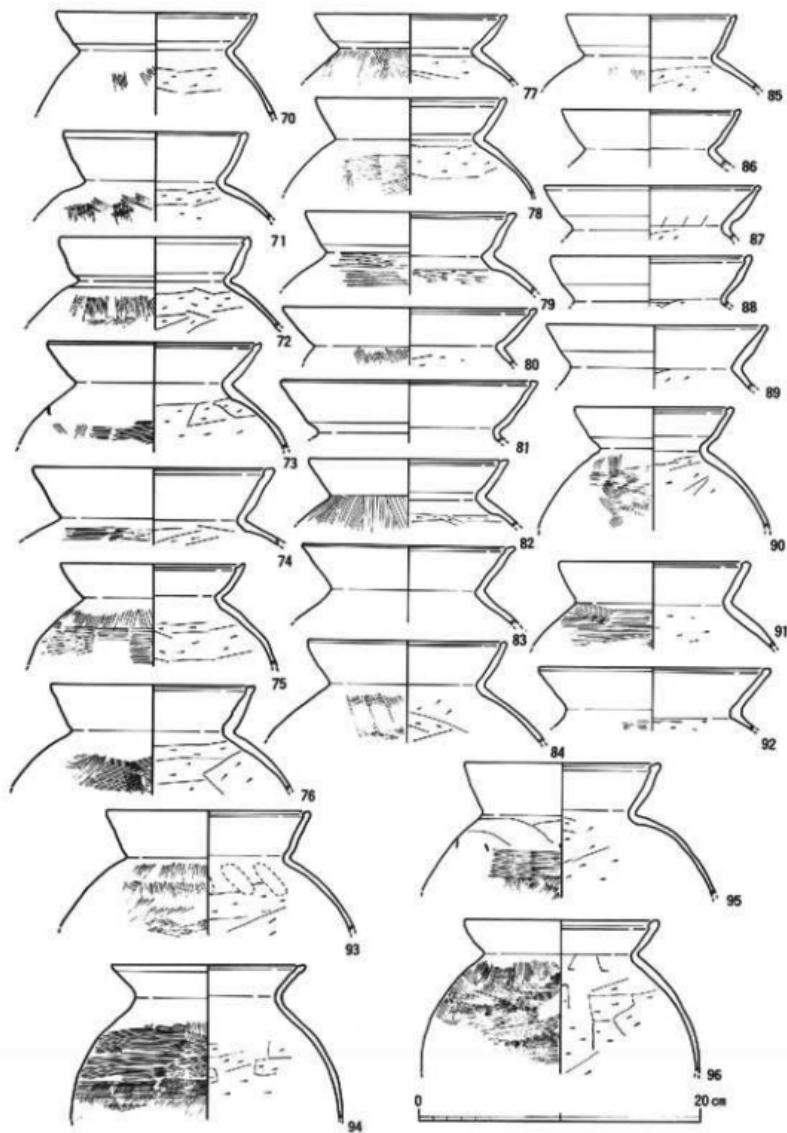
第5図 2区SD 201上層出土遺物②(S=1/4)



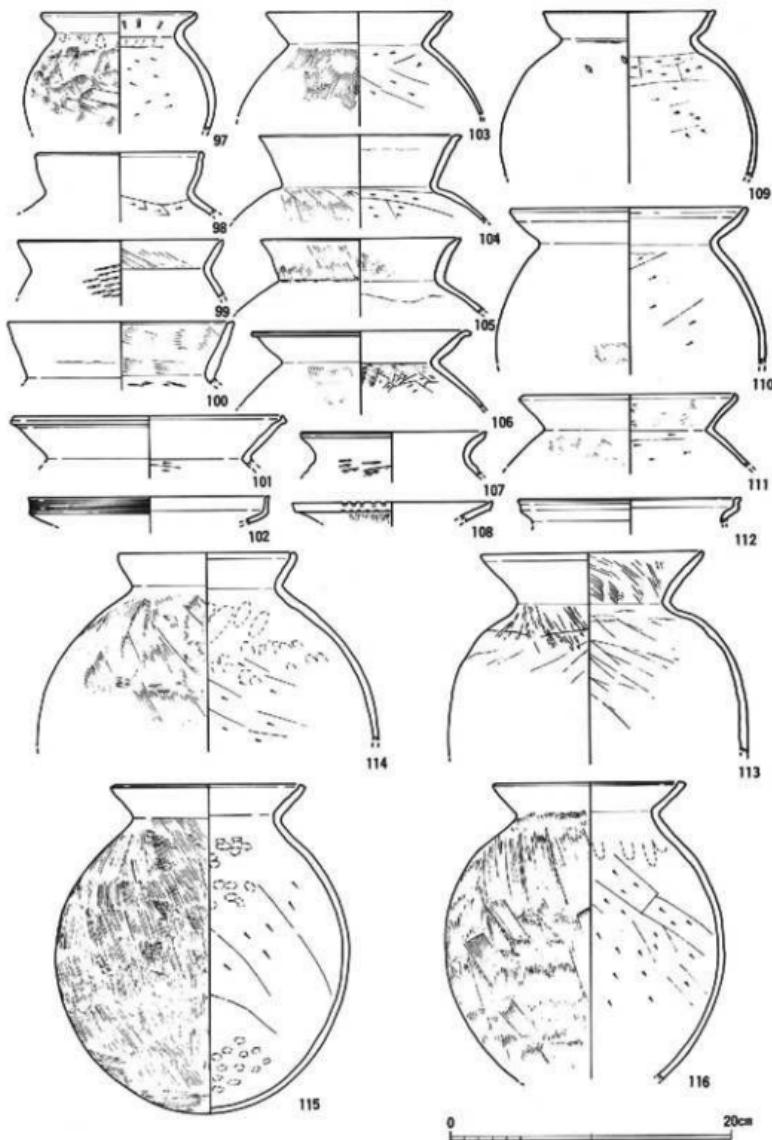
第6図 2区 SD201上層出土遺物③ (S = 1/4)



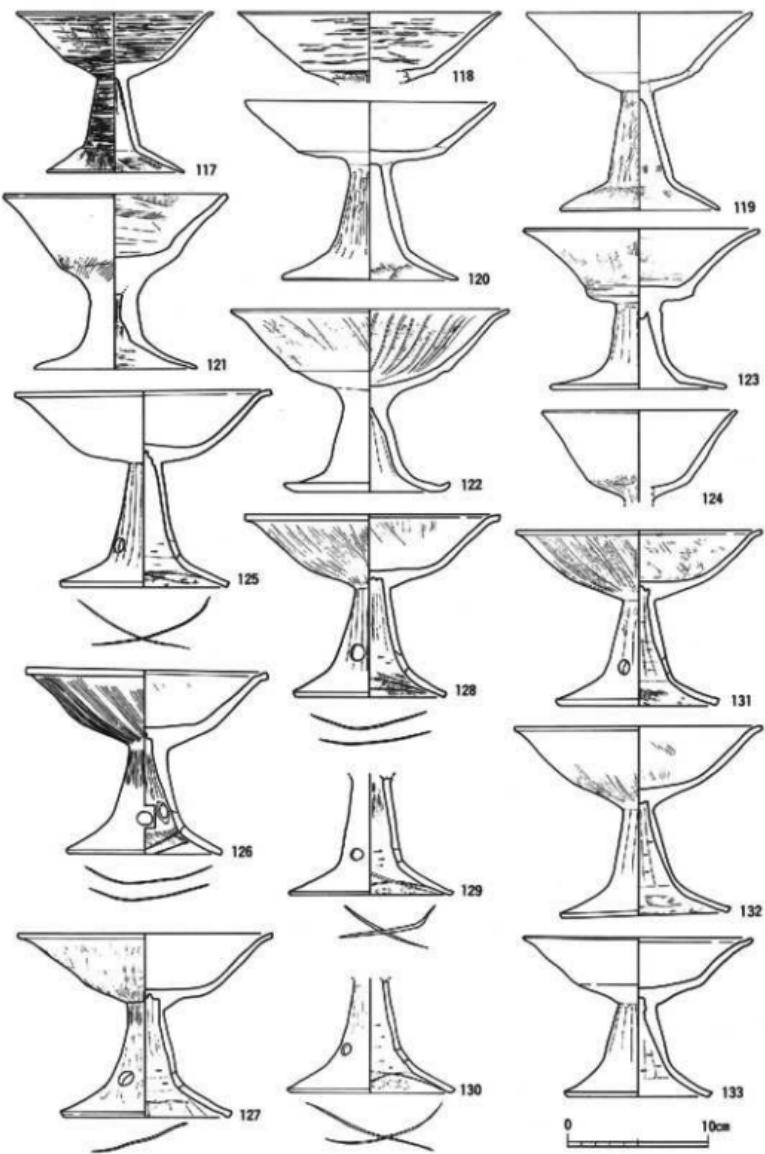
第7図 2区 SD201上層出土遺物④(S=1/4)



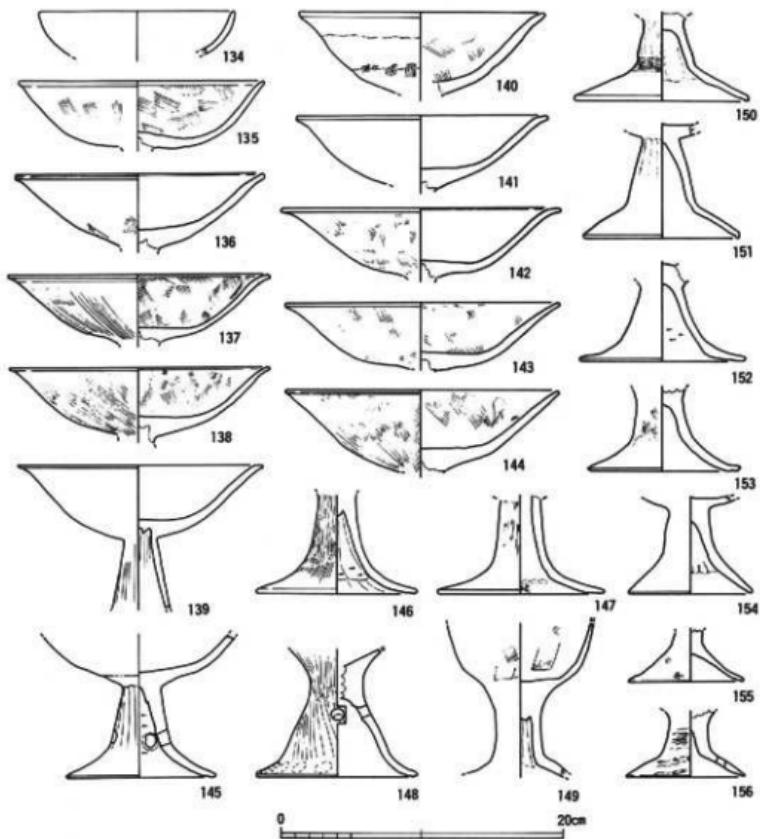
第8図 2区SD 201上層出土遺物⑤(S=1/4)



第9図 2区SD 201上層出土遺物⑥(S=1/4)

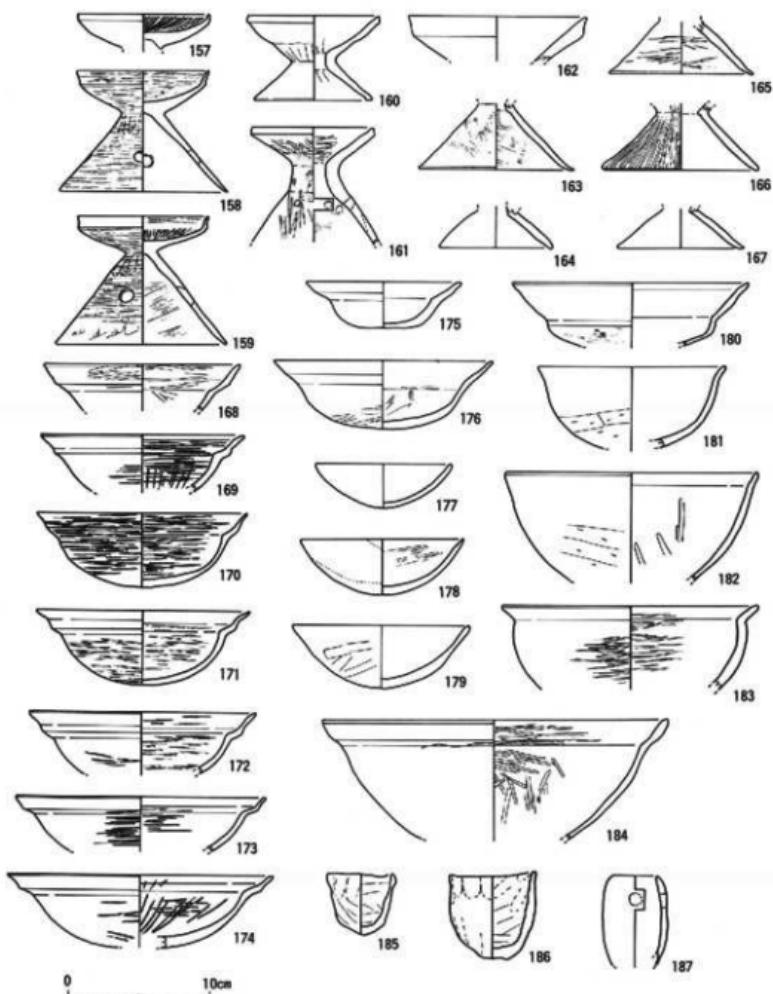


第10図 2区 SD 201上層出土遺物(?) (S = 1/4)

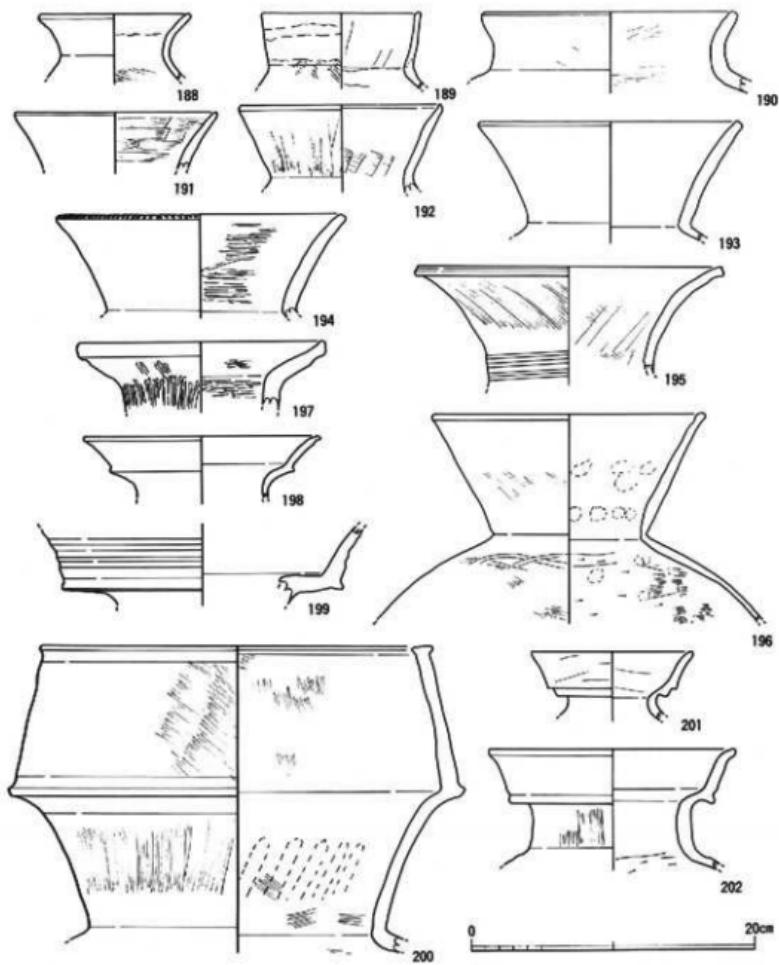


第11図 2区 S D 201上層出土遺物②(S = 1/4)

亮では上層のものに肩部に刺突文を施したもののが認められる(59・63~65・95・109)。また同様の施文は窓(23)にもみられる。窓のうち形態的に搬入品と考えられるものには吉備系(上層-102、下層-231~233)、東部瀬戸内系(上層-114~116、下層-203)、東海系(上層-112、下層-229・230)がある。このうち(115・116)は、胎土分析によると流紋岩質岩起源と推定される砂砾からなり、(115)には他形の角閃石が含まれる。产地としては山陰・北陸地方に分布する砂砾に類似し、加賀南部地方の可能性が高い。また下層にはV様式系のもの(205)がみられる。



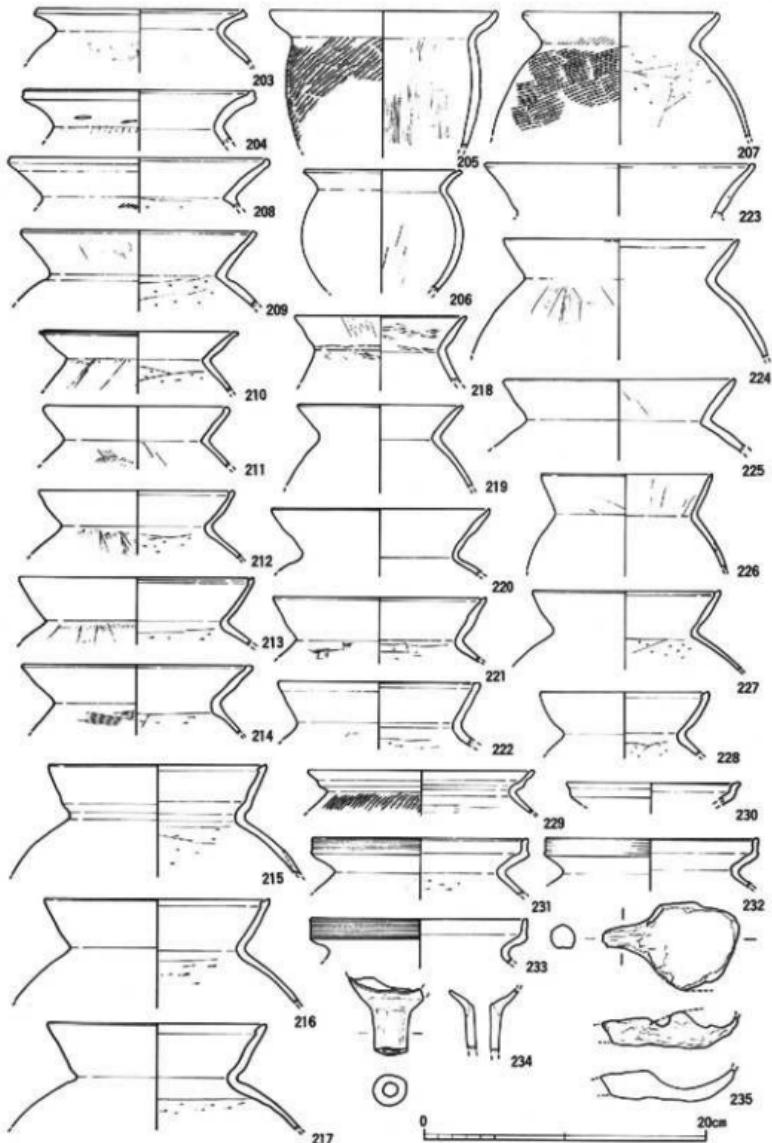
第12図 2区 S D 201上層出土遺物⑨(S = 1 / 4)



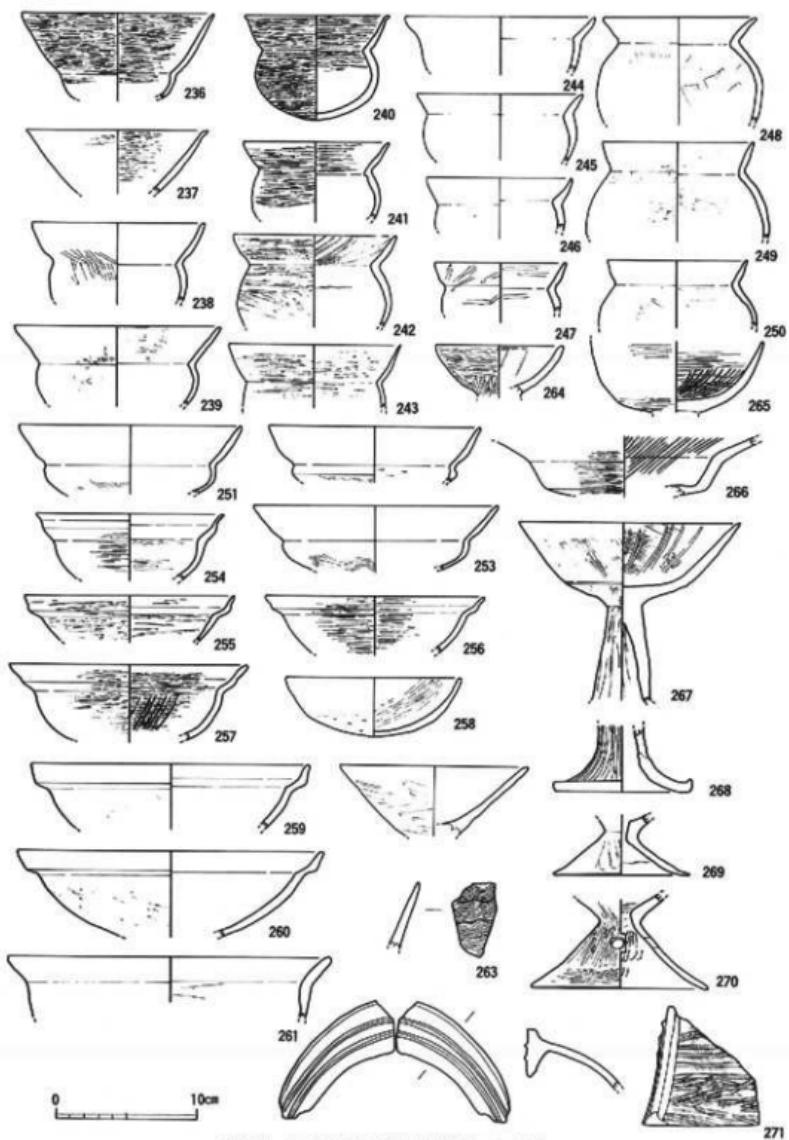
第13図 2区 S D 201下層出土遺物①(S = 1/4)

高杯は下層には非常に少なく、上層のものには器部内面に×、=、ーのヘラ記号を施すもの
が数点認められる(125~130)。

下層から手焙形土器の覆部(271)が出土している。胎土は精良で、色調は淡灰茶色を呈する。
覆部外面にヘラ描沈線文を施し、肥厚させた前面に2条の貼付け突帯を付す装飾性の高いも



第14図 2区 S D 201下層出土遺物② (S = 1/4)



第15図 2区 SD 201下層出土遺物③(S=1/4)

のである。美國遺跡や撫向遺跡に類例がみられ、前者は前面の突帯間に竹管浮文を施すもので、滋賀県南部地域とされている。

特殊な土器としては注口部をもつ鉢状のもの(234)、匙状のもの(235)がある。

木製品(331)は精製品で、上部は柄部と考えられ、下端面は凹凸に傷んでいる。椅子の脚部等の用途が考えられる。

これらの遺物の時期は古墳時代前期に比定され、やや古相を示すもの(庄内式併行期)が含まれるもの、概ね布留式期中段階から新段階前半と考えられる。

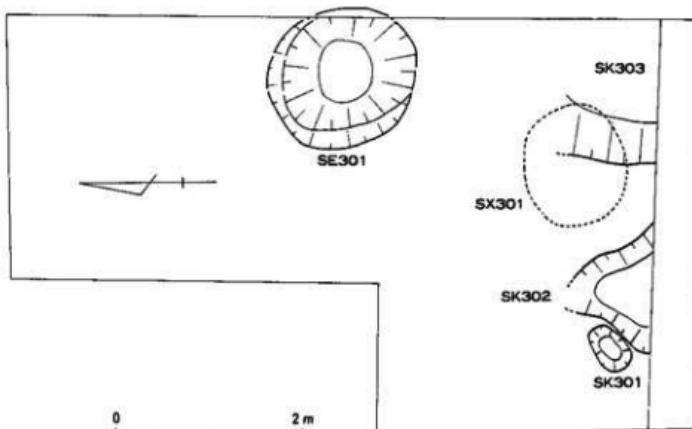
・ 3区

井戸1基(S E 301)、土坑3基(S K 301~303)、土器集積1箇所(S X 301)を検出した。

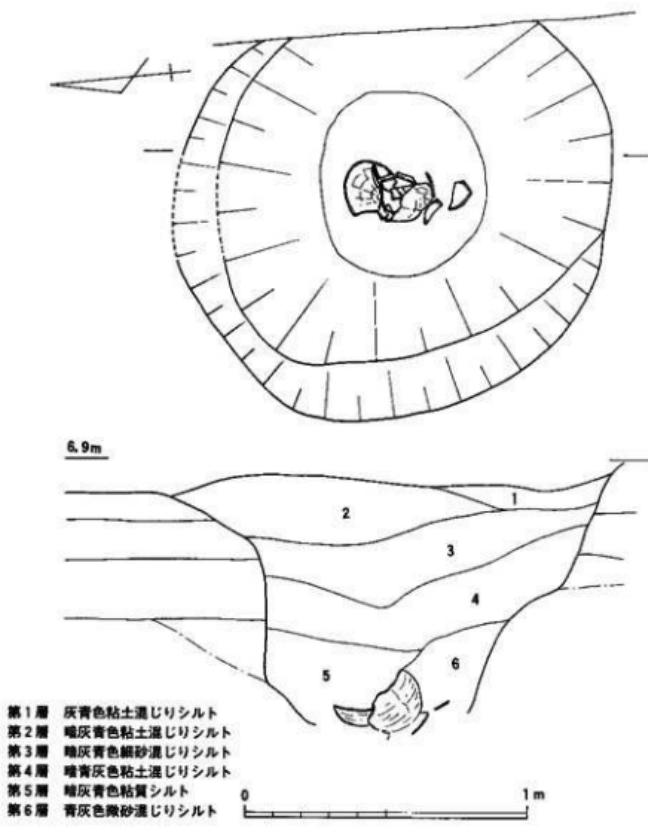
S E 301

調査区の中央部東端で検出した素掘りの井戸で、検出面の標高は約6.8mを測る。平面形は直径1.5~1.6mの不整円形を呈し、検出部分の深さは約90cmを測る。掘方は二段になっており、底から約70cmはほぼ垂直に掘られている。埋土は暗青灰色系のシルトー粘質シルトで、粘土をブロック状に含んでいる。

遺物は、底部から壺口縁部(272)、壺体部(273)が出土しており、時期は古墳時代前期初頭(庄内式期新相~布留式期古相)と考えられる。



第16図 3区遺構平面図(S=1/60)



第17図 3区 S E 301平・断面図 (S = 1/20)

S K 301

平面形は53cm×34cmの楕円形を呈し、深さ約12cmを測る。

S K 302

平面形は135cm×85cm以上の不整形を呈し、深さ約8cmを測る。

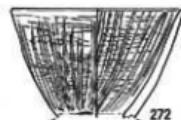
S K 303

平面形は135cm×95cm以上で、深さ約12cmを測る。

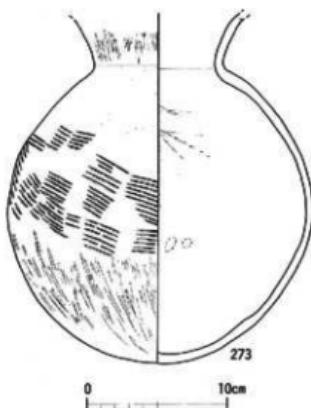
S K 301～303は調査区の南部に集中している。埋土はいずれも青灰色粘土混じりシルトであり、遺物は出土していない。

S X 301

調査区南部の第2層・第3層中で検出した土器集積で、掘方が認められなかつたため土器集積とした。直径約1.2m・厚さ約20～30cmの範囲に広がっている。出土遺物の器種構成をみると、小型丸底壺の占める割合が高いことが指摘できる。時期は古墳時代前期(布留式期新段階)に比定され、2区のS D 201上層出土遺物に併行すると考えられる。



272



273

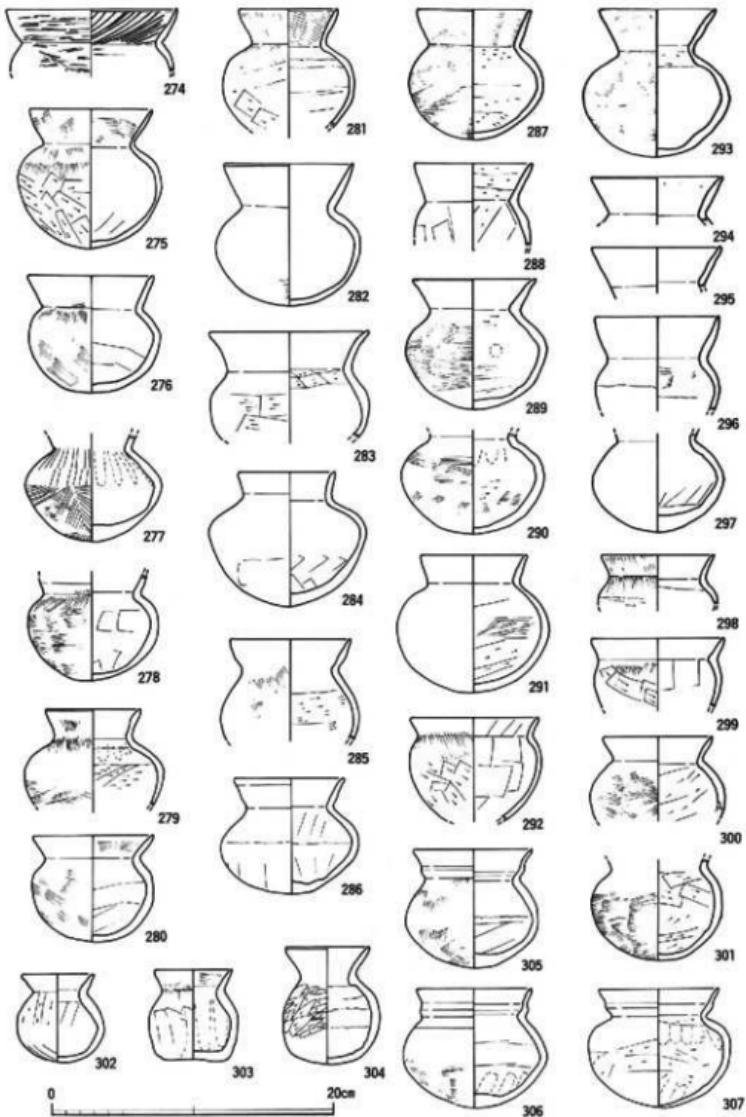
第18回 3区 S E 301出土遺物 (S = 1/4)

第3章 まとめ

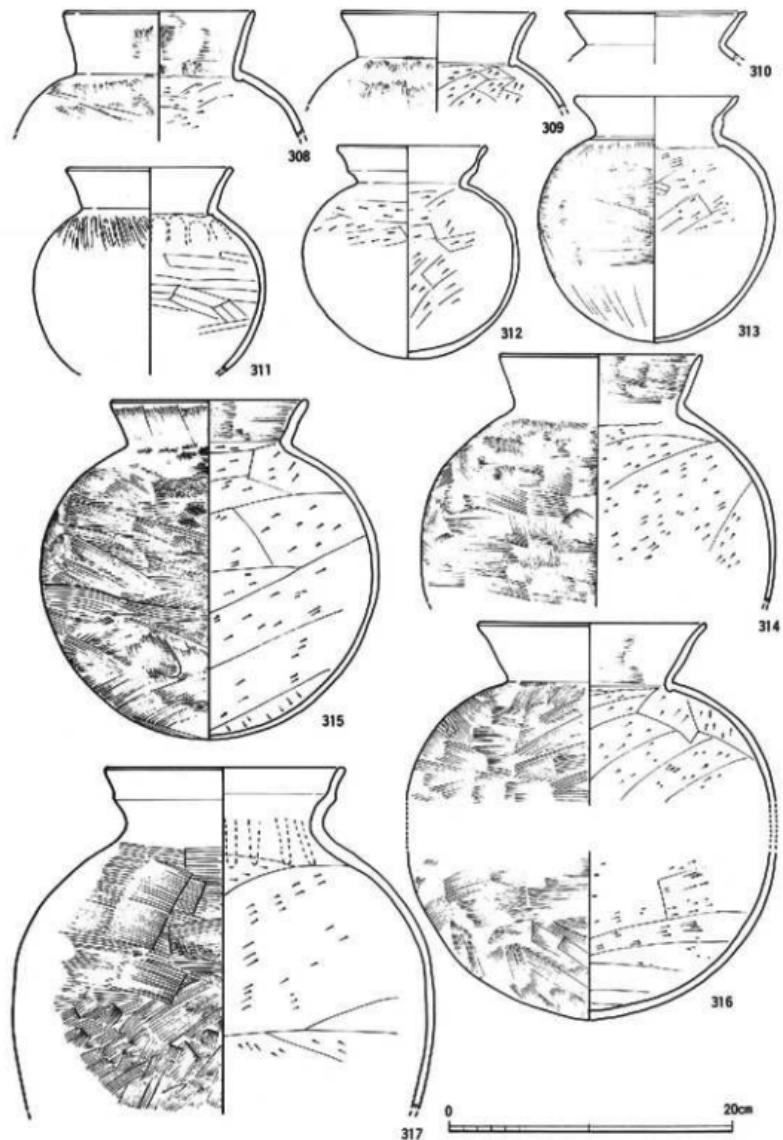
今回の調査では、古墳時代前期の遺構・遺物を検出した。

1区では遺構は検出されなかつたが、調査面積が狭小なこともあります、第1次調査で確認されている奈良時代の集落の広がりについては不明である。

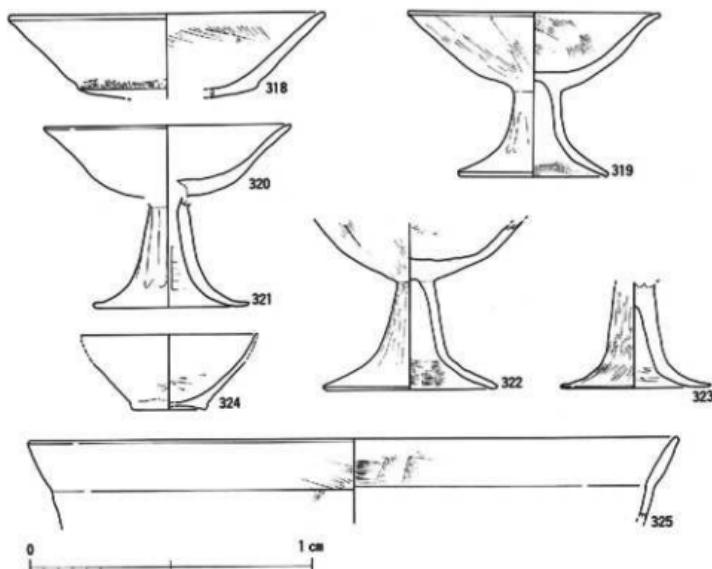
2区ではS D 201からコンテナ20箱に及ぶ多量の布留式期の遺物を検出した。西部の3区においても同時期の土器集積S X 301が検出され、これらの土器の遺存状況は良好であり、付近に当該期の集落が存在することは確実であろう。また3区ではやや時期の遅る井戸S E 301が検出され、2区のS D 201でも同時期の土器が少量ではあるが出土している。第1次調査地や1区においては、これらの時期の遺構は確認されていないことから、これより西に古墳時代前期の集落が展開されていたと考えられる。



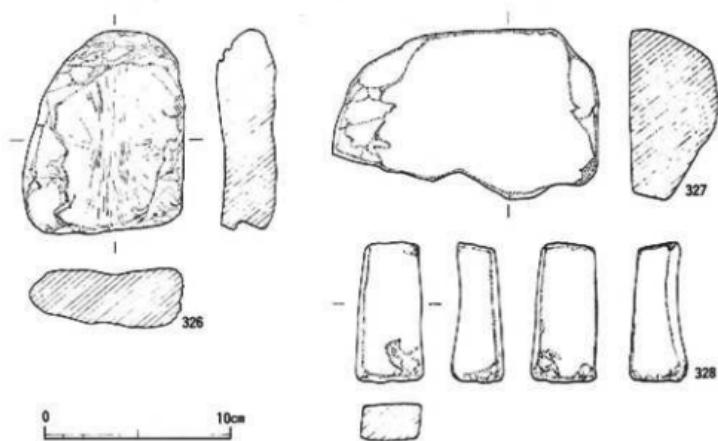
第19図 3区S X301出土遺物①(S = 1 / 4)



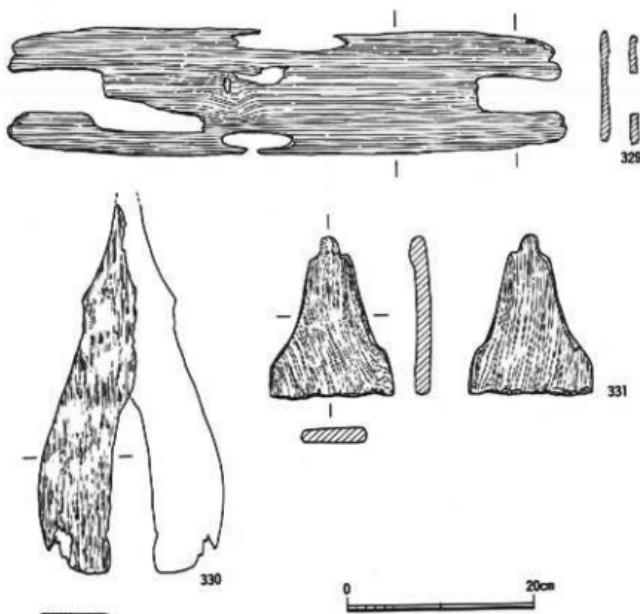
第20図 3区 S X301出土遺物②(S=1/4)



第21図 3区S X 301出土遺物③($S = 1/4$)



第22図 2区S D 201出土遺物($S = 1/3$)



第23図 SD 201上層出土遺物⑧ (S = 1 / 6)

註 索上分析は八尾市立膳川小学校教諭 廣田 尚氏にお願いした。

参考文献

- 八尾南遺跡調査会「八尾南遺跡」1981
- 財団法人大阪文化財センター・大阪府教育委員会「美圖」1985
- 奈良県立橿原考古学研究所編「趣向」1976

第4章 遺物観察表

遺物番号 回収番号	器 物	出土地点	深さ(厘米) 測定部	形 素	色 調	胎 土	焼 成	技法・形態の特徴	残 存 程 度
1	土師器 壺	2区 SD201 上層	(22.4)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ、外面凹形浮紋有り。	極小 反転	
2	土師器 壺	2区 SD201 上層	(20.4)	白灰茶色	やや粗	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面土台ヨコナデ、下化ハケ。 口縁部内面擦ぬり。	1/4 反転	
3	土師器 壺	2区 SD201 上層	(15.2)	褐色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ、腹部外表面、内面土台ハラミガキ。 内面下平手折型凹面ナデ、口縁部と肩部上部にキザミ目、肩部外側、柄による利文有り。	口縫部保存	
4	土師器 壺	2区 SD201 上層		外 内 底 腹	密 2.5mm以下 の砂粒を多量 に含む	やや粗	良好	腹部ハラミガキ。腹部外側腰に帯による利文を施した突帯を巡らす。	1/4 反転
5	土師器 壺	2区 SD201 上層	(16.0)	白灰茶色	やや粗	良好	口縁部—腹部ヨコナデ。	極小 反転	
6	土師器 壺	2区 SD201 上層	(21.6)	外 内 底 腹	密 1.5mm以下 の砂粒を多量 に含む	やや粗	良好	口縁部外壁ヨコナデ、内面ナデ。腹部外壁ヨコナ デ後ハケ、内面ハケ。	1/4 反転
7	土師器 壺	2区 SD201 上層	(30.56)	淡灰茶色	密 1~3mm の砂粒を含む	やや粗	良好	口縁部外壁ハケ、内面ヨコナデ。腹部外壁ハケ、 内面ヨコナデ。腹部内面擦ぬり。	3/4
8	土師器 鉢	2区 SD201 上層	(38.0)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ハラミガキ。	極小 反転	
9	土師器 壺	2区 SD201 上層	(13.8)	淡茶色	密	良好	口縁部外壁ナデ後ハラミガキ、内面ハラミガキ。	1/8 反転	
10	土師器 壺	2区 SD201 上層	(29.6)	明白茶色	やや粗	良好	口縁部外壁ヨコナデ後ハラミガキ、内面ヨコナデ。	1/4 反転	
11	土師器 壺	2区 SD201 上層	21.6	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部上半と内面ヨコナデ、下半外壁ハケ後ハラ ミガキ。	1/4	
12	土師器 壺	2区 SD201 上層	(24.0)	灰茶色	やや粗	良好	口縁部—外壁ヨコナデ。内面ハケ。	1/5 反転	
13	土師器 壺	2区 SD201 上層	(11.6)	外 内 底 腹	やや粗	良好	口縁部外壁ハケ後ナデ、内面ナデ。	1/2 反転	
14	土師器 壺	2区 SD201 上層 最大径(28.0)	15.5 29.6	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。体部外向土ナデ、下平底ナデ、 内面下平ハラケズリ。	3/4	
15	土師器 壺	2区 SD201 上層	(14.8)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。	1/4 反転	
16	土師器 壺	2区 SD201 上層	(19.2)	淡灰茶色	やや粗 以下 の砂粒を 多量 に含む	良好	口縁部—肩部厚ナデ。	1/4 反転	
17	土師器 壺	2区 SD201 上層	(16.6)	暗茶褐色	密 1~4mm の砂粒を含む	やや粗	口縁部ヨコナデ。肩部内面ナデ。	1/4 反転	
18	土師器 壺	2区 SD201 上層	(18.3)	暗茶褐色	やや粗	良好	口縁部ハラミガキ。	1/5 反転	
19	土師器 壺	2区 SD201 上層	(16.2)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ハケ後ヨコナデ。肩部内面ケズリ。	1/2	
20	土師器 壺	2区 SD201 上層	(18.2)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ、腹部ヨコナデ。	1/4 反転	
21	土師器 壺	2区 SD201 上層	11.15	淡乳茶色	密	良好	口縁部外壁ハラミガキ。 内面ナデ後ハケ。肩部外壁ハラミガキ、内面ナデ。	口縁部は 完形	
22	土師器 壺	2区 SD201 上層 最大径(14.0)	(11.9)	乳橙褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ後ハラミガキ。底部外壁タキ 後ナデ、内面ナデ。外壁擦付着。	1/2 反転	

遺物番号 回収場所分	器 横	田土地点	古墳(a) (直径) 高さ	色 調	胎 土	焼成	技法・形態の特徴	残 存 状
23 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	11.7 15.0 最大径15.6	乳灰茶色 の砂粒を含む	赤 0.5~1mm	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側ハケ、内側上下ハケケズリ、下半側オサエ。底部穿孔有り。	口縁 I / 4 欠損
24 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	12.4 15.5 最大径13.4	淡褐灰色	赤 0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側ハミガキ、内面ナデ。	ほぼ完形
25 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	(9.6) 11.6 最大径13.9	乳灰茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部上半外側ハケ、内側ハケケズリ、下半外側ハミガキ、内面ナデ。底体部外側穿孔有り。	口縁 I / 3 欠損
26	土師器 壺	2区 SD201 上層		明灰褐色	赤	良好	III縫部ハミガキ。底体部外側ハミガキ、内面ナデ。内側下半指オサエ有り。	4 / 5 反転
27	土師器 壺	2区 SD201 上層	(11.8)	橙褐色	赤	良好	口縁部一肩部ナテ後横ハミガキ。	1 / 2 反転
28	土師器 壺	2区 SD201 上層	(10.3)	淡灰褐色	赤	良好	口縁部外側ヨコナデ後ハミガキ、内面ヨコナデ後右上ヒラミガキ。底体部上半外側ハミガキ。	1 / 8 反転
29	土師器 壺	2区 SD201 上層	(10.6)	淡灰茶色	赤	良好	口縁部外側ハミガキ、内面ヨコナデ。肩部内面ナデ。	1 / 5 反転
30	土師器 壺	2区 SD201 上層	(9.5)	淡茶色	赤	良好	III縫部ヨコナデ。底体部外側ハミガキ、内面指オサエ。	1 / 4 反転
31 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	9.3 7.7	淡灰茶色	赤	良好	IIII縫部ヨコナデ。底体部外側ハケケズリ、内面ナデ。	完形
32 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	7.2 最大径 8.2	淡灰茶色	赤 0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部外側ヨコナデ、内面ナデ。底体部ハナナデ。	4 / 5
33	土師器 壺	2区 SD201 上層	(8.4) 8.4 最大径(9.0)	橙灰色	やや粗	良好	口縁部外側ヨコナデ、内面ハケ。底体部外側ハケ、内側上半指オサエ、下半ケズリ。	1 / 2
34	土師器 壺	2区 SD201 上層	8.6 8.7	黑色	赤	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側ナテ後ハケ、内面ナデ。外側、底体部内面穿孔有り。	3 / 4
35 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	7.4 8.6 幅最大径10.3	乳灰茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外側ハケ。底体部ナデ。底体部外側黒斑有り。	完形
36 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	7.75 8.8 幅最大径11.4	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側上半ハケ、下半ケズリ。底体部内面ナデ。	完形
37	土師器 壺	2区 SD201 上層	(9.2)	乳茶褐色	やや粗	良好	内外面ナデ。外側黒斑有り。口縁部粘土接合痕痕に残る。	1 / 5 反転
38	土師器 壺	2区 SD201 上層	(7.6)	淡系褐色	赤	良好	IIII縫部外側ヨコナデ、内面ナデ。肩部外側ハケ。内面ハケケズリ。底体部内面ナデ。	1 / 8 反転
39	土師器 壺	2区 SD201 上層	(9.0)	橙褐色	赤	良好	口縁部ヨコナデ。肩部外側ハケケズリ、内面ナデ。	1 / 4 反転
40	土師器 壺	2区 SD201 上層	(8.2)	淡茶色	やや粗	良好	IIII縫部ヨコナデ。肩部内面ナデ。	1 / 8 反転
41 4	土師器 壺	2区 SD201 上層	(8.2) 9.0 幅最大径9.1	淡灰茶色 の砂粒を含む	赤 1.5mm以下	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側ハケ。底体部上下内面ナデ。底体部内面ナデ。	口縫部 3 / 4欠損 一部反転
42 5	土師器 壺	2区 SD201 上層	8.2 7.3 最大径8.85	乳灰茶色	やや粗	良好	IIII縫部ヨコナデ後ハミガキ。底体部外側上半ケズリ後ハミガキ。下半ケズリ。外側穿孔有り。	口縫部 1 / 4欠損
43	土師器 壺	2区 SD201 上層	(6.4)	明乳橙色	赤	良好	内外面ナデ。	口縫部完存 反転
44 5	土師器 壺	2区 SD201 上層	9.1 5.45	淡灰茶色	やや粗	良好	IIII縫部一全体内面ヨコナデ。体部外側ナデ。底体部外側ハケケズリ、内面ナデ。	完形
45 5	土師器 壺	2区 SD201 上層	8.8 8.8 内 表面色	赤 乳灰茶色	やや赤	良好	口縫部一底体部外側ハケ後ナデ、内面ナデ。	完形

器 物 分 類 固有番号	器 物 名	出土地点 (都道府県) 生長部 名	色 滴 (9.0)	断 土 高さ 以下 の砂粒を 多量に 含む	焼 成	枝法・形態の特徴	備 考	
46	土器器 皿	2区 SD201 上層	(9.0)	淡灰茶色	高 1.5mm 以下の 砂粒を少 量含む	良好	口縁部-底体部外表面ナデ。肩部内面指サエ。 体部内面ヘラケズリ。	1 / 5 反転
47	土器器 皿	2区 SD201 上層	(8.8)	淡灰茶色	高 1mm 以下の 砂粒を少 量含む	良好	口縁部-底体部上半外表面ハケ。肩部内面ナデ。 体部内面ヘラケズリ。 外表面指サエ。	2 / 5 反転
48	土器器 皿	2区 SD201 上層	9.2 9.5	淡灰茶色	高 1.5mm 以下の 砂粒を多 量含む	良好	口縫部ヨコナデ。底体部外表面ハケ、内面ヘラケズ リ。	完形
49	土器器 皿	2区 SD201 上層	8.65 8.6 8.4	厚乳茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半ナデ。下半外側ヘ タクリ。内面ハケ。 全面に焼付帯。	ほぼ完形
50	土器器 皿	2区 SD201 上層	9.3 8.6 8.5	褐灰色	高 1.5mm 以下の 砂粒を多 量含む	良好	口縫部-底体部外表面ナデ。底体部内面ナデ。	ほぼ完形
51	土器器 皿	2区 SD201 上層	5.8 8.9 8.1	淡灰茶色	高 1.5mm 以下の 砂粒を多 量含む	良好	外表面ナデで底部へ残る。口縫部-肩部内面ナデ。 底体部内面下部ヘラケズリ。下半ハケ。外側黒斑 有り。	3 / 4
52	土器器 皿	2区 SD201 上層	9.4 11.6 10.5	黑 内 淡茶色	やや粗 内 淡茶色	良好	口縫部ナデ。底体部外表面ハケ、内面ヘラケズリ後 ナデ。外表面指サエ。成形ハレ記号有り。	完形
53	土器器 皿	2区 SD201 上層	9.3 11.2 11.1	黑乳茶色	密	良好	口縫部外表面ヨコナデ、内面ヘラケズリ。底体部外 面ハケ、内面ナデ。	ほぼ完形
54	土器器 皿	2区 SD201 上層	9.5 11.5 10.5	淡灰茶色	高 1mm 以下の 砂粒を多 量含む	良好	口縫部内面ハケ。底体部上半外表面ハケ。 底体部内面ナデ。	完形
55	土器器 皿	2区 SD201 上層	8.4 10.7 9.5	乳黄茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。肩部外側ヘラミガキ。内面ナデ。 底体部ラミガキ。底体外側ヘラケズリ。 外表面斑有り。	完形
56	土器器 皿	2区 SD201 上層	(9.9) 8.6 7.4	淡灰茶色	高 0.5-1mm 以下の 砂粒を含む	良好	口縫部-底体部外表面ハケ、内面ヘラナデ。	一部欠損
57	土器器 皿	2区 SD201 上層	9.75 6.8 10.85	乳灰茶色	密	良好	口縫部上ヨコナデ。下下-底体部外表面ハケ、内 面ナデナダ。下半ヘラケズリ。	口保1 / 2 欠損
58	土器器 皿	2区 SD201 上層	12.6 11.9 10.5	深褐茶色	高 0.5mm 以下の 砂粒を多 量含む	良好	口縫部ナデ。肩部ナデ。 底体部外表面ハケ、内面ナデ。 外表面斑有り。	完形
59	土器器 皿	2区 SD201 上層	14.5 24.9 最大径22.1	乳灰茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。底体部外表面ハケ、内面ナデハ ケズリ。下半ナデ。外表面斑有。	全体少々欠 損
60	土器器 皿	2区 SD201 上層	14.2 25.7 最高径22.1	褐褐色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。底体部外表面ハケ。肩部内面ナデ。 底体部外表面ヘラケズリ。底体内面指サエ。 外表面底体部下部内面に焼付帯。	3 / 4 一部反転
61	土器器 皿	2区 SD201 上層	(15.4)	乳茶褐色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。肩部内面ヨコナデ後ハケ、内面 ヨコナデ。底体部外表面ハケ、内面ヘラケズリ。 外表面指サエ。	1 / 4 反転
62	土器器 皿	2区 SD201 上層	14.9	淡茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。肩部内面ナデ。底体部外表面ハ ケ、内面ヨコナデ。	1 / 3 -部反転
63	土器器 皿	2区 SD201 上層	(12.7)	白茶褐色	やや粗	良好	口縫部-肩部ヨコナデ。底体部外表面ハケ。内面ヘラ ケズリ。肩部外表面正負有り。 外表面指サエ。底体部最大径(19.2)	2 / 3 反転
64	土器器 皿	2区 SD201 上層	(15.2)	乳褐色	密	良好	口縫部-肩部ヨコナデ。底体部外表面ナデ。底体 部外表面ハケ、内面ヘラケズリ。底体部外表面正負有 り。	1 / 4 反転
65	土器器 皿	2区 SD201 上層	14.1	乳茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。肩部外表面ナデ。内面指サエ。 底体部外表面ハケ、内面ヘラケズリ。	2 / 3 一部反転
66	土器器 皿	2区 SD201 上層	(15.0)	另 内 乳茶色	高 1mm前後の 砂粒多く含む	良好	口縫部ヨコナデ-肩部外表面ヨコナデ後ハケ。口縫部内 面ヨコナデ。(1)口縫部内面ナデ。底体部外表面ハ ケ、内面ヘラケズリ。外表面斑有。	1 / 4 反転
67	土器器 皿	2区 SD201 上層	13.1	外 内 淡茶色	やや粗 内 淡茶色	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外表面ハケで、黒斑有 り。内面ヘラケズリ。	1 / 3 都反転
68	土器器 皿	2区 SD201 上層	(18.3)	乳茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外表面ヨコナデ後ハ ケ。 足部内面ヨコナデ後ヘラケズリ。脊部内面ヨコナデ。	1 / 3 反転

遺物番号 回収品番	器種	出土地点	長さ(cm) 幅(横)(cm)	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	保存 状況
69	土師器 甕	2区 SD201 上層	(14.6)	淡褐色	密	良好	口縁部～肩部外側ヨコナデ。肩部内面ナデ。体部外側ナデ、内面ヘラケズリ。 外側焼付着。	1/4 反転
75	土師器 甕	2区 SD201 上層	(12.6)	淡茶灰色	やや暗 1mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部～肩部外側ヨコナデ。肩部内面ナデ。体部外側ハケ、内面ヘラケズリ。 口縫部外側瓦礫有り。	1/4 反転
76	土師器 甕	2区 SD201 上層	(14.5)	白黃茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。肩部外側ヨコナデ後ハケ。内面 ナデ。体部外側ハケ、内面ヘラケズリ。	1/2 反転
90	土師器 甕	2区 SD201 上層	(11.2)	青 褐褐色	やや暗 2mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外側ハケ、内面ケズ リ。 外側焼付着。	1/4 反転
93	土師器 甕	2区 SD201 上層	(14.4)	青 褐色	やや暗 2mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外側ハケ。 肩部内面瓦サエ。体部内面ヘラケズリ。	1/2 反転
94	土師器 甕	2区 SD201 上層	(13.2)	淡乳褐色	青 1～3mm の砂粒含む	良好	口縫部～肩部外側ヨコナデ。肩部内面ナデ。 体部外側ハケ、内面ヘラケズリ。 外側焼付着。	1/4 反転
95	土師器 甕	2区 SD201 上層	(14.0)	明赤褐色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。肩部外側ナデ延展有り。 体部外側ハケ。底体部内面上半ヘラケズリ。 外側焼付着。	3/4 一部反転
96	土師器 甕	2区 SD201 上層	(13.8)	灰茶色	やや暗 2mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外側ハケ。 肩部内面ヘラケズリ。体部内面ヘラケズリ。	1/4 反転
97	土師器 甕	2区 SD201 上層	(9.8)	淡乳褐色	埋	良好	口縫部外側ヨコナデ、内面ヨコナデでハケ残る。 肩部指オキエ。体部外側ハケ、内面ヘラケズリ。	1/2 反転
102	土師器 甕	2区 SD201 上層	(17.2)	青 茶褐色	青 1mm以下 の砂粒を含む	良好	口縫部上半外側ハケ、内面ヨコナデ。口縫部下半 ナデ。 外側焼付着。	個小 反転
103	土師器 甕	2区 SD201 上層	12.9	茶褐色	やや暗 3mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外側ハケ、内面ヘラ ケズリ。 外側焼付着。	1/2 一部反転
108	土師器 甕	2区 SD201 上層	(15.2)	白茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ後外側ヘラミガキ。口縫部上ド に削み目。	1/3 反転
109	土師器 甕	2区 SD201 上層	12.2	白茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。肩部ナデで外側に延展有り。 体部外側ナデ、内面ヘラケズリ。 外側焼付着。	体部3/4 欠損 一部反転
110	土師器 甕	2区 SD201 上層	(16.6)	淡灰茶色	青 1mm以上 の砂粒を多量 に含む	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外側ナデで、ハケ残 る。内面ヘラケズリ。 体部外側焼付着。	1/4 反転
112	土師器 甕	2区 SD201 上層	(15.8)	乳灰茶色	青 1.5mm以下 の砂粒を多量 に含む	良好	外側ヨコナデ、内面ナデ。	個小 反転
113	土師器 甕	2区 SD201 上層	(16.0)	乳灰褐色 ～黒	青	良好	口縫部外側ヨコナデ、内面ハケ。底体部上半外側 後ヘラミガキ。内面ナデ。 外側一ロ筋部内面黒斑有り。	1/3 一部反転
114	土師器 甕	2区 SD201 下層	(12.6)	黑灰褐色	青 1mm以下 の砂粒を含む	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外側ハケ。 肩部内面オキエ。体部内面ヘラケズリ。 外側焼付着。	1/4 反転
115	土師器 6	2区 SD201 上層 最大径21.1	13.5 23.4	乳灰茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。底体部上半外側ハケ。肩部内面ナ デ、底体部内面ヘラケズリ、底部内面焼付着。	1/4 體体部分 少々欠損
116	土師器 6	2区 SD201 上層 体部最大径 (20.0)	13.1 12.5 (9.7)	乳灰茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。底体部外側ハケ。肩部内面ナデ。 底部内面ヘラケズリ。底部黒斑有り。	1/3 一部反転
117	土師器 6	2区 SD201 上層 高杯	(14.0) 12.5 (9.7)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縫部外側ハケ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。 底部上位ヘラミガキ。脚柱部外側ハケ後ヘラミガキ。内面 しらひ目とヨコナデ。側部外側ハケ後ヘラミガキ。内面ハ ケ。	1/3 一部反転
118	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(18.6)	灰褐色	青	良好	内外面ナデ後ヘラミガキ。	1/4 反転
119	土師器 高杯	2区 SD201 上層 脚柱径11.6	16.2 14.1 (11.6)	淡乳茶色	やや粗	良好	底部ヨコナデ。脚柱部外側ハケ後ヘラミガキ。内面 ハケ後ナデ。脚柱ハケ。 他部外側焼付着有り。	1/2 一部反転
120	土師器 高杯	2区 SD201 上層 脚柱径12.5	(17.8) 12.7 脚柱径12.5	燈褐色	やや暗 1～ 4mmの砂粒多 く含む	良好	底部外側ヨコナデ内面ナデ。 底部外側ナデ後ヘラミガキ。脚柱部内面ナデ。 脚柱部内面ハケ。	体部1/2 欠損 一部反転

植物番号 園版番号	基 標	出土地点	計量(g) (重さ)	測定 (高さ)	色 調	胎 生	地 成	特徴・形態の特徴	残 存 状 態
121 6	土師器 高杯	3区 SD201 上層	16.0 12.5 (11.6)	暗灰茶色	審 0.5~1 mm の砂粒を含む	良好	杯部外面ナデ、内面ハケ。脚部外面ナデ。脚柱部 内面シボリ目、脚部内面ハケ。		3 / 4
122 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(19.7) 13.1 11.8	淡灰茶色	審 0.5~2.0 mmの砂粒を含む	良好	脚部上半外面ヨコナデ後ハケ、内面ハラ後ヘラミ ガキ。脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。	門脛 1 / 2 脚部一部欠損	
123 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(16.0) 11.4 (12.7)	乳灰茶色	審	良好	杯部ナデ。脚柱部外面ヘミガキ。輪部ヨコナデ。		1 / 2
124	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(13.8)	淡乳茶色	やや粗	良好	杯部ナデ。杯部外面下位ハケ。底座有り。		1 / 4 反転
125 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	18.3 14.1 (11.8)	乳灰茶色	やや粗	良好	杯部ヨコナデ。脚柱部外がヘラミガキ。脚部外面 上半ヘラミガキ。下半ヨコナデ、内面トロハラケ ズリ、下半ハケ。ヘラ記号有り。3方向に円孔。	上縁、脚部 少々欠損	
126	土師器 高杯	2区 SD201 上層	17.9 13.3 脚底径11.1	淡茶色	やや審 0.5 mm 以下の砂粒を 多く含む	良好	杯部ハケ内面ナデ。脚柱部外面ヘラミガキ、内 面シボリ目。脚部ナデで内面ハケ、ヘラ記号有り。 3方向に円孔。		
127 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(18.2) 13.0 11.8	淡白茶色	審	良好	杯部ヨコナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。脚柱部外面へ ミガキ後ハケ、内面シボリ目、ヘラケズリ。脚部外面 ヘラミガキ、内面ハケ。3方向に円孔、ヘラ記号有り。	杯部 1 / 3 欠損	
128 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	18.2 13.3 10.7	乳灰茶色	やや粗	良好	杯部ハケ後ヨコナデ。脚柱部外器ヘラミガキ。脚部外 面ヘラミガキ。脚柱部トロハラケズリ。下半ハケ。ヘ ラ記号有り。	口縁 1 / 2 欠損	
129	土師器 高杯	2区 SD201 上層	脚底径11.8	乳灰色	やや粗	良好	脚部ナデ、内面シボリ目。脚部内面中位ヘラケズ リ。脚部内面ヘラ記号有り。3方向に円孔。	脚部は充 分一部反転	
130	土師器 高杯	2区 SD201 上層	脚底径12.1	明乳茶色	やや粗	良好	脚部外表面ヘラミガキ、内面ナデ。脚部外表面 ヘラミガキ。脚柱部ナデ。脚部内面山形ハラケズリ。 脚部内面ヘラ記号有り。3方向に円孔。	脚部 2 / 3 一部反転	
131 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	(17.6) 12.5 10.7	茶褐色	審 0.5~1.5 mmの砂粒を含む	良好	杯部上半ヨコナデ後ハケ、下半ハケ。脚部外表面 ヘラミガキ後ハケ、内面シボリ目。輪部外面ナデ。 内面ハケ。脚部 3 方向に円孔。	杯部 2 / 3 欠損	
132	土師器 高杯	2区 SD201 上層	17.5 13.3 脚底径12.2	にぶい橙 色	審 2 mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	脚部外表面ナデ、下位ハケ。脚部内面ハラミ ガキ、脚柱部外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ。脚部 外表面、内面ハケ。	2 / 3	
133 6	土師器 高杯	2区 SD201 上層	16.5 11.4 10.2	乳灰茶色	やや粗	良好	脚部外表面ヨコナデ、内面ヨコナデ。ヨコナデ。 脚部外表面ヘラミガキ。脚柱部外面ヘラミガキ、内面ナ デ後ヘラケズリ。脚部内面ナデ。雄鶏ヨコナデ。	杯部 1 / 5 複数 1 / 4 欠損	
148 7	土師器 高杯	2区 SD201 上層	脚底径11.6	乳茶色	やや粗	良好	脚部外表面ヘラミガキ。脚部外表面密密底。脚部外 面ナデ。4方向に円孔。	脚部 1 / 2 一部反転	
149 7	土師器 高杯	2区 SD201 上層		淡茶灰褐色	審 1.5mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	杯部ハケ。脚柱部ナデ。	1 / 2	一部反転
157	土師器 器台	2区 SD201 上層	(9.2)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縫部ヨコナデ。口縫部外面ナデ、内面ヘラミ ガキ。	2 / 3	一部反転
158 7	土師器 器台	2区 SD201 上層	(9.4) 8.7 11.8	淡茶色	審	良好	口縫部ヘラミガキ。脚部外面ヘラミガキ、内面ナ デ。脚部 4 方向に円孔。	3 / 4	
159 7	土師器 器台	2区 SD201 上層	(9.25) 9.15 12.15	茶色	審	良好	口縫部ヘラミガキ。脚部外表面ヘラミガキ、内面シ ボリ目。下半外側ハケ後ヘラミガキ、内面ハ ケ後ナデ。脚部 3 方向に円孔。	口縫部 1 / 4 脚部 1 / 6 欠損	
160 7	土師器 器台	2区 SD201 上層	9.4 6.06 (8.5)	乳灰茶色	やや粗	良好	口縫部上半、脚部下ヨコナデ。	底座 1 / 3 欠損	
161 7	土師器 器台	2区 SD201 上層	(8.5)	赤褐色~ 淡褐色	審 1 ~ 4 mm の砂粒を含む	良好	口縫部ヨコナデ。口縫部外表面~前部外表面ハケ後 ヘラミガキ。口縫部内面ヘラミガキ。脚部外表面 ナデ。脚部内面ナデ後ハケ。4 方向に円孔。	3 / 4	一部反転
162	土師器 器台	2区 SD201 上層	(12.6)	乳肌色	やや粗	良好	内外面ナデ。	1 / 4	反転
169	土師器 器台	2区 SD201 上層	(14.45)	淡褐色	やや粗	良好	内外面ヘラミガキ。	1 / 4	反転
170	土師器 器	2区 SD201 上層	14.9 5.3	淡茶褐色	審 0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	底部外周餘く全面ヘラミガキ。底部外面ナデ。外 面底座有り。	4 / 5	

通称番号	品種	出土地点	古文(原文)	現文	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	発 表 年 代
171 7	土器器 体	2区 SD201 上層	(15.2 5.4)	(15.2 5.4)	淡灰茶色	青 0.5mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ヘラミガキ。 底座部ヘラミガキ。	4/5
172	土器器 体	2区 SD201 上層	(16.0)	(16.0)	明灰褐色	青	良好	内外面ヘラミガキ。	1/8 反転
173	土器器 体	2区 SD201 上層	(17.8)	(17.8)	乳茶色	やや粗	良好	内側面ヨコナデ後ヘラミガキ。体部外側下部ヘラ ケズリ、無底有り。	1/8 反転
174	土器器 体	2区 SD201 上層	(18.9)	(18.9)	乳茶褐色	青	良好	口縁部内面ヨコナデ。外側ナデ後ヘラミガキ。 底座部内面ナデ後ヘラミガキ。	1/5 反転
175	土器器 体	2区 SD201 下層	(11.0 3.3)	(11.0 3.3)	乳灰茶色	やや粗	良好	内外面ナデ。	1/2 一部反転
176 7	土器器 体	2区 SD201 上層	(15.6 4.9)	(15.6 4.9)	淡灰褐色	青	良好	口縁部ヨコナデ。底体器ナデ後ヘラミガキで 内面工具痕有り。	1/3 一部反転
177	土器器 体	2区 SD201 上層	(9.75 3.1)	(9.75 3.1)	乳茶色	やや粗	良好	内外面ナデ。	1/5 一部反転
178 7	土器器 体	2区 SD201 上層	(11.75 4.0)	(11.75 4.0)	乳灰茶色	青	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側ナデ。 黒斑有。	ほぼ完形
179 7	土器器 体	2区 SD201 上層	(12.7 4.5)	(12.7 4.5)	青灰褐色	やや粗 2mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	外側ヘラナデ。底体内部ヨコナデ。底面内面ナデ。	1/3 一部反転
180 7	土器器 体	2区 SD201 上層	(16.6)	(16.6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側ハケ、内面ナデ。	1/4 反転
181	土器器 体	2区 SD201 上層	(12.6)	(12.6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。底体部外側ヘラケズリ、内面ナ デ。	1/4 反転
182	土器器 体	2区 SD201 上層	(17.8)	(17.8)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。底部外側ヘラケズリ、内面ナデ後ヘ ラミガキ。	1/8 反転
183	土器器 体	2区 SD201 上層	(18.0)	(18.0)	深茶褐色	青 2mm前後 の砂粒含む	良好	口縁部外面ヨコナデ。内面ナデ後ヘラミガキ。 底体ヘラミガキで内面上部ハケ残る。	1/8 反転
184	土器器 体	2区 SD201 上層	(24.7)	(24.7)	乳灰茶色	やや粗	良好	外側ナデ。内面ナデ後ヘラミガキ。	極小 反転
185 7	土器器 体	2区 SD201 上層	(5.0 4.3)	(5.0 4.3)	淡灰茶色	青 1mm以 上の砂粒を少量 含む	良好	口縁部外側押オサエ。底座部ナデ。	完形
186 7	土器器 体	2区 SD201 上層	(6.0 5.8)	(6.0 5.8)	淡灰褐色	青 2mm以下 の砂粒を少量 含む	良好	口縁部～底体部外側押オサエ。底面内面ナデ。	完形
187	土器器 體	2区 SD201 下層	(3.2)	(3.2)	乳茶色	やや粗	良好	内外面ナデ。	1/3 反転
188	土器器 體	2区 SD201 下層	(10.7)	(10.7)	灰茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。底面内面ハケ。	1/4 反転
189	土器器 體	2区 SD201 下層	(11.4)	(11.4)				口縁部ナデ。底面外側ナデ後ハケ。	1/3 反転
190	土器器 體	2区 SD201 下層	(19.6)	(19.6)	乳茶褐色	やや粗 1~ 2mmの砂粒多 い	良好	口縁部～口縁基内面ナデ。外側口縁部下半～肩 部ヨコナデ。肩部内面ナデ後ハケ。 口縁部保有。	1/4 反転
191	土器器 體	2区 SD201 下層	(14.3)	(14.3)	明乳茶色	やや粗	良好	口縁部外側ヨコナデ。内面ハケ。	1/5 反転
192	土器器 體	2区 SD201 下層	(14.3)	(14.3)	明茶色	やや粗	良好	口縁部外側ハケ。口縁端部～口縁部内面ヨコナデ。 口縁部下位内面ハケ。肩部内面ナデ。	1/4 反転
193 7	土器器 體	2区 SD201 下層	(18.2)	(18.2)	乳灰茶色	やや粗	良好	口縁部ナデ。器部ヨコナデ。頭部外側ハケ残る。	3/4 一部反転

出土地番号 採取番号	器種	出土地点	母地(?) 保有	日付 年月日	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	参考
194	土師器 壺	2区 SD201 下層	(20. 2)	明乳茶色	やや粗	良好	口縁部彫刻目。口縁部外面ナゲ、内面ヘラミガキ。	1 / 4 反転	
195	土師器 壺	2区 SD201 下層	(21. 6)	灰茶色	やや粗 多量に含む	良好	口縁部ハケ。口縁部下位外面ヨコナデ。腹部内面 ヘラナデでハケ残る。	3 / 4 一部反転	
196	土師器 壺	2区 SD201 下層	(19. 3)	明茶褐色	密 1~5mm の砂粒多く含む	良好	口縁部ヨコナデで、外腹ハケ、内面指痕残る。 肩部外側ナゲ後ハケ、内面ケズリでハケ、柄オサ 工残る。	1 / 3 は完全形 一部反転	
197	土師器 壺	2区 SD201 下層	(17. 3)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。	1 / 8 反転	
198	土師器 壺	2区 SD201 下層	(16. 4)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部一帯外腹外面ヨコナデ。腹部内面ナデ。 外腹黒度有り。	極小 反転	
199	土師器 壺	2区 SD201 下層		乳茶色	やや粗	良好	外腹面ヨコナデ。 口縁部内面塗ぬり。	1 / 4 反転	
200	土師器 壺	2区 SD201 下層	(27. 9)	茶褐色	密 1.5mm以下 の砂粒を多量 に含む	良好	口縁部外面ハケ。口縁部~口根部内面ヨコナデ。 腹部ハケ後ナデ。	1 / 3 反転	
201	土師器 壺	2区 SD201 下層	(11. 4)	淡灰茶色	やや粗 2mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	外腹ナデ。	1 / 4 反転	
202	土師器 壺	2区 SD201 下層	(17. 4)	淡灰茶色	やや粗 2.5mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外腹ハケ、 内面ナデ。肩部内面ヘラケズリ。	1 / 2 反転	
203	土師器 壺	2区 SD201 下層	(15. 3)	淡茶褐色	密	良好	口縁部ヨコナデ。体部外腹ハケ。	極小 反転	
205	劣生 壺	2区 SD201 下層	(16. 0)	外: 灰褐色 内: 黄褐色	密 1mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部ヨコナデ。底体部上半外腹タキ、内腹ハ ケ、外腹側有り、内腹黒度有り。	1 / 4 反転	
206	劣生 壺	2区 SD201 下層	(10. 6)	黄茶色	やや粗	良好	外腹面ナデで体部内面工具痕有り。	1 / 5 反転	
207	土師器 壺	2区 SD201 下層	(13. 7)	こげ茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。口縁接合部外腹ハケ。底体部上 半外腹タキ、内面ヘラケズリ。	1 / 2 反転	
209	土師器 壺	2区 SD201 下層	(16. 0)	淡褐灰色	やや粗 1.5mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。肩部外腹タキ、 内面ハケ、外腹堆附着。	1 / 2 反転	
210	土師器 壺	2区 SD201 下層	(12. 2)	淡褐褐色	密 1mm以下 の砂粒を含む	良好	口縁部外面ヨコナデ。内面ナデ。 外腹堆附着。	極小 反転	
231	土師器 壺	2区 SD201 下層	(15. 2)	赤褐色~ 黒色	やや粗	良好	口縁部外腹ハケ、内面ナデ。肩部外腹ハケ、内面 ヘラケズリ。外腹堆附着。	1 / 8 反転	
232	土師器 壺	2区 SD201 下層	(15. 1)	暗乳茶色	やや粗	良好	口縁部外腹ハケ、内面ヨコナデ。腹部~肩部外腹 ヨコナデ、内面ヘラケズリ。	1 / 4 反転	
233	土師器 壺	2区 SD201 下層	(16. 3)	淡茶色	やや粗	良好	口縁部外面ハケ、内面ヨコナデ。腹部ヨコナデ。	1 / 8 反転	
234	土師器 壺	2区 SD201 下層		淡灰茶色	やや粗	良好	注口部か? ナデ。		
235	土師器 壺	2区 SD201 下層	後追 9. 6 前追 6. 3	白乳茶色	やや粗	良好	ナデ。		
236	土師器 壺	2区 SD201 下層	(13. 8)	淡茶褐色	密 1mm以下 の砂粒少量化 じ	良好	口縁部~体部密なヘラミガキ。	1 / 4 反転	
239	土師器 壺	2区 SD201 下層	(14. 8)	淡灰茶色	密	良好	口縁部外腹ヨコナデ、内腹ハケ。底体部上半外腹 ハケ、内腹ナデ。口縁部外腹に堆附着有り。	1 / 8 反転	
240	土師器 壺	2区 SD201 下層	10. 3 7. 4	淡茶色	密	良好	口縁部~底体部青なヘラミガキ。底体内面ナデ。	完形	

遺物番号 部類番号	器種	出土地点	古墳名	口径	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	西面 各
241	土器器 皿	2区 SD201 下層		(10.2)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部一体部外面へラミガキ。体部内面ナデ。	1／5 反転
242	土器器 皿	2区 SD201 下層		(11.6)	橙褐色	密	良好	口縁部～肩部外側ヨコナダ後ヘラミガキ。内面ナデ。体部外側ヘラミガキ。内面ナデ。	1／3 反転
248	土器器 皿	2区 SD201 下層	最大径 (11.7)	(10.7)	乳黃茶色	やや粗	良好	口縁部～肩部外側ヨコナダ。内面ナデ。体部外側ナデ。内面ハケ。肩部外面にハケ残る。	1／5 反転
249	土器器 皿	2区 SD201 下層		(10.6)	灰褐色	密	良好	口縁部～底底部へラミガキ。 肩部外面指痕残る。	1／4 反転
251	土器器 皿	2区 SD201 下層		(16.0)	乳茶色	密	良好	口縁部～外側、体部外面上半ヨコナダ。下半ハケ。口縁部内面～体部内面上半ナデ。	1／5 反転
252	土器器 皿	2区 SD201 下層		(15.1)	淡乳茶色	密	良好	口縁部ヨコナダ。体部上位外側ハケ、内面ハケタ メリ。	1／5 反転
253	土器器 皿	2区 SD201 下層		(17.4)	淡乳茶色	やや粗	良好	口縁部～外側ヨコナダ、内面ナデ。体部外面上 半ハケ、内面ナデ。	1／8 反転
254	土器器 皿	2区 SD201 下層		(15.4)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部一体部へラミガキ。黒斑有り。	1／5 反転
255	土器器 皿	2区 SD201 下層		(15.0)	淡乳茶色	密	良好	口縁部～底底部へラミガキ。	1／4 反転
256	土器器 皿	2区 SD201 下層		(15.6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部～体部ヨコナダ後密なヘラミガキ。	1／5 反転
257	土器器 皿	2区 SD201 下層		(16.8)	明茶色	やや粗	良好	口縁部～体部へラミガキ。口縁部ヨコナダ。	口縁部欠損 反転
258	土器器 皿	2区 SD201 下層	8	(12.35) 4.3	乳黃茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナダ。底部外側へラケタリ、内面ナデ 後ヘラミガキ。	2／3
259	土器器 皿	2区 SD201 下層		(19.6)	乳茶色	やや粗	良好	口縁部ヨコナダ。体部外側ハケ、内面ヨコナダ。	瓶小 反転
260	土器器 皿	2区 SD201 下層	8	(21.8)	灰褐色	密 1mm以下 の砂粒多く含む	良好	口縁部外側ヨコナダ、内面ナデ。体部外側ヘラミ ガキ、内面ナデ。	1／3 反転
261	土器器 皿	2区 SD201 下層		(23.0)	米褐色 内面黒點	密 1mm以下 の砂粒微量に含む	良好	口縁部ヨコナダ。体部ナデ。	1／5 反転
262	土器器 器台	2区 SD201 下層		13.6	乳橙褐色	密	良好	口縁部上位ヨコナダ。下位ナデ。	脚部3／4
263	土器器 皿	2区 SD201 下層			肌色	密	良好	外圓錐状状。内面ヘラミガキ。	瓶小
264	土器器 高杯	2区 SD201 下層		(9.0)	灰茶褐色	密	良好	杯部外面ヘラミガキ。内面ナデ。	1／4 反転
265	土器器 高杯	2区 SD201 下層			淡黃茶色	やや粗	良好	杯部ヘラミガキ。内面に敷状のヘラミガキ有り。	1／3
266	土器器 高杯	2区 SD201 下層			明茶色	やや粗	良好	杯部外面ヨコナダ後ヘラミガキ。内面ヘラミガキ。	1／4 反転
267	土器器 高杯	2区 SD201 下層		(15.8)	淡乳褐色	密	良好	杯部外側ヨコナダ後ヨコナダ。内面ハケ後放射状の堆 積ヘラミガキ。脚部外側ヘラミガキ。内面シボ リ有り。	杯部1／4
268	土器器 高杯	2区 SD201 下層		底径 10.0	淡乳茶色	やや粗	良好	脚部外側ヘラミガキ。内面ナデ。杯部ヨコナダ。	脚部穴存
269	土器器 器台	2区 SD201 下層		底径 (9.6)	淡乳褐色	密	良好	脚部ナデ。	脚部完存

遺物番号 回収年月	器種	出土地点	出土日(西暦)	通 総	色調	動 向	成	技法・特徴の特徴	考 査
270	土器器 器台	2区 SD301 下層	底径(12.6)	淡乳褐色	青	良好		口縁下段～脚部外側へラミガキ。内面ナデ。	3./4
271	土器器 手造り鉢	2区 SD301 下層		淡灰茶色	青	良好		覆い部外側ハケ後ラミガキ、内面ナデ。 覆い部端部前面爆付着。	覆い部 1/2
272	土器器 皿	3区 SE301	12.1	淡茶色	青	良好		口縁部横へラミガキ後縫へラミガキ。	口縁部充存
273	土器器 壺	3区 SE301	最大径21.8	乳灰茶色	青	良好		口縁部外側～口部外面へラミガキ。体部外側タケ キ半径ハケ。底部外面へラミガキ。底体部内面上半 ハケ。下半指痕有り。	口縁部 1./2次損
274	土器器 壺	3区 SX301	(12.2)	灰茶～墨 褐色	青	良好		口縁部ヨコナデ後ラミガキ。肩部ナデ後ラミ ガキ。	1./5 反転
275	土器器 壺	3区 SX301	(8.8) 最大径10.3	淡灰茶色	青 1.5mm以上 の砂粒少量含む	良好		口縁部外側ハケ後ヨコナデ、内面ハケ。肩部外側 ハケ、体部～底部外面へラケズリ。	ほぼ完形
276	土器器 皿	3区 SX301	8.8 9.3	墨灰色～ 淡灰茶色	青 1.5mm以下 の砂粒微量に 含む	良好		口縁部ナデ。底体部外側ハケ、内面ナデ。	3./4
277	土器器 皿	3区 SX301		乳白色	やや粗	良好		口縁部外面下半ヨコナデ。	底体部 2/3
278	土器器 皿	3区 SX301		淡灰灰褐色	青 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好		口縁部ヨコナデ。底体部外面ハケ、内面ナデ。黑 斑有り。	口縁部 1./4次損
279	土器器 皿	3区 SX301	最大径 (10.0)	乳茶色	やや粗	良好		口縁部ヨコナデ。肩部外側ハケ。体部外側ハケ、 内面へラケズリ。	1./3 反転
280	土器器 壺	3区 SX301	8.5 7.5 最大径 8.6	淡灰灰褐色	やや粗 3mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好		口縁部外側ヨコナデ、内面ハケ。底体部外側ハケ、 内面ナデ。	ほぼ完形
281	土器器 皿	3区 SX301	(7.2)	淡灰灰褐色	青 1.5mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好		口縁部外面ヨコナデ後ハケ、内面ハケ。肩部外側 ヨコナデ後ハケ、内面ナデ。体部外側へラケズリ、 内面へラケズリ。	1./2 反転
282	土器器 皿	3区 SX301	9.4 10.1 最大径(10.6)	乳茶色	やや粗	良好		口縁部ヨコナデ。底体部外側下半ハケ。	3./4
283	土器器 皿	3区 SX301	(11.6)	灰茶色	やや粗	良好		口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。	1./4 反転
284	土器器 皿	3区 SX301	(6.8) 9.65 最大径11.4	淡灰茶色	青 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好		口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。底体部ナデ。 底部外面に黒斑有り。	口縁部 1./2次損
285	土器器 皿	3区 SX301	(8.8)	乳茶色	やや粗	良好		体部外側ハケ、内面へラケズリ。	3./4 反転
286	土器器 皿	3区 SX301	(7.9) 8.2 最大径 9.9	淡灰茶色	青 1mm以上 の砂粒を多量 に含む	良好		口縁部ヨコナデ。底体部ナデ。	口縁部 3./4次損
287	土器器 皿	3区 SX301	(10.0) 9.3 最大径 9.6	暗灰茶色	やや粗	良好		口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。底体部外側ハケ、 内面へラケズリ。	
288	土器器 皿	3区 SX301	(8.2)	灰茶色	青 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好		口縁部外面～底体部上半外側ナデ。口縁部内面～ 底体部上半内面へラケズリ。	2./3
289	土器器 皿	3区 SX301	(8.8) 9.3 最大径(10.1)	明灰黃色	青 1-4mm	良好		口縁部ヨコナデ。底体部外側後ハケ、内面へ ラケズリ。	ほぼ完形
290	土器器 皿	3区 SX301		乳灰灰褐色	青	良好		肩部ナデ。内面指オサエ。体部～底体外側ハケ、 内面へラケズリ。	口縁部欠損
291	土器器 皿	3区 SX301	7.6 9.8 最大径10.9	乳灰灰褐色	やや粗 1.5mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好		口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。底体部外側ナデ、 内面へラケズリで中位へラミガキ。	ほぼ完形
292	土器器 皿	3区 SX301	9.0	乳灰灰褐色	青 1mm以上 の砂粒少量含 む	良好		口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。肩部外側ハケ、 体部～底部外側へラケズリ、底体部内面ナデ。	1./2

遺物番号 図版番号	器種	出土地点	量(g) 重(目)	径 横 高	色 調	形 状	成 分	特徴・形態の特徴	残 存 状 況
293 8	土師器 壺	3区 S X301	8.3 10.5 最大径10.5	乳灰褐色	密 1mm前後 の砂粒多量に 含む	直好		口縁部外側ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ。 肩部～体部外側ハケ後ナデ。肩部内面ヘラケズリ。 体部内面～底部ナデ。	口縫部 1／4欠損
296	土師器 壺	3区 S X301	(8.6)	乳灰色	直	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面上平ヨコナデ、下半ナ デ。底部基上半外側ナデ、内面ハケ後ナデ。	1／4 反転
298	土師器 壺	3区 S X301	(9.0)	乳灰色	直	良好		口縫部外側ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。肩部外側 ハケ後ナデ、内面ナデ。体部外側ヘラケズリ、内 面ナデ。	2／3 反転
299	土師器 壺	3区 S X301	(9.4)	淡褐色	直 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ナデ。肩部外側ハケ、 体部外側ヘラケズリ。肩部～体部内面ナデ。	反転
300	土師器 壺	3区 S X301	(7.6)	基灰褐色	直 1mm以下 の砂粒を少量 に含む	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ナデ。底部基上半外側 ハケ；内面ヘラケズリ。	1／2 反転
301	土師器 壺	3区 S X301		乳黄褐色	やや粗	良好		肩部ヨコナデ。体部～底部外側ハケ、内面ヘラケ ズリ。	底部 2／3
302 8	土師器 壺	3区 S X301	(5.3) 6.2 最大径 6.4	淡灰褐色	やや粗 2mm 以下の砂粒を 多量に含む	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ナデ。底部基上半外側 ハラケズリ、内面ナデ、下半ナデ。	口縫部 1／2欠損
303 8	土師器 壺	3区 S X301	(5.6) 6.5 最大径 6.4	淡灰褐色	やや粗 1mm 以下の砂粒を 微量に含む	良好		口縫部内面ハケ。肩部外側ハケ、体部～底部外側 ナデ。底部内面ナデ。	口縫部 1／4欠損
304 8	土師器 壺	3区 S X301	(6.0) 8.4 最大径 7.0	基灰褐色	やや粗	良好		口縫部ヨコナデ。底部外側ヘラケズリ。	口縫部 1／3欠損
305	土師器 壺	3区 S X301	(8.3) 8.5 最大径 9.4	淡灰褐色	直 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好		口縫部ヨコナデ。底部外側ハケ、内面ナデ。 底部に黒斑有り。	口縫部 3／4欠損
306 8	土師器 壺	3区 S X301	(8.2) 8.5 最大径10.4	淡灰褐色	直 1mm以下 の砂粒を微量 に含む	良好		口縫部ヨコナデ。底部基下半外側ハケ、内面指オ サエ。	口縫部 ほぼ完形
307	土師器 壺	3区 S X301	(8.5) 8.5 最大径(10.2)	基灰褐色	直 1.5mmの以 上の砂粒を少 量含む	良好		口縫部ヨコナデ。肩部外側ナデ、内面ヘラケズリ 後ナデ。体部～底部ヘラケズリ。	2／3
308 8	土師器 壺	3区 S X301	13.3	乳黄褐色	直	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ハケ。肩部外側ハケ、 内面ヘラケズリ。	口縫部底存 ほぼ完形
309	土師器 壺	3区 S X301	(13.8)	淡乳茶色	やや粗	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ハケ後ヨコナデ。 肩部外側ナデ、内面ヘラケズリ。	1／3 反転
311 8	土師器 壺	3区 S X301	11.6 最大径16.6	乳黄色	やや粗	良好		口縫部ヨコナデ。肩部外側ヘラミガキ、内面指頭 供有り。背部外側ナデ、内面ナデ。	1／2
312 9	土師器 壺	3区 S X301	(10.8) 15.3 最大径15.3	乳灰褐色	直 1mm前後 の砂粒多く含 む	良好		口縫部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。体部～底部外 側ナデ、内面ヘラケズリ。	ほぼ完形 3／4
313 9	土師器 壺	3区 S X301	11.4 17.6 最大径16.75	淡乳茶色	やや粗	良好		口縫部ヨコナデ。肩部～体部外側ハケ、内面ナデ。 底部ナデ。外側に黒斑有り。	ほぼ完形
314	土師器 壺	3区 S X301	(14.2) 最大径(25.3)	乳黄色	やや粗	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ハケ。指頭ヨコナデ。 底部基上半外側ハケ、内面ヘラケズリ。外面に黒 斑有り。	1／4 反転
315 9	土師器 壺	3区 S X301	(13.8) 24.2 最大径(23.2)	淡乳茶色	やや粗	良好		口縫部ハケ。底部外側ハケ、内面ヘラケズリ。 体部外側無斑有り。	1／2
316	土師器 壺	3区 S X301	(15.8) 最大径(16.6)	淡乳黄色	やや粗	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ハケ後ヨコナデ。底作 部外側ハケ、内面ヘラケズリ。	3／5 反転
317	土師器 壺	3区 S X301	(16.9) 最大径(30.2)	淡乳茶色	やや粗	良好		口縫部ヨコナデ。肩部内面指頭オサエ。底部外側 ハケ、内面ヘラケズリ。	1／3 反転
318	土師器 高杯	3区 S X301	(22.4)	赤茶色	やや粗	良好		口縫部外側ヨコナデ、内面ハケ後ナデ。口縫下部 ハケ残る。体部ナデ。	1／4 反転
319 9	土師器 高杯	3区 S X301	17.95 11.8 10.5	赤褐色	直	良好		杯部ハケ後ナデ。脚柱部～底部外側ナデ、内面ハ ケ。	口縫部 1／4欠損

遺物番号 区分	器種	出土地点	柱径 (cm)	口径 (cm)	色調	胎土	焼成	技法・形態の特徴	参考
320	土師器 高杯	3区 S X301		(17.7)	乳黄色	やや粗	良好	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	3 / 4
321	土師器 高杯	3区 S X301	底径(11.2)		乳黄色	やや粗	良好	脚柱部外周ヘラミガキ、内面ハケ。肩部ヨコナデ。	2 / 3
322	土師器 高杯	3区 S X301	底径 12.0		明褐色	素 心	良好	体部下半ハケ後ナデ。脚柱部外周ヘラミガキ、内面ナデ。根部外折ナデ、内面ハケ。	口輪部 欠損
323	土師器 高杯	3区 S X301	底径 (9.3)		黄灰色	素	良好	脚柱部外周ヘラミガキ、内面ナデ。基部外周ハケ、内面ヘラケズリ。	2 / 3
324	土師器 钵	3区 S X301		(5.2)	乳黄褐色	素	良好	口縁部ナデ。体部外周ナデ、内面ヘラケズリ。底部外周ヘラケズリ。	1 / 5 反転
325	土師器 钵	3区 S X301		(45.9)	乳橙灰色	素	良好	口縁部ハケ後ヨコナデ。体部上位ナデ。	無小 反転

石製品・木製品観察表

遺物番号 区分	器種	出土地点	計量(cm)			備考
			長辺	短辺	厚さ	
326	砾石	2区 SD201 下層	10.9	8.7	3.2	使用面は1面。片端。
327	砾石	2区 SD201 下層	14.2	9.3	4.6	使用面は1面。砂岩。
328	砾石	2区 SD201 上層	7.6	3.6	2.0	使用面は4面。砂岩。
329	木製品	2区 SD201 上層	59.6	11.6	0.9	両端を長方彫に切り込む。両側部に棒円型の穿孔あり。
330	木製品 二叉脚	2区 SD201 上層	39.8	7.3	0.7	又ぐわの可能性もある。
331	木製品 9	2区 SD201 上層	16.9	13.2	1.6	縁辺は削取りされている。下辺は並れている。頂部は納穴に挿入するために凸状を成す。 椅子脚の脚踏か?

図 版



2区SD201遺物出土状況（南西から）



2区SD201北壁遺物出土状況（南から）



2区SD201東部遺物出土状況（北から）



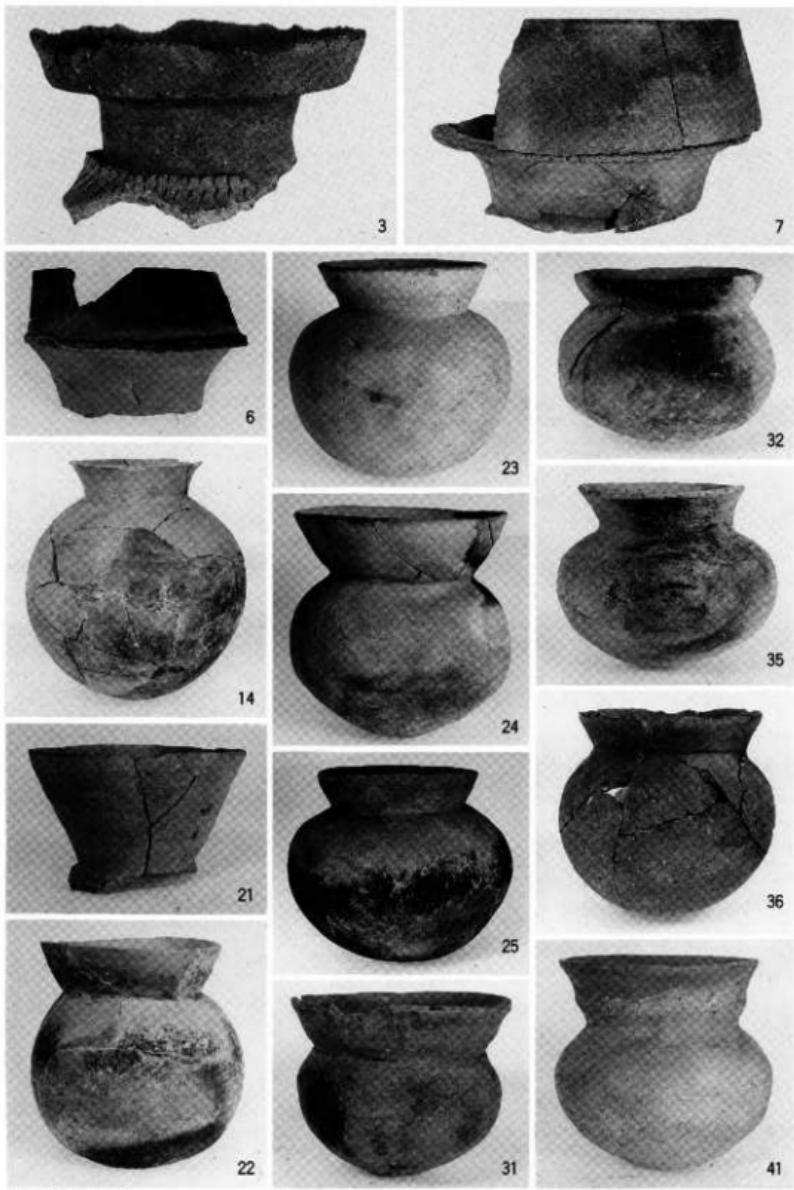
2区SD201中央遺物出土状況（北から）



3区全景（北から）



3区SE301（西から）



2区SD201上層



42



50



55



44



52



56



45



53



57



48



54



58



59



116



125



60



117



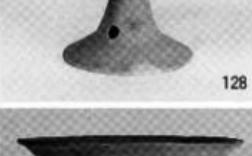
127



67



121



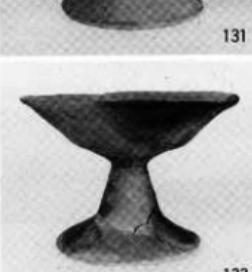
128



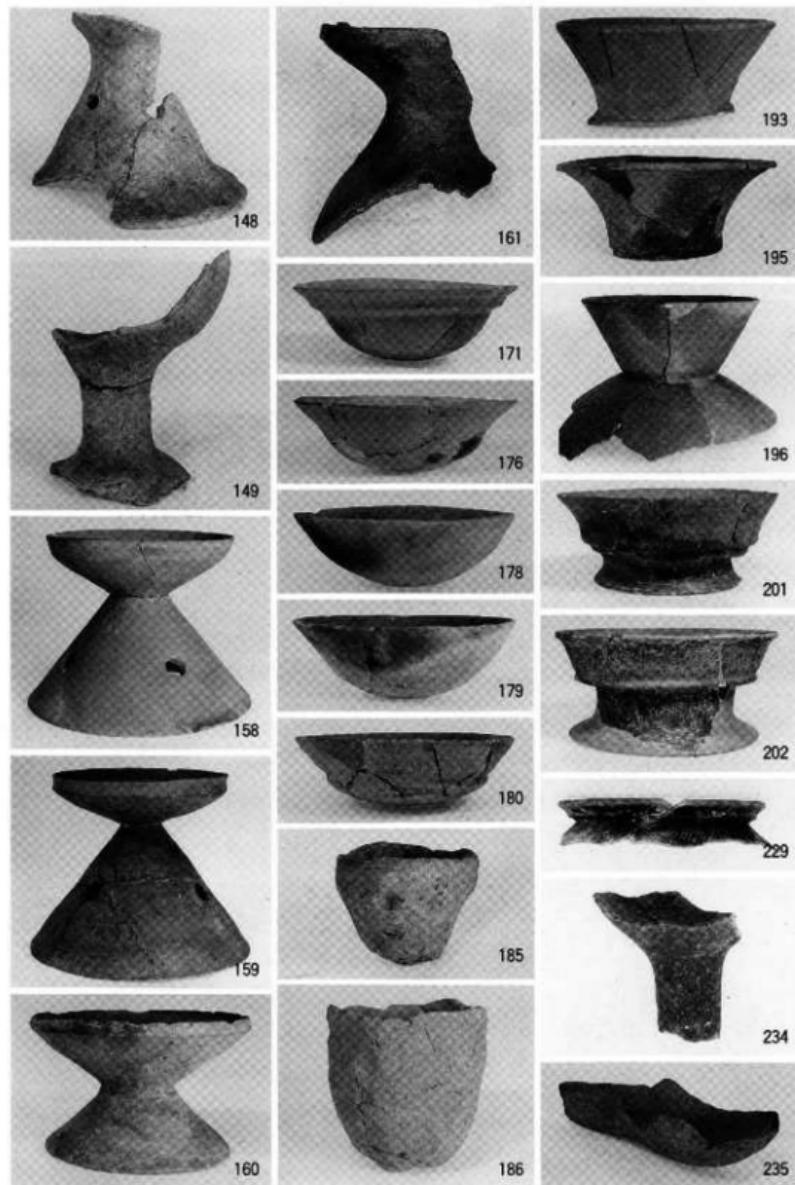
115



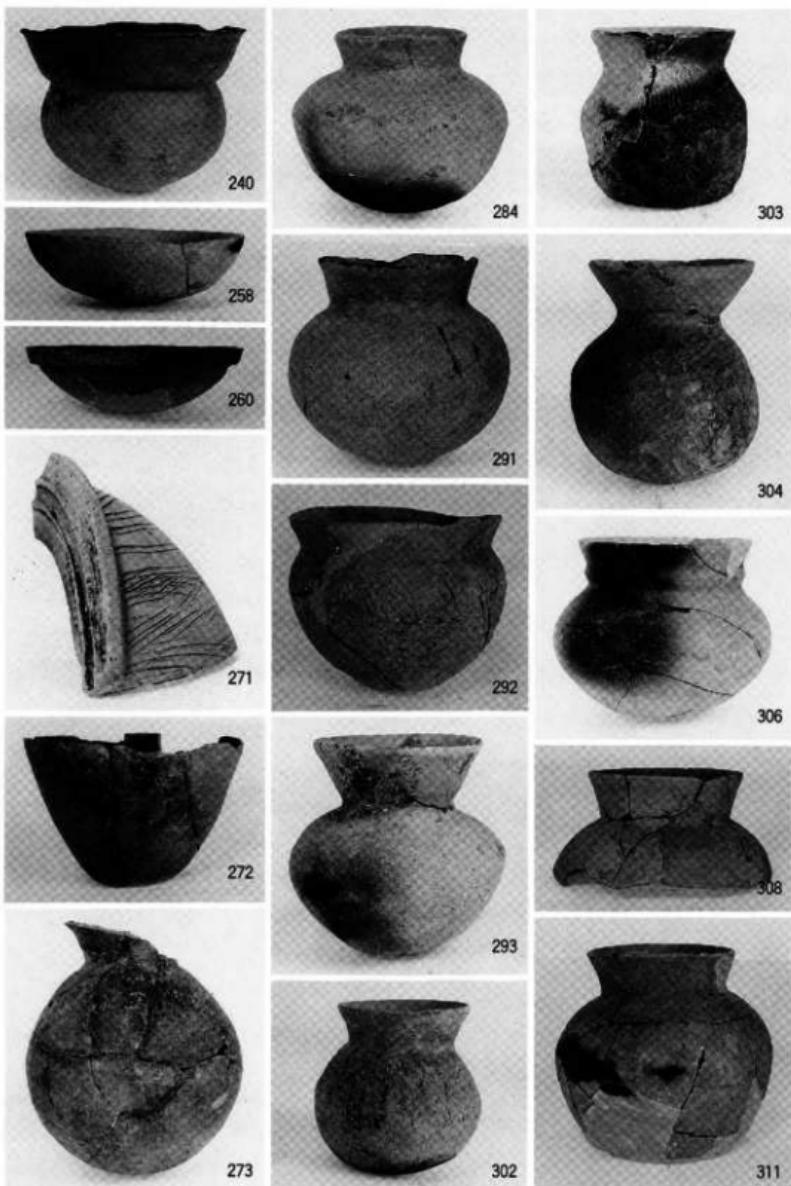
122



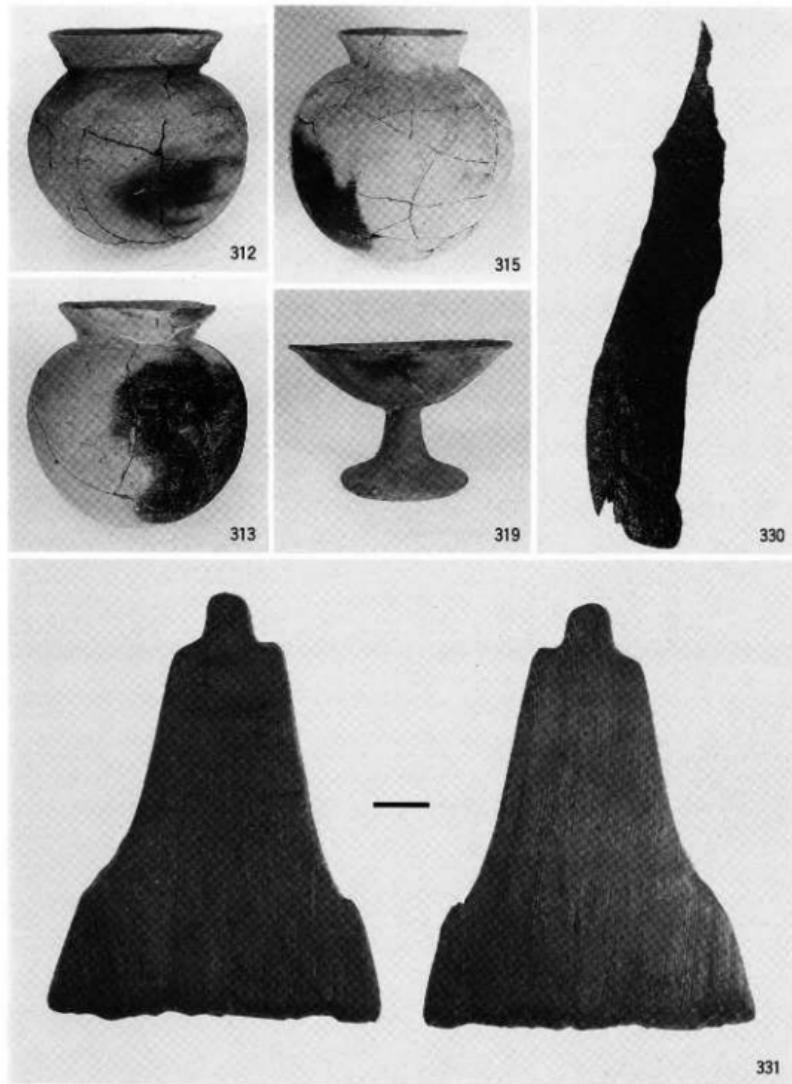
131



2区SD201上層（148～186）・下層（193～235）



2区SD201下層 (240~271)、3区SE301 (272・273)・SX301 (284~311)



3区SX301 (312~319)、2区SD201上層 (330・331)

(財)八尾市文化財調査研究会報告36

太子堂遺跡

<第1次調査・第2次調査報告書>

発行 平成5年6月

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大阪府八尾市渚水町1丁目2番1号

TEL(0729)94-4700

印刷 (株)近畿印刷センター

